

# Remark Quick Stats<sup>®</sup>

For Remark Office OMR 8

## ユーザーズガイド

日本語版

株式会社ハンモック

## 改版履歴

版	日付	内容
初版	2013 年 09 月 18 日	新規作成

# 目 次

---

目 次.....	1
<b>REMARK QUICK STATS の使用 .....</b>	<b>5</b>
1.1 概要 .....	5
1.2 必要なシステム .....	5
1.3 REMARK QUICK STATS のインタフェース .....	6
1.3.1 Remark Quick Stats の表示.....	6
1.3.2 メニュー項目 .....	6
1.4 レポートの実行 .....	10
<b>テストの採点.....</b>	<b>12</b>
2.1 簡易採点の使用 .....	12
2.2 採点ウィザードの使用 .....	13
2.2.1 [作業の開始] ウィンドウ .....	15
2.2.2 [回答キー] ウィンドウ .....	16
2.2.3 [質問のプロパティ] ウィンドウ.....	18
2.2.4 [学習目標] ウィンドウ .....	20
2.2.5 [全体評価スケール] ウィンドウ.....	21
2.2.6 [スケールスコア] と [学習目標のスケールスコア] ウィンドウ .....	22
2.2.7 [複数回答キー] ウィンドウ .....	25
2.2.8 [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウ .....	28
2.2.9 [選択のレビュー] ウィンドウ .....	30
2.3 採点レポート.....	30
2.3.1 レポート 101 - 生徒統計レポート .....	31
2.3.2 レポート 102 - 比較評価レポート .....	34
2.3.3 レポート 103 - クラス頻度分布レポート .....	37
2.3.4 レポート 104 - テスト統計レポート .....	38
2.3.5 レポート 105 - 生徒の回答レポート .....	42
2.3.6 レポート 106 - 要約テストレポート .....	45
2.3.7 レポート 107 - 評価分布レポート.....	49
2.3.8 レポート 201 - 詳細項目分析レポート.....	52
2.3.9 レポート 203 - 項目分析グラフレポート .....	55
2.3.10 レポート 204 - 要約項目分析レポート.....	57
2.3.11 レポート 207 - テスト項目統計レポート .....	59
2.3.12 レポート 208 - クロス集計レポート .....	61
2.3.13 レポート 301 - 生徒評価レポート.....	63
2.3.14 レポート 401 - 項目別の回答レポート.....	68
2.3.15 レポート 402 - 回答者別の回答レポート .....	71
<b>調査結果の作表 .....</b>	<b>74</b>
3.1 簡易調査の使用 .....	74
3.2 調査ウィザードの使用 .....	75

3.2.1 [作業の開始] ウィンドウ .....	75
3.2.2 [質問のプロパティ] ウィンドウ.....	76
3.2.3 [分析グループ] ウィンドウ.....	77
3.2.4 [質問の重要度] ウィンドウ.....	78
3.2.5 [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウ .....	78
3.2.6 [選択のレビュー] ウィンドウ .....	80
3.3 調査レポート.....	81
3.3.1 レポート 202 –詳細項目分析レポート.....	81
3.3.2 レポート 203 –項目分析グラフレポート.....	84
3.3.3 レポート 204 –要約項目分析レポート.....	86
3.3.4 レポート 205 –分析グループレポート.....	88
3.3.5 レポート 206 –項目統計レポート.....	90
3.3.6 レポート 208 –クロス集計レポート .....	94
3.3.7 レポート 209 – 比較項目レポート.....	95
3.3.8 レポート 210 –質問の平均値レポート.....	98
3.3.9 レポート 211 –分析グループレポート.....	101
3.3.10 レポート 401 –項目別回答レポート .....	104
3.3.11 レポート 402 – 回答者別の回答レポート.....	107
<b>基本設定とプロパティ .....</b>	<b>110</b>
4.1 レポートの全般的な基本設定 .....	110
4.1.1 全般の基本設定 .....	110
4.1.2 レポート表示の基本設定.....	111
4.1.3 デフォルトレポートの基本設定 .....	111
4.1.4 デフォルトの評価ベンチマーク .....	112
4.1.5 全体の評価スケールの基本設定 .....	112
4.1.6 学習目標の評価スケールの基本設定.....	113
4.1.7 全体のスケールスコアと学習目標のスケールスコア.....	113
4.1.8 小数点の基本設定.....	118
4.1.9 データと結果のエクスポート.....	118
4.1.10 レポート基本設定のインポートとエクスポート.....	119
4.2 レポートヘッダーのプロパティ.....	119
4.3 グラフのプロパティ.....	121
4.3.1 タイトル .....	121
4.3.2 外観.....	122
4.3.3 軸.....	122
4.3.4 プレビュー.....	123
4.3.5 横棒グラフのレイアウト .....	123
<b>レポートデータの操作.....</b>	<b>124</b>
5.1 データの並べ替え .....	124
5.2 データのフィルタリング.....	125
5.3 レポートとデータの印刷.....	127
5.4 レポートの保存.....	128
5.5 レポートのエクスポート.....	128
5.5.1 レポートを PDF 形式にエクスポートする .....	130
5.5.2 レポートを HTML 形式にエクスポートする.....	131
5.5.3 レポートを RTF または TIF 形式にエクスポートする.....	132

5.5.4 レポートをテキスト形式にエクスポートする .....	132
5.5.5 評価結果を成績表プログラムにエクスポートする .....	133
5.5.6 評価結果をテスト項目データとしてエクスポートする .....	139
5.5.7 数値データと結果のエクスポート .....	139
5.5.8 テキストデータと結果のエクスポート .....	140
5.6 レポートの E メール送信 .....	141
5.6.1 Eメールのセットアップ .....	142
5.6.2 Eメールを用いたレポートファイルの送信 .....	144
5.7 レポートバッチウィザード .....	147
5.8 レポートを開く .....	150
5.9 スクリーンキャプチャ .....	150



# Remark Quick Stats の使用

---

## 第 1 章

### 1.1 概要

Remark Quick Stats は、調査結果の作表やテストの成績評価に使用する分析パッケージです。ソフトウェアには数種類の標準レポートがあります。レポートをカスタマイズすると、タイトル、色、フォント、グラフィックにユーザ指定のものを使用できます。

Remark Quick Stats は、Remark Office OMR をインストールする際に自動的にインストールされます。

この章では、次のような項目について説明します。

- 必要なシステム(1.2 項)
- Remark Quick Stats のインタフェース(1.3 項)
- レポートの実行(1.4 項)

### 1.2 必要なシステム

Remark Quick Stats を実行するために必要最低限のシステムは、次のとおりです。

- プロセッサの処理速度が 1 GHz 以上のパーソナルコンピュータ
- Windows 32/64-bit オペレーティングシステム : Windows XP SP3、Windows Vista SP2、Windows 7 SP1、Windows 8
- 1 GB 以上の RAM
- 1 GB 以上の空きディスク容量
- CD-ROM ドライブ(インストールのため)
- 解像度 1024x768 以上、32 ビットカラー以上のスクリーン/モニター
- マウスなどのポインティングデバイス
- サポートされているスキャナ(推奨)
- Windows がサポートするプリンタ(オプション)

## 1.3 Remark Quick Stats のインタフェース

### 1.3.1 Remark Quick Stats の表示

Remark Quick Stats には、レポートとデータという 2 種類の表示領域があります。レポート表示領域では、レポートの表示、印刷、保存を行います。データ表示には、対応するレポートを表示するためのデータのコピーが表示されます。

ウィンドウの左側にはタスクペインが表示され、その時点で使用できるオプションがそこに表示されます。レポート表示領域には、使用できるレポートが表示されます。データ表示領域には、エクスポートや並べ替えなど、使用できるオプションがリスト表示されます。どちらの表示にも、前のリストに戻る [戻る] ボタンがあります。リンクをマウスでクリックすると、オプションがアクティブになります。タスクペインにあるオプションのほとんどは、対応するメニューまたはツールバーボタンにも同じ項目があります。

### 1.3.2 メニュー項目

Remark Quick Stats のメニュー項目を、以下の各項で説明します。各機能については、このユーザズガイドの後の章でさらに詳しく説明します。

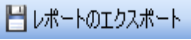


#### 1.3.2.a [ファイル] メニュー

[ファイル] メニューの項目は、ファイルの操作に使用します。この操作には、ファイルの作成、編集、開く、閉じる、保存、表示、印刷があります。

レポート表示領域:



ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	開く (Ctrl + O)	既存のレポートを開いて、表示または印刷できるようにします。このオプションは実際のレポートのみを含み、それに対応するデータまたは回答キーファイルは含みません。
	保存 (Ctrl + S)	現在のレポートを、新規ファイルまたは既存のファイルに保存します。[保存] ボタンをクリックすると、レポートファイルが作成されます。また、すでにファイルを保存していた場合は現行のファイルにレポートを上書き保存します。このオプションは実際のレポートのみを含み、それに対応するデータまたは回答キーファイルは含みません。






ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	名前をつけて保存 (F2)	既存のレポートファイルを別名で保存します。そのファイルを保存するパス名を変更してもかまいません。このオプションは実際のレポートのみを含み、それに対応するデータまたは回答キーファイルは含みません。
	レポートのエキスポート	現在のレポートを、PDF、TIF、RTF、XLS、HTML、TXT のいずれかの形式でエキスポートします。
	印刷 (Alt + P)	現在のレポートを印刷します。
	E メール (Alt + F + M)	現在のレポート、テキストもしくは数値データ、 <b>Remark Quick Stats</b> ファイルをメール送信します。
	プリンタの設定	プリンタを選択し、印刷パラメータを設定します。
	終了 (Alt + F4)	<b>Remark Quick Stats</b> を終了します。

### 1.3.2.b [編集] メニュー

[編集] メニューの項目を使用すると、コピーや検索など **Windows** の共通機能を実行できます。また、[編集] メニューからデータのフィルタリングや並べ替えもできます。




ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	コピー (Ctrl + C)	データを複製して移動させることが簡単にできます。テキストまたは質問の選択部分を、ドキュメントの 1 箇所から(または別のドキュメントから)コピーして、ドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
	検索 (Ctrl + F)	検索するテキストを入力するためのウィンドウが表示されます。 <b>Remark Quick Stats</b> は、入力されたテキストを、カーソル位置から前方へ検索します。
	次を検索 (F3)	前回検索した項目の次の出現箇所を探します。それまで [検索] が選択されていなかった場合、または前回の検索で対象が見つからなかった場合、[次を検索] は選択できません。

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	フィルタ	特定の基準に基づいてデータを分析します。この機能は、データの特定のサブセットに基づいて結果を表示する場合に便利です。
 	並べ替え (データ表示領域のみ)	特定の質問に基づいて、データを昇順または降順で並べ替えます。



### 1.3.2.c [表示] メニュー

[表示] メニューを使用すると、表示するツールバーを選択したり、現在の表示内容をカスタマイズしたりすることができます。

レポート表示領域:

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	全画面表示 (F11)	レポートを全画面で表示し、多くの情報を確認できるようにします。
	ルーラー	レポートの上端にルーラーを表示して、レポートのサイズを確認できるようにします。
	ステータスバー	画面の下端に、現在進行中の操作のステータスを表示します。
	目次	レポートの左側に目次を表示し、レポート内部での移動をやすくします。
	ツールバー	標準のツールバーを表示するかどうかを指定します。
	テーマ	ソフトウェアのテーマを選択します。ツールバーに表示するアイコンを、大きなアイコンと小さなアイコンのどちらにするかも選択できます。




データ表示領域:

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	テキストデータ	データのコピーをテキスト形式で表示します。
	数値データ	統計計算に使用される数値表現のデータのコピーを表示します。

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	ステータスバー	画面の下端に、現在進行中の操作のステータスを表示します。
	ツールバー	標準およびデータのツールバーを表示するかどうかを指定します。
	テーマ	ソフトウェアのテーマを選択します。ツールバーに表示するアイコンを、大きなアイコンと小さなアイコンのどちらにするかも選択できます。

### 1.3.2.d [ツール] メニュー

[ツール] メニューの項目を使用すると、レポートオプションの設定、オプションのインポート/エクスポート、レポートの再実行ができます。

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
 採点ウィザード	採点ウィザード/ 調査ウィザード (Ctrl + W)	データの評価と作表のどちらを実行しているかに応じて、このメニューは採点ウィザードか調査ウィザードのどちらかを実行するオプションを表示します。
 調査ウィザード		
	レポートバッチ ウィザード (Ctrl + Q)	レポートバッチウィザードを表示します。このウィザードでは、複数のレポートを一度に表示/印刷/エクスポートし、また指定した基準に基づいてデータセットを自動的にフィルタリングすることができます。
 レポートプロパティ	レポートプロパティ(レポート表示領域のみ) (Ctrl + H)	各レポートの個別のプロパティを表示します。
	インポート設定 (F9)	別の場所にインストールした <b>Remark Quick Stats</b> から全般的なレポートの基本設定をインポートします。
	エクスポート設定 (F10)	全般的なレポートの基本設定を出力して、 <b>Remark Quick Stats</b> を実行している他のシステムにインポートできるようにします。

ツールバーボタン	プルダウン項目	説明
	スクリーンキャプチャ (Ctrl + T)	マウス操作で範囲を指定した部分のレポートのスクリーンキャプチャを取ることができます。採取したスクリーンキャプチャは <b>Windows</b> のクリップボードに置かれ、他のアプリケーションに貼り付けることができます。
	基本設定 (Ctrl + R)	全般的なレポートの基本設定を表示します。

### 1.3.2.e [ヘルプ] メニュー

**Remark Quick Stats** の使い方、特定のメニューやコマンドについてわからないことがある場合は、ここを参照してください。

注:ヘルプの内容は、状況に応じて変わります。**Remark Quick Stats** のいずれかのウィンドウがアクティブな時に **[F1]** を押すと、そのウィンドウに適したヘルプの文章が表示されます。

ツール	メニューのプルダウン項目	機能
	目次	<b>Remark Office OMR ヘルプファイル(Remark Quick Stats を含む)</b> の目次を表示します。
	バージョン情報	[バージョン情報] 画面を表示します。ここには、 <b>Principia Products</b> についての情報と、現在実行中のソフトウェアのシリアル番号とバージョンが表示されます。

## 1.4 レポートの実行

採点または調査機能を使用してデータを分析すると（次章と次々章で説明します）、

**Remark Quick Stats** が起動されます。それぞれのレポートを表示するには、タスクペインで [レポートの表示] リンクをクリックします。次に、表示したいレポートを示すリンクをクリックします。レポートの中には別のウィンドウに表示され、そのレポートに対して特定の評価基準を選択できるものがあります。

ヒント:レポートの中には、他のレポートよりもメモリを多く消費するものがあります。利用可能なレポートのリストを表示した時に名前の隣に赤い感嘆符が表示されているレポートは、メモリ消費量の高いレポートです。これらのレポートを実行する前に、この章で前述したシステム要件を満たしていることを確認してください。また、メモリ消費量の高いレポートを実行する際には、他のアプリケーションを終了させておくとうい良いでしょう。

特定のレポートを常に実行する場合は、[ツール | 基本設定 | デフォルトレポート]でデフォルトのレポートを設定することができます。

# テストの採点


## 第 2 章

**Remark Quick Stats** でテストの採点を行う方法としては、簡易採点と採点ウィザードの 2 通りがあります。簡易採点はデフォルトの設定を使用し、ユーザによる操作は最小限でテストの採点を行います。採点ウィザードを使用すると、採点処理をカスタマイズできます。

### 2.1 簡易採点の使用

簡易採点を使用すると、事前に指定した設定を用いてテストの採点をすぐに実行できます。簡易採点を使用する場合、**Remark Quick Stats** はデータグリッド内の最初のデータ行を回答キーとして使用し、**Remark Quick Stats** の基本設定で設定したソフトウェアのデフォルト採点オプションに基づいてデータを採点します。また、フォームテンプレートで設定したパラメータを使用して、採点を制御します。採点の制御とは、たとえば質問を採点するか、点数をどれだけ割り当てるか、質問のデータを分析回答者 ID としてレポート上に表示するか(たとえば、採点したテストを識別するための名前など)ということです。

簡易採点を使用するには

- 1 **Remark Office OMR Template Editor** で、試験のフォームテンプレートを作成します。採点を行う質問、割り当てる点数、分析回答者 ID フィールドなどの採点パラメータをかならず設定しておいてください。フォームテンプレートフィールドの設定方法がわからない場合は、ソフトウェア付属の **Remark Office** ユーズガイドを参照してください。フォームテンプレートを設定する時は、回答キーの割り当てについて考える必要はありません。この処理はフォームの処理中に行われます。
- 2 **Remark Office OMR Data Center** で、[読み取りウィザード]を使用するか、または既存のデータファイルを開いて試験を処理します。かならず、回答キーをデータの 1 行目として処理してください。回答キーは、ソフトウェア内で採点する各質問に対する正解をすべて保持している必要があります。簡易採点機能は、データセットの最初のレコードを自動的に回答キーと見なし、このデータに基づいて採点を行います。
- 3 試験を処理した後、[ツール] メニューを選択して、[分析]、[簡易採点] の順でクリックするか、または  **簡易採点** をクリックします。

データが採点され、[Remark Quick Stats] ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。レポートと統計計算については、2.4 項を参照してください。

## 2.2 採点ウィザードの使用

Remark Quick Stats の採点ウィザードを使用すると、採点処理をカスタマイズできます。

採点ウィザードでは、採点処理がどのデータセットを含むか、回答キー、主観採点および ID フィールド、テストの得点、評価スケール、スケールスコア、学習目標、ベンチマークスコア、レポートヘッダー、質問のうち何を取り入れて何を除外するか、などを指定できます。

また、採点パラメータをすべて含む採点回答キーを保存して、繰り返し利用できるようにすることもできます。採点ウィザードは、汎用のフォームテンプレートを使用し、かつ様々なテストに異なる回答キーを適用したい場合にも便利です。たとえば、汎用の問題を 50 問用意し、採点ウィザードを用いてテストの主題に応じて異なる回答キーを設定することができます(たとえば、1 つは米国史、1 つは世界史、1 つは地理学など)。

注: [スタート|すべてのプログラム|Remark Office OMR 8|Remark Office OMR Grade Wizard] をクリックすると、Remark Office OMR の外部からでも採点ウィザードにアクセスできます。採点ウィザードを独立して使用する方法についての詳細は、2.3 項を参照してください。

採点ウィザードを使用する際に選択できるオプションの概要を、次の表に示します。

オプション	説明
回答キー	回答キーは、グリッド行を選択するか、キーをスキャンするか、テキストキーをインポートするか、または回答キーを入力して取得できます。
質問のプロパティ	さまざまな質問のプロパティを、フォームテンプレートに影響を与えずに変更できます。たとえば、質問を採点するか、質問文、配点、正答、回答者 ID、データタイプなどがあります。
学習目標	学習目標(サブテストと呼ばれる場合もあります)は、試験問題の中の特定のサブセットについて生徒の知識をテストします。学習目標を作成し、次にそれぞれの目標に対して特定の質問を割り当てます。Remark Quick Stats は、テスト全体と同じように個別の学習目標にも点数を割り当てます。また、学習目標にベンチマーク値を割り当てて生徒の習熟度を測ることもできます。

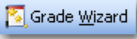
オプション	説明
評価スケール	学習目標を使用する場合、テスト全体と学習目標の両方に評価スケールを割り当てることができます。ソフトウェアには評価スケールがすでに定義されていますが、独自に作成することもできます。
スケールスコア	スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を、全体の中で比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。スケールスコアを使用すると、外部のデータファイルを用いて、生徒が試験で得た点数を、素点/パーセントスコア/百分位数から、変換ファイルで定義した他の点数に変換できます。
複数キー	複数の回答キーを利用するテストの点数をつけることができます。複数のテストバージョンの採点には、標準と高度の2種類のオプションがあります。標準回答キーオプションでは、各キーを入力し、次にソフトウェアがデータと適切な回答キーをマッチングします。オリジナルの質問がわからないので、項目ベースのレポートは各キーで個別に実行されます。高度な回答キーオプションでは、各キーとオリジナルのテストをマッピングし、テストの各バージョンで、質問を適切な順序に合わせて移動します。高度な回答キーを使用する場合、ソフトウェアでは、回答とオリジナルの回答キーの関係がわかっているため、組み合わせベースのレポートが利用できます。
ベンチマーク値	テスト全体、個々の質問、学習目標に対してベンチマークの値を割り当てることができます。ベンチマークの値とは、生徒が十分に学習したと見なされるために到達しなければならない点数(スコア)です。[レポートの選択]は、ベンチマークの点数及び、そのベンチマークと生徒の点数の比較を表示します。

### 採点ウィザードを使用するには(回答キーの設定)

次に示す採点ウィザードの手順を実行する場合、不明な用語があれば上記の表を参照してください。

- 1 **Remark Office OMR Template Editor** で、試験のフォームテンプレートを作成します。採点を行う質問、獲得する点数、分析回答者 ID フィールドなどの採点パラメータを設定できます。これらのオプションは回答キーの設定中にも変更できます。フォームテンプレートフィールドの設定方法がわからない場合は、ソフトウェアに付属の **Remark Office** ユーザズガイドを参照してください。フォームテンプレートを設定する時は、回答キーの割り当てについて考える必要はありません。この処理はフォームの処理/回答キーの設定中に行われます。
- 2 **Remark Office OMR Data Center** で読み取りウィザードを使用するか、または既存のデータファイルを開いて試験を処理します。回答キーをデータの先頭行として処理するか、または採点ウィザード内で回答キーを設定するかを選択できます。



- 3 試験を処理した後、[ツール] メニューを選択して、次に[分析]、その次に[採点ウィザード]をクリックするか、または  をクリックします。採点ウィザードは、タスクペインの[分析]タブからも使用できます。
- 4 (オプション) Data Center 内でデータセットを最初に開くことで、複数のデータセットを採点することもできます。採点ウィザードを起動すると、[使用可能な質問] ウィンドウが表示されます。採点に含めたいデータセットを選択してください。このウィンドウに表示されるアクティブなフォームテンプレートに含まれるデータセットに限ります。このウィンドウでは、データセットを識別するためのデータグループ名を追加できます(オプション)。グループ名を使用すると、データをフィルタリングできます。たとえば、[データグループ] 列に教師の名前を入力し、教師同士の間でデータを比較することができます。[データグループ] オプションは、データをフィルタリングする時、レポートバッチウィザードを使用する時、レポートを選択する時(比較評価レポート、クロス集計レポート、回答レポートなど)に表示されます。

採点ウィザードの各オプションについては、次項から詳細に説明します。

## 2.2.1 [作業の開始] ウィンドウ

[作業の開始] ウィンドウが最初に表示され、ここでテスト採点処理の基本パラメータを設定できます。

- 1 使用する回答キーファイル(.AKY)をすでに作成している場合は、[参照] ボタンをクリックします。新規の回答キーファイルを作成する場合は、この画面で操作を続けます。回答キーはいくつでも保存できますが、対応するフォームテンプレートを変更すると、新しく回答キーを作成する必要があるので注意してください。1つのフォームテンプレートに複数の回答キーを作成すると、採点処理をカスタマイズできます。たとえば、汎用の問題を 50 問用意し、採点ウィザードを用いてテストの主題に応じて異なる回答キーを設定することができます(たとえば、1つは米国史、1つは世界史、1つは地理学など)。

注: この後の操作は、回答キーファイルを新規に作成するという状況を想定した操作です。既存の回答キーファイルを使用する場合は、同じ画面で同じ説明に対して変更を行ってください。

- 2 試験に学習目標が含まれる場合は、[このテストはいくつかの学習目標を含む] チェックボックスをマークします。学習目標を使用すると、テスト全体に加えて、採点の基準として使用する質問のサブセットを作成できます。たとえば、自治体で特別の学習基準/目標を設定している場合は、テスト問題をその基準/目標に割り当てると別々に測定できます。
- 3 スケールスコアを使用している場合は[各生徒のスケールスコアを計算] チェックボックスをマークします。スケールスコアを使用すると、その生徒の合計点、パーセントスコア、百分位数をデータベースで検索し、変換した点数を Remark Quick Stats のレポートに返すことができます。

- 4 テストに複数の回答キーを使用する場合は、[1つのテストに対して複数の回答キーを作成] チェックボックスをマークします。次に、[標準] と [高度] のどちらの回答キーを使用するかを選択します。「標準回答キー」を使用すると、質問の順序を変更せずに複数の回答キーを入力できます。「高度な回答キー」を使用すると、テストの各バージョンで、オリジナルキーに対する質問の順序を指定できます。高度な複数の回答キーを使用する場合は、テストの質問をコピーする必要があります。回答キーについては、2.2.7 項で詳しく説明しています。

注: 「標準」の複数回答キーを使用する場合、学習目標は定義できません。複数の回答キー(標準方式を使用)と学習目標の両方がテストに含まれる場合は、2 種類の採点操作を別々に実行することをお勧めします。標準回答キーを用いた操作と、学習目標を用いた操作の 1 つずつです。

- 5 必要に応じて、[テスト全体のベンチマーク値の定義] チェックボックスをマークします。次に、[ベンチマークパーセント] というタイトルのボックスに、設定するベンチマークのパーセントスコアを入力します。生徒が十分に学習したと見なされるためには、テスト全体でこの点数に到達していなければなりません。定義したベンチマークと比較した生徒の点数が、選択レポートに表示されます。
- 6 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

## 2.2.2 [回答キー] ウィンドウ

次に [回答キー] ウィンドウが表示され、ここで回答キーを入力できます。回答キー選択では次のオプションが使用できます。

オプション	説明
グリッド行	<b>Data Center</b> で、アクティブなデータグリッドのグリッド行から回答キーを選択します。このオプションは、回答キーをデータグリッド内の最初の項目としてスキャンし、次に生徒のテストが続く場合に便利です。注: <b>Grade Wizard</b> 設定を回答キー(AKY) ファイルに保存できます。データセットのグリッド行を使用し、そのデータセットが生徒のテストも含む場合、保存した回答キーを次に使用する際には、回答キーの行をデータフィルから削除する必要があります。保存した回答キーを再度使用する場合、データファイルの一部として最初に処理した回答キーは <b>AKY</b> ファイルに埋め込まれます。そのため、回答キーがまだデータファイルの中にあれば、生徒のテストとして扱われます。
読み取りウィザード	読み取りウィザードを起動して、回答キーをスキャンするか、または回答キーを表すイメージファイル(たとえば、以前にスキャンしてイメージファイルとして保存しておいた回答キー)を選択できます。
ジェネリックキー	<b>Remark Office OMR</b> の外部で実行する <b>Remark Office OMR</b> 採点ウィザードユーティリティで、ジェネリック回答キーファイル

オプション	説明
	<p>(*.gaky)を作成できます。このタイプのキーは、採点対象外の質問に関する情報を保存しないので、採点対象の質問と回答選択肢の数が十分にあるフォームタイプであればいずれも、ジェネリック回答キーを適用できます。詳細は 2.3 項を参照してください。</p>
テキストキー	<p>テキストキーは、タブまたは <b>CRLF</b> (キャリッジリターン/ラインフィード) で区切り、採点対象の質問に対する正解の数値インデックスを含むテキストファイルです。オプションとして、質問文を各正解の末尾に追加できます(パイプ文字( )で区切ります)。</p> <p>テキストベースの回答キーは、拡張子 <b>TXT</b> を付けたタブ区切りの <b>ASCII</b> ファイルで、テストの質問に対する正答を含むようにしてください。正答は数値に置き換えて記述します。たとえば、質問に対する回答の選択肢が <b>A、B、C、D</b> で正答が <b>D</b> となると、正答の数値インデックスは <b>4</b> になります。これは <b>D</b> が <b>4</b> 番目の選択肢であるからです。テストに採点対象の質問が <b>5</b> 問あり、選択肢が <b>(A-D)</b> で、正答が順番に <b>A、B、D、A、C</b> だとなると、テキストファイルの最初の行は次のように、タブで区切った数値インデックスになります：</p> <div data-bbox="568 1200 1062 1229"> <p>1            2            4            1            3</p> </div> <p>正答が複数ある場合、正しいと思われる選択肢のどちらかを選択しなければならない場合はコンマ(,)で区切り、正しいと思われる選択肢をすべて選択しなければならない場合はアンド記号(&amp;)で区切ります。上記の例で、2 問目の質問では「<b>B</b> または <b>D</b>」であれば正しく、5 問目では「<b>A</b> および <b>C</b> の両方」を選択する必要がある場合、回答キーのテキストは次のようになります：</p> <div data-bbox="568 1626 1115 1655"> <p>1            2,4            4            1            1&amp;3</p> </div> <p>テストのバージョンが複数ある場合は、テキストキー内に、テストバージョンごとに新しくレコードを作成し、各レコードの最初のデータピースとしてテストバージョンの <b>ID</b> を定義します。たとえば、バージョンが <b>3</b> つあるテストは次のようになります</p>

オプション	説明				
	ます：				
A	1	2	4	1	3
B	4	3	1	1	2
C	2	1	3	1	4

注: 複数のバージョンをインポートする場合、複数の正答があり、そのうちのいずれか1つだけを正しい選択肢として選ばなければならないような質問はサポートされていません。複数のテストバージョンを使用する場合、正答を区切るコンマはアンド記号として扱われます。

- 1 [回答キーソース] ボックスのドロップダウンリストから、使用している回答キーのタイプを選択します。次に、[キーの取得] ボタンをクリックして、回答キーグリッドに回答キー情報を入力またはインポートします(グリッド行を使用している場合は、[グリッド行] ボックスで行を指定します)。回答キーを手動で入力する場合は、グリッドの[正答] 列に値を入力します。

注: 複数のテストバージョンの採点に標準の回答キーを使用している場合、[回答キー] ウィンドウは表示されません。後から **Grade Wizard** の[複数キー] の手順でプロンプトが表示され、そこで回答キー情報をすべて入力します。

- 2 必要に応じて、主観評価または客観評価で採点することを、それぞれに対応するボックスをクリックして指定します。デフォルトでは、採点ウィザードはフォームテンプレートで定義された採点設定を使用しますが、採点ウィザード内で変更することもできます。次に表示されるウィンドウでも質問の採点ステータスを変更できるので注意してください。
- 3 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 2.2.3 [質問のプロパティ] ウィンドウ

次に[質問のプロパティ] ウィンドウが表示され、質問のプロパティを変更できるようになります。初期状態では、採点ウィザードはフォームテンプレートプロパティで定義された任意の値を使用します。ここではその設定を変更できますが、フォームテンプレートには影響を与えません。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問テキスト	レポートに使用する質問文を入力または変更します。貼り付け用のキーボードショートカット( <b>Ctrl + V</b> )か、または右クリックの「貼り付け」オプションを使用して <b>Windows</b> クリップボードから内容を貼り付けることができます。
生徒を識別する質問	このチェックボックスをマークすると、この質問から得た情報を選択レポートの生徒 <b>ID</b> として使用します。たとえば、生徒の氏名または <b>ID</b> 番号を収集する場合、その情報がレポートに表示され、レポートと生徒をリンクします。質問を回答者 <b>ID</b> として使用するためには、その質問を採点に含めないようにしてください。
この質問を評価	このチェックボックスをマークすると、その質問が評価の対象となります。
正答	このドロップダウンリストを使って、質問に対する正答を選択します。リストを複数回ドロップダウンすると、複数の正答を選択できます。
生徒は正解と考える回答をすべて選択する必要があります。	複数回答が許可されている場合、このチェックボックスをマークすると、回答が正答と見なされるためには、指定した回答がすべて選択されていなければなりません。マークしない場合、指定した回答が <b>1</b> つでも選択されていれば正答と見なされます。注: [標準] の複数回答キーを使用し、複数の正答を許可する質問がある場合、正しい選択肢をすべて生徒に選択させるには、すべてのキーのすべての質問に対するチェックボックスをマークしてください。 [質問のプロパティ] ウィンドウは最初の回答キーのみを表示しますが、その場合でも、他のキーに複数回答の質問があるとわかっている場合は、その質問を選択してチェックボックスをマークできます。
客観的な質問	このオプションをマークすると、その質問は客観的な質問に指定されます。客観的な質問には、たとえば複数選択や○×で答える質問などがあります。客観的な質問には、正答、誤答、無回答という <b>3</b> セットのポイント値があります。この <b>3</b> 種類の指定を用いて、正答、誤答、無回答だった場合にそれぞれ何ポイント加算するかを設定します(小数点と負の値も使用できます)。
ベンチマーク値の定義	このチェックボックスをマークしてベンチマークのパーセントスコアを入力すると、ベンチマーク値を定義できます。クラスが十分に学習したと見なされるためには、この値で指定した割合の生徒がこの問題に正答していなければなりません。ベンチマーク値は、客観的な質問にのみ適用できます。

オプション	説明
主観的な質問	質問に主観採点点数が含まれる場合は、このチェックボックスをマークします。主観採点の質問には、講師がテスト問題に割り当てたポイント値が含まれます。主観的な質問には、たとえば小論文や短い記述式問題などがあります。講師は問題の割合を定め、テストフォームでの配点ポイント数を入力します。 <b>Remark Quick Stats</b> は、獲得したポイント进行处理します。レポートでこの値を使用するには、フォーム上で主観評価ポイントに数値フィールドを設定する必要があります。
最大ポイント	主観採点の点数を使用する場合、質問に対する最大ポイント数を入力します。ウィザードの「回答キー」でこの数値を入力していた場合、ここで入力する数値の方が優先されます。最大得点を超えるポイント数が処理済みのテストに対して入力されると、自動的に特別課題として扱われるので注意してください。
追加の単位	このオプションをマークすると、その質問は特別課題に指定されます。この質問で得たポイントはトータルのテストスコアに加算されます。加算される数値は、このウィンドウの「客観的な質問」で割り当てたポイント数に基づいて決まります。
データタイプ	質問のデータタイプとして、テキスト(A、B、C、D など)もしくは数値(1、2、3、4 など)のどちらかを選択します。



- 1 左側のタスクペインで質問を選択し、次に、必要に応じて項目を適切に変更します。キーボードの「Ctrl」キーを押しながら質問をクリックすると、複数の質問を選択できます。また、質問をクリックしてから「Shift」キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。選択した質問のタイプによっては、使用できないオプションができる場合があるので注意してください(たとえば、グリッドフィールドと **Multiple** フィールドを複数選択すると、同じオプションを使用できなくなることがあります)。
- 2 「次へ>>」 ボタンをクリックして操作を続けます。

## 2.2.4 「学習目標」 ウィンドウ

学習目標を使用している場合は、次に表示される「学習目標」ウィンドウで学習目標を指定できます(採点ウィザードの最初の画面で「学習目標を使用」オプションを選択しておく必要があります)。学習目標は、試験問題の中の特定のサブセットについて生徒



の知識をテストします。たとえば、理解が必須である特定の基準をテストする場合、その基準の名前を採点ウィザード内で入力し、次にそれぞれの基準に対応する問題をマッピングします。**Remark Quick Stats** は、生徒が各基準で何点獲得したかを表示するので、生徒たちが基本を学習しているかどうかをすぐに判断できます。

- 1 学習目標を作成するには、学習目標名を「名前」ボックスに入力して「追加」ボタンをクリックします。または、目標のリストをスプレッドシートまたはデータベースファイルからインポートすることもできます。「インポート」ボタンをクリックして、学習目標の名前をインポートします。学習目標が「学習目標」ボックスにリスト表示されます。
- 2 テストで採点される問題は、「使用可能な質問」ボックスにリスト表示されます。右側で学習目標を選択し、次に「使用可能な質問」ボックスで問題を選択して、次に  ボタンをクリックします。選択された問題は、選択されている学習目標の下にある「学習目標」ボックスに移動します。 ボタンを使用すると、特定の学習目標に割り当てた不要な問題を削除できます。各質問は、複数の学習目標に割り当てることができます。

ヒント: 質問をダブルクリックすると、学習目標に簡単に追加できます。また、複数の質問を選択できます。キーボードの「Ctrl」キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから「Shift」キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内にある質問がすべて選択されます。
- 3 必要に応じて、学習目標を選択してから「ベンチマーク値の定義」チェックボックスをマークして、学習目標にベンチマークスコアを割り当てます。学習目標に関して生徒が到達すべきパーセントスコアの値を、「ベンチマークパーセント」ボックスに入力します。生徒のうち、誰がベンチマークに到達し、誰が到達していないかを示します。
- 4 「次へ>>」ボタンをクリックして操作を続けます。

## 2.2.5 「全体評価スケール」ウィンドウ

次に「全体評価スケール」ウィンドウが表示され、ここでテストの評価スケールを入力できます。**Remark Quick Stats** には評価スケールが組み込まれており、また独自に作成することもできます。

- 1 以前にスケールを作成していた場合、またはロード済み評価スケールのいずれかを使用したい場合は、そのスケールを「スケール」ドロップダウンリストから選択できます。
- 2 オプションとして、「新規作成」ボタンをクリックしてから「評価」グリッドに評価スケールを入力すると、新しく評価スケールを作成できます。左側に評価を入力し(A、B、C、D、F など)、それに対応する最小パーセント値と合計の最小値を右側に入力します。「保存」ボタンをクリックすると評価スケールを保存できます。
- 3 学習目標を使用し、それらの目標に別々の評価スケールを割り当てる場合は、左側のタスクペインの「学習目標の評価スケール」リンクをクリックします。手順 1 および

2 の操作を繰り返して、評価スケールを選択または作成します。ここで定義した評価スケールは、定義されたすべての学習目標に適用されることに注意してください(学習目標別の個別スケールはありません)。

- 4 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

## 2.2.6 [スケールスコア] と [学習目標のスケールスコア] ウィンドウ

スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を数値で比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。スケールスコアは、外部の採点システムからの特定のテスト評価が必要とされる特殊な使用ケースを想定した高度な機能であると言えます。スケールスコアを使用すると、データベースを用いて、生徒が試験で得た点数を、素点またはパーセントスコアから、変換ファイル(データベース)で定義した他の点数に変換できます。スケールスコアを使用する場合、全体の成績、客観評価点数、主観評価点数、または定義済みの学習目標点数を参照できます。2 種類の値を選択して二次元的な参照を実行できます。**Remark** から取得した値を変換(スケールスコア)テーブルで参照すると、適切なスケールスコアが返されます。スケールスコアを参照する際は、参照値(パーセントスコア、合計点または百分位数)が定義された数値範囲内に含まれるレコードをテーブル内で検索します。

スケールスコアを含むデータベースファイルとしては、Access、Excel、SQL Server、Oracle、Paradox、dBase、ODBC 接続のいずれかを使用できます。このデータベース内では、最小得点フィールドと最大得点フィールドを定義します。これらは特定の数値でも点数の範囲でもかまいません。データベース内の得点にはそれぞれ対応するスケールスコアのフィールドがあり、このフィールドが **Remark Quick Stats** に返されます。オプションとして換算評価フィールドを含めることができます。これは選択レポートで **Remark** 計算による評価の代わりに使用します。最小値フィールドと最大値フィールドを、データベース内の同じフィールドに定義できます。この場合、参照する値は、返されるスケールスコアのフィールドの値と正確に一致していなければなりません。スケールスコアが見つからない場合、レポートにはダッシュ記号(-)が表示されます。

また、精度オプションを使用すると、参照点数をユーザ定義による小数点桁数で切り上げてからデータベース参照を実行できます。切り上げを行う場合、**Remark Quick Stats** は従来の切り上げ方法を用いて数値全体の切り上げまたは切り捨てを行います。たとえば、点数が **69.5** の場合は **70** に切り上げ、データベースでは **70** が検索されます。

スケールスコアが表示されるレポートは、生徒統計レポート、生徒評価レポート、比較評価レポート、成績分布レポート、生徒回答レポートです。各レポートには、スケールスコアを表示するかどうかを設定するようなプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )があります(プロパティはデフォルトでオンです)。レポートのスケールスコアヘッダーは、参照データベースの列ヘッダー名から直接取得されます。レポート上での表示が最適になるよう、この名前はできるだけ短い名前にすることをお勧めします。



スケールスコアは採点ウィザードで定義でき、簡易採点の操作で使用できるよう、**Remark Quick Stats** の基本設定でデフォルトとして設定できます。以下の説明は、  
[全体のスケールスコア] ウィンドウと [学習目標のスケールスコア] ウィンドウの両方に適用されます。

注: 採点ウィザードを使用する場合、オプションがオンであり、かつスケールスコアの参照が定義されている場合にのみ、スケールスコアが表示されます。簡易採点を使用する場合、**Remark Quick Stats** 基本設定のデフォルトスケールスコアが使用されます(その設定がアクティブなフォームテンプレートに適用される場合)。簡易採点を行う際にスケールスコアを使用しない場合は、**Remark Quick Stats** の基本設定でデフォルトのスケールスコアを設定しないでください。

- 1 以前にスケールスコアを作成したことがある場合は、[スケールスコア] ドロップダウンリストからその値を選択できます。
- 2 オプションとして、[スケールスコアの名前] ボックスに名前を入力して新しいスケールスコアを作成できます。
- 3 [スケールスコアの基準] で、参照する点数のタイプを合計点、パーセントスコア、百分位数の中から選択します。この点数は、外部ファイルの中で対応する点数を参照する際に使用する点数です。
- 4 オプションとして、点数を切り上げたい場合は [切り上げ] チェックボックスをマークして、小数点以下の桁数を入力します。このオプションを使用すると、参照点数が最初に切り上げられ、次に、その切り上げた値を用いて参照が行われます。
- 5 [第一のルックアップ基準] ドロップダウンリストを使用して、参照する特定の点数を選択します。全体の点数、客観評価点数、主観評価点数、または定義したいいずれかの学習目標を選択できます。このプロパティは **Remark Quick Stats** に対して、スケールスコアを検索する際に実際に参照する点数を示します。注: 百分位数の参照を基本にする場合は、全体の点数と学習目標の点数のみ参照できます。
- 6 (オプション) 二次元参照を作成する場合は、[第二のルックアップ基準] ドロップダウンリストから第二のルックアップ基準を選択します。たとえば、主観評価と客観評価の両方の点数を参照して全体のスケールスコアを生成したいという場合があります。
- 7 [データベース] ボタンをクリックして、外部データベースファイルへの接続を選択(または変更)します。
- 8 [データベース選択] エリアで、[タイプ] ドロップダウンリストを使用して、このフィールドに関連付けるデータベースの種類(**Access**、**Excel** など)を選択します。
- 9 [参照] ボタンをクリックして、データベースファイルのある位置へ移動してファイルを選択します。
- 10 ファイルを選択して [開く] ボタンをクリックします(またはファイル名をダブルクリックします)。

ODBC 接続を使用している場合は、手順の 11-13 を実行します(この手順を完了するには、データベース管理者から特定の情報を得る必要があります)。それ以外の場合は、手順 14 に進みます。

- 
- 11 オプション： [DSN] ドロップダウンリストからデータベースタイプを選択します。
- 12 オプション： チェックボックス [ディレクトリベース] と [DSN ベース] のうち適切な方を選択して、データベースがディレクトリベースか DSN ベースかを指定します。
- 13 オプション： データベースがパスワード保護されている場合は、[ユーザ名] および [パスワード] ボックスにログイン情報を入力してください。データベースがパスワード保護されていない場合は、この手順は必要ありません。
- 

- 14 [ルックアップとリターン] セクションで、[データベースに接続] ボタンをクリックして、データベースをフィールドにリンクします(Remark Quick Stats は、パスワードで保護されていないデータベースへ接続しようとする点に注意してください)。
- 15 [スケールスコアのテーブル] ドロップダウンリストを使用して、スケールスコアのフィールドを含むデータベース内のテーブルを選択します(Remark Quick Stats はデフォルトでファイルの先頭にあるテーブル/シートを選択する点に注意してください)。
- 16 外部データベースから [第一の最小スコア]、[第一の最大スコア]、[スケールスコア]、およびオプションで [スケールスコアの評価] フィールドを選択します。オプションの [スケールスコアの評価] フィールドは、評価(A、B、C など)を示す選択レポートで、Remark が生成した評価をデータベースから取得した換算評価に置き換えます。これらのフィールドは参照と置換のための値を含みます。使用可能な項目は、選択した参照項目(全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数、客観及び主観評価の点数、学習目標のいずれか)に応じて変わります。

参照と置換を選択する際に使用できるガイドラインには、次のようなものがあります：

- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、関係が 1 対 1 である(85 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。
- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、点数の範囲を使用する(85～90 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に異なるフィールドを選択します。
- 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、関係が 1 対 1 である(客観評価の 85 点と主観評価の 10 点がスケールスコアの 110 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア] と [第二の最大スコア] に同じフィールド(ただし客観評価フィールドフィールドとは別のフィールド)を選択します。たとえば、[第一の最小スコア] フィールドと [第一の最大スコア] フィールドを客観評価点数、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドを主観評価点数にします。

- 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、点数の範囲を使用する(客観評価の 85～90 点と主観評価の 5～10 点がスケールスコアの 110 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア]と[第一の最大スコア]に異なるフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア]フィールドと[第二の最大スコア]フィールドに異なるフィールドを選択します。たとえば、[第一の最小スコア]フィールドと[第一の最大スコア]フィールドを客観評価点数の範囲、[第二の最小スコア]フィールドと[第二の最大スコア]フィールドを主観評価点数の範囲にします。
- 17 [スケールスコアのフィールド] ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータベースのフィールドを選択します。
- 18 (オプション) [スケールスコアの評価フィールド] ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータのフィールドを選択します。評価を示すレポートでは、この値はスケールスコアが使用されている場合にのみ表示されます。気が変わった場合は、[クリア] ボタンを使用してこのオプションを削除できます。
- 19 [OK] ボタンをクリックしてデータベース設定を保存します。
- 20 全体のスケールスコアのウィンドウに戻ると、データベース接続の詳細が表示されています。変更する必要がある場合は[データベース] ボタンをクリックします。
- 21 オプションとして、定義済みの学習目標に対してスケールスコアを使用したい場合は、左側のウィンドウペインで[学習目標のスケールスコア] リンクをクリックして、上記の手順を繰り返してスケールスコアを定義します。学習目標のスケールスコアは、定義されたすべての学習目標に適用されることに注意してください。
- 22 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

注: テスト全体と学習目標に関するデフォルトのスケールスコアは、[ツール]基本設定[全体のスケールスコア/学習目標のスケールスコア]にある **Remark Quick Stats** の基本設定で定義と保存ができます。いったん作成されて基本設定に保存されたスケールスコアは、採点ウィザードでアクセスできます。

## 2.2.7 [複数回答キー] ウィンドウ

複数の回答キーを使用している場合、次に[複数回答キー] ウィンドウが表示されます(採点ウィザードの最初の画面で、まず複数回答キーのオプションを選択しておく必要があります)。このウィンドウは、標準回答キーと高度な回答キーのどちらを使用していているかによって異なります。複数回答キーを使用する場合、すべてのテストバージョンで同じ数の質問を定義し、客観評価の質問にはすべて同じポイント値と回答選択肢が必要なので注意してください。複数の回答を許可し、標準の複数回答キーを使用している場合、「正しい選択肢を 1 つ選んでいけば正答とするか、正しい選択肢をすべて選択しなければ正答とみなされないか」に関して、複数回答の質問がすべて整合していなければなりません。選択肢を 1 つ選ぶかすべて選ぶかについて、質問が混在している場合は、高度な回答キーを使用する必要があります。

注: 標準の複数回答キーを使用する場合、項目ベースのレポートが使用できますが、別々の回答キーで実行されます。点双列計算は使用できません。連結した項目のレポートを作成するには、高度な複数回答キーを使用する必要があります。

両方のタイプの回答キーについて、操作方法を以下の表に示します。

回答キータイプ	操作
標準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [キーID を含む質問] のドロップダウンリストを使用して、回答キーを識別する値を含むテストから質問を選択します。</li> <li>2 [新規作成] ボタンをクリックして回答キーを入力します。</li> <li>3 [キーバージョンを表す回答] リストボックスで、最初のキーを識別する回答を入力または選択します。</li> <li>4 [回答キーソース] ボックスのドロップダウンリストを使用して、回答キーのソースとして使用するグリッド行を選択します。グリッド行を使用しない場合、グリッド内にキー情報を手動で入力します。</li> <li>5 回答キーにグリッド行を使用している場合は、[キー取得] ボタンをクリックして、回答キーグリッドに回答キー情報を入力します(グリッド行を使用している場合は、[グリッド行] ボックスで行を指定します)。</li> <li>6 [新規作成] ボタンをクリックして、追加回答キーに対して再度処理を開始します。</li> </ol>
高度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリジナルの回答キーが表示されます。[キーID を含む質問] のドロップダウンリストを使用して、最初の回答キーを識別する値を含むテストから質問を選択します。</li> <li>2 [キーバージョンを表す回答] リストボックスで、最初の回答キーを識別する回答を入力または選択します。</li> <li>3 回答キーを追加するには、[新規作成] ボタンをクリックします。</li> <li>4 [キーバージョンを表す回答] リストボックスで、最初のキーを識別する回答を入力または選択します。</li> <li>5 オリジナルキーの複製が [Key 2] 列に表示されます。次に、[Key 2] 列内の問題を再配置して、オリジナルの回答キー(Key 1)に対応するようにします。質問をマッピングする際、オリジナル回答キーの問題を参照し、その後続く回答キーの適切な位置に置きます。このマッピングを行うには、実際のテスト問題が必要です。</li> </ol>

回答キータイプ	操作												
	次に例を示します。												
	<p>テスト 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 週の最初の曜日は?</li> <li>2. 1 年の最初の月は?</li> <li>3. 1 日は何時間ですか?</li> <li>4. 1 時間は何分ですか?</li> <li>5. 1 分は何秒ですか?</li> </ol> <p>テスト 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1 年の最初の月は?</li> <li>2. 1 分は何秒ですか?</li> <li>3. 週の最初の曜日は?</li> <li>4. 1 日は何時間ですか?</li> <li>5. 1 時間は何分ですか?</li> </ol> <p>回答キーの設定</p> <p>採点ウィザードのフィールドは次のようになります。</p> <table> <tr> <th>テスト 1</th><th>テスト 2</th></tr> <tr> <td>Q1</td><td>Q2</td></tr> <tr> <td>Q2</td><td>Q5</td></tr> <tr> <td>Q3</td><td>Q1</td></tr> <tr> <td>Q4</td><td>Q3</td></tr> <tr> <td>Q5</td><td>Q4</td></tr> </table>	テスト 1	テスト 2	Q1	Q2	Q2	Q5	Q3	Q1	Q4	Q3	Q5	Q4
テスト 1	テスト 2												
Q1	Q2												
Q2	Q5												
Q3	Q1												
Q4	Q3												
Q5	Q4												

## 6 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

注: タブで区切ったテキストファイルを使用すると、高度な複数回答キーをインポートできます。このファイルでは、テストバージョン(オプション)と、その後に質問の順序を設定できます。採点の対象でない質問(属性など)を使用している場合は、それをテキストファイルに含める必要があります。次に例を示します。

テストのバージョンが2種類あるとします。回答キーID、生徒ID、生徒名、教員名とテスト問題が5問あります。高度な複数回答キーのインポートファイルは、たとえば次のようになります。

回答キーID

A

B

123

123

属性質問

45678

87465

採点対象の質問(スクランブル)

この例では、AとBが回答キーバージョンのIDを表します。1、2、3は属性に関する質問です(生徒ID、生徒名、教員名)。1行目の4-8はテストバージョンAで、ここでは質問が通常の順序で並んでいます。2行目の8-5はテストバージョンBで、ここでは質問が並べ替えられています。この行は、回答キーBの最初の質問が、回答キーAの質問8であることを示します。同じように、回答キーBの採点対象の質問の2番目は、回答キーAの質問7になります。

## 2.2.8 [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウ

オプションとして、結果として生じるレポートのヘッダーを[カスタムレポートヘッダー] ウィンドウで定義します。カスタムレポートヘッダーについては、4.2項で詳細に説明します。カスタムヘッダーを使用すると、レポートヘッダーのタイトルをカスタマイズしたり、グラフィックスを追加したりすることができます。採点ウィザード内でカスタムヘッダーを作成すると、カスタムヘッダーは採点ウィザードで作成した回答キーとともに保存されます(回答キーファイルを保存する場合)。すなわち、この回答キーファイルを使用してデータを評価する場合は、カスタムヘッダーを再度作成する必要はありません。データの値を利用して、レポートの意味をわかりやすくすることもできます(たとえば、教師名をヘッダーに追加するなど)。採点ウィザード内で定義するカスタムヘッダーは、個々のレポートプロパティで設定するカスタムヘッダーよりも優先されます。

注: レポートヘッダーを専用のファイルとして個別に保存したい場合は、ヘッダーを定義した後に[保存] ボタンをクリックします。このレポートヘッダーは、その後他の回答キーを設定する際に使用できます。

- 1 [カスタムレポートヘッダー] チェックボックスをクリックします。
- 2 [編集] ボタンをクリックしてレポートヘッダーを新しく作成するか、または[参照] ボタンをクリックして以前に保存したレポートヘッダーを開きます。

[レポートヘッダーレイアウト] ウィンドウに、レポートの内容が表示されます。カスタマイズ可能なフィールドが9個あります。アクティブなフィールドは黄色でハイラ

イトされています。フィールドをクリックして選択し、カスタマイズします。レポートの「ページ幅」設定を使用すると、ズームイン/ズームアウトして表示を調節できます。

#### フィールドをカスタマイズするには

- 1 「列」の所で、レポートヘッダーに使用する列の数を選択します(1、2、3のいずれか)。列の数は、カスタマイズ可能なフィールドの数(3から9の間)を示します。
- 2 黄色いフィールドのうち、カスタマイズするフィールドを1つクリックします。
- 3 最初のフィールドにテキストとイメージのどちらを挿入するかを決めます。「テキスト」または「イメージ」のラジオボタンを選択します。
- 4 テキストを挿入する場合は、フィールドのラベルを「ラベル」ボックスに入力します。このラベルは自由形式のテキストです。
- 5 必要に応じて「値」ドロップダウンリストに移動して、挿入する値を選択します。デフォルトの選択肢は、「Image(イメージ)」、「Date(日付)」、「Date/Time(日付/時刻)」、「Page Number(ページ番号)」です。また、このレポートの生成に使用したフォームテンプレートからフィールドを選択することもできます。この機能は、回答者ごとに個別のページを生成するレポートのために設計されました(たとえば、学生の成績レポート、回答者単位の回答レポートなど)。選択したフィールドのデータが、定義したレポートヘッダーに表示されます。
- 6 「整列」セクションで、項目の整列方法を「左」、「中央」、「右」のいずれかに選択します。挿入された項目は、レポート上で割り当てられたスペースの中で、その設定に応じて整列されます。
- 7 イメージを挿入する場合は、「参照」ボタンをクリックして、レポートに載せる画像(会社のロゴなど)を指定します。サポートされる画像のタイプは、.bmp (ビットマップ)、.gif (GIF)、.jpg (JPEG)、.wmf (Windows メタファイル)、.ico (アイコン)、.cur (カーソル)です。

ヒント: 画像を左/中央/右にそろえるには、目的の位置で適切なフィールドを選択してから画像を挿入します。

- 8 カスタムヘッダー情報をさらに追加する場合は、上記の手順を繰り返します。

ヒント: カスタムヘッダー全体をリセットしてオリジナルの状態に戻す必要がある場合は、「リセット」ボタンをクリックします。画像を削除する場合は、フィールドをクリックして「クリア」ボタンをクリックします。テキストフィールドを削除する場合は、そのフィールドの中でクリックし、「ラベル」を削除し、「値」ドロップダウンリストの選択を先頭の空白エントリに変更します。
- 9 ヘッダーが完成したら、「OK」ボタンをクリックして採点ウィザードのウィンドウに戻ります。
- 10 作成したカスタムヘッダーを保存したい場合は、「保存」ボタンをクリックして、ヘッダーのファイル名と保存場所を入力します。この後採点処理を行う際に、採点ウィザードの同じ画面でファイルを開くことができます。
- 11 「次へ>>」ボタンをクリックして操作を続けます。

## 2.2.9 [選択のレビュー] ウィンドウ

- 1 [選択のレビュー] ウィンドウで、内容が正確であることを確認します。質問がすべてリストされ、必要に応じて変更できるようになります。このウィンドウでは、回答選択肢、採点対象の質問、学習目標、回答者 ID、配点を変更することもできます。
- 2 内容がこれで良ければ、[完了] ボタンをクリックします。回答キーファイルを新しく作成した場合、または既存の回答キーファイルに変更を加えた場合は、ファイルを保存するためのプロンプトが表示されます。もしくは、[完了] ボタンの隣にある矢印を使用して、次のいずれかのオプションを選択することもできます。
  - 保存して実行：回答キーファイルを保存するためのプロンプトを表示し、採点を実行します。
  - 保存：回答キーファイルを保存しますが、採点は実行しません。
  - 実行：回答キーファイルを保存せずに採点を実行します。
  - ジェネリック保存：選択した設定を、他の類似したフォームテンプレートに適用可能なジェネリック回答キーとして保存します。

[完了] ボタンの選択後、回答キーファイルを保存する場合は手順 **3** に進みます。回答キーファイルをまだ保存していない場合、または変更を加えた場合は、ファイルを保存するためのプロンプトが表示されます。

- 3 プロンプトに対して [はい] をクリックすると、回答キーファイルが保存されます。[いいえ] をクリックすると、回答キーファイルは保存されませんが、採点ウィザードは終了し、テストは採点されます。[キャンセル] をクリックすると、採点ウィザードに戻ります。テストフォームを再度使用する場合、回答キーファイルを保存すると時間の節約になります。
- 4 回答キーファイルを保存する場合は [はい] を選択します。[回答キーを保存] ウィンドウに回答キーファイル名を入力し、ファイルを保存する場所を選択してから、[保存] ボタンをクリックしてください。


注：[タイプを指定して保存] ボックスでタイプを変更すると、回答キーをジェネリック回答キー(.GAKY)として保存できます。このタイプの回答キーは、採点対象外の質問に関する情報を保存しないので、採点対象の質問と回答選択肢の数が十分にあるフォームタイプ(テンプレート)であればいずれも、ジェネリック回答キーを適用できます。

**Remark Quick Stats** ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。レポートと統計計算については、**2.4** 項を参照してください。

## 2.3 採点レポート

簡易採点または採点ウィザードを使用してデータを採点すると、数種類のレポートが利用できるようになります。レポートでは、異なる内容を表示したり、同じデータを異なる方法で示したりすることができます。



各レポートには、レポートの外見を指定するプロパティのセットがあります。レポートのプロパティにアクセスするには、[ツール]メニューを選択して [レポートプロパティ] をクリックするか、または  レポートプロパティ(R) をクリックします。以下の項では、各レポートについて簡単に説明し、その後設定可能なレポートのプロパティについて説明します。ここに示したオプションが、レポート実行時に表示されない場合は、[レポートプロパティ] の設定を確認してください。これらのプロパティでは、レポートのセクションの表示と非表示を切り替えることができます。デフォルトで非表示の項目がいくつかあります。

### 2.3.1 レポート 101 — 生徒統計レポート

生徒統計レポートには、クラス内の生徒全員の点数が記録されます。レポートの左側に生徒名がリストされ、次に成績採点、客観採点と主観採点(ある場合)の点数が、各生徒に対してリストされます。ベンチマークが定義されている場合、ベンチマークの差異を示すグラフも表示されます。学習目標が定義されている場合は、テスト全体と学習目標に対する生徒のデータが別の表に表示されます。

生徒の成績統計レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	テスト上で識別される生徒の一覧。分析回答者 ID を使用している場合、この情報は [生徒] 列に表示されます(たとえば名前、ID 番号など)。分析回答者 ID として質問を何も指定していない場合、連続した番号が割り当てられます。
評価	採点ウィザードで選択した評価スケール、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定 ( [ツール 基本設定 全体評価スケール] ) でデフォルトに設定した評価スケールに基づいて、生徒が到達した成績を表示します。
合計	各生徒の総得点数を表示します。最初の数値は、生徒が得点したポイント数です。2 番目の数値は、そのテストで獲得可能なトータルのポイント数です。
%	各生徒が獲得したパーセント点を表示します。
ベンチマーク差	ベンチマーク点が採点ウィザードで定義されている場合は、生徒の得点と確立されたベンチマーク、および定義されたベンチマークと生徒の得点を相対的に示す棒グラフが表示されます。青い線はベンチマークを示します。生徒の棒グラフが緑色の場合、得点がベンチマークより高いことを示します。生徒の棒グラフが赤色の場合、得点がベンチマークより低いことを示します。棒グラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます( [ツール レポートプロパティ] )。

オプション	説明
客観採点の合計	テスト内で獲得した客観採点の合計点を表示し、そのテストで獲得可能な客観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、主観採点問題を含めた場合に客観採点と主観採点の点数を区別するために表示されます。
[客観] 正答	テストの客観採点部分での正解数を表示します。
[客観] 誤答	テストの客観採点部分での不正解数を表示します。
[客観] 欠落	テストの客観採点部分で回答が欠落している(無効なデータなど)質問数を表示します。
主観採点の合計	テスト内で獲得した主観採点の合計点を表示し、そのテストで獲得可能な主観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、テストに主観採点問題がある場合にのみ表示されます。

生徒統計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができますようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	生徒の並べ替え	生徒を回答者 ID、パーセント点、合計点、百分位数、評価で並べ替えるかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートプロパティ	説明
	並べ替え順序	生徒の並べ替え(上記の基準に基づいて)を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	行の網かけ	チャート内の行に1行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下2桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
要約情報	パーセントスコア	各生徒が獲得したパーセントスコアを表示するかどうかを設定します。
	評価	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	欠落	このテストで欠落している回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。欠落したデータとは、有効でないすべてのデータを含みます。
	誤答	このテストで不正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	正答	このテストで正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートプロパティ	説明
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.2 レポート 102 – 比較評価レポート

比較評価レポートでは、特定の基準で分類したテストの統計情報を確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポートは人口統計グループを比較する際に特に便利です。テストの解答用紙に民族のようなカテゴリをマークしている場合、エスニックグループ単位でデータを確認できます。

比較評価レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
凡例	レポートの生成に使用する基準を表示します。
ベンチマーク	採点ウィザードで目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します。
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。各生徒単位までのレポート記述はオプションです( [ツール レポートプロパティ] で設定を確認してください)。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
評価	レポートの各レベルで到達した得点を表示します(たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して)。
%	レポートの各レベルで到達したパーセントスコアを表示します(たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して)。
ベンチマーク差	定義されたベンチマークと、選択された基準内での生徒の得点の差を表示します。


比較評価レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	凡例の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した基準を示します。
	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	グループラベルの表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベル(Group Label)は各基準の上に表示され、それがどのような基準であることを示します。通常は、凡例(凡例)とグループラベル(Group Labels)のどちらかを表示します。
	背景色	レポートの各テーブルの背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
	生徒の表示	選択された各カテゴリに該当する生徒の実際のIDを表示するかどうかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
グループの色コード	生徒の色	レポートにリストした生徒の文字色を設定します(該当する場合)。
	目標の色	レポートにリストした学習目標の文字色を設定します(該当する場合)。
	グループ 3 の色	レポートにリストした 3 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした 2 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 比較評価レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[比較評価レポート] のリンクを選択します。
- 2 [グループ選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を最大 3 問まで選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。  
 注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

### 2.3.3 レポート 103 クラス頻度分布レポート

クラス頻度分布レポートは、クラス全体の得点の内訳を表示します。また、このレポートは中間点、定義した目標ベンチマーク、ベンチマークとの差異も(該当する場合)表示します。採点ウィザードで学習目標を定義している場合、各学習目標での得点の内訳も表示されます。

レポートの先頭には、評価と、それに対応するパーセント点、素点、各グレードの頻度を表示します。％列には、スコアグループに対してそのグレードが表示される回数のパーセンテージを示します。チャートでは、X 軸(下)に評価、Y 軸(左)にそのグレードの頻度を示します。クラス頻度分布レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
レポートグラフ	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	グラフサイズ	レポートに表示するグラフサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	グラフの表示	頻度情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	グラフのプロパティ	グラフのタイプ、タイトル、色、フォントなどの、グラフのプロパティを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	ページ区切り	各学習目標の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下2桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
要約情報	欠落	このテストで欠落している回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。欠落したデータとは、有効でないすべてのデータを含みます。
	誤答	このテストで不正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	正答	このテストで正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.4 レポート 104 – テスト統計レポート

テスト統計レポートは、テストの全体的な結果を示す統計情報と学習目標(該当する場合)を表示します。テストに主観採点問題がある場合、テスト全体、客観採点項目、主



観採点項目に対する統計情報の内訳が表示されます。統計情報のグループに対して、レポートのプロパティで表示と非表示を切り替えることができます( [ツール|レポートプロパティ] )。次の統計情報が利用できます。

グループ名	統計情報	説明
スコアデータ	評価済み項目の数	評価された項目数を表示します。
	可能合計ポイント	テストの合計点を表示します。
	最大スコア	テストの最高得点を表示します。
	最小スコア	テストの最低得点を表示します。
統計値	平均点	すべての平均点を表示します。
	平均パーセントスコア	すべての平均パーセント点を表示します。
	ベンチマーク点	採点ウィザードで入力したベンチマークパーセント点を表示します(該当する場合)。これは、生徒が十分に学習したと見なされるために到達しなければならない点数です。平均パーセント点と比較すると、ベンチマークに対する生徒の到達地点がわかります。
	点数の範囲	最高得点と最低得点間の範囲を表示します。
	標準偏差	あるデータセットが、中間値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
	分散	中間値から個々の点数がどの程度離れているかという値の二乗(その数値同士の乗算)。
百分位数	百分位数 (25 および 75)	百分位数とは、データのサンプルを、(できるだけ)同じ数の対象を含む 100 個のグループに分ける値です。たとえば、データ値の 25% は、第 25 百分位数より下に位置します。
	中間値	テストの中間値を表示します。
	四分位範囲	第 75 百分位数と第 25 百分位数間の差異を表示します。

グループ名	統計情報	説明
信頼区間	信頼区間 (1、5、95、99%)	信頼区間は、未知の母集団母数を含むと思われる値の範囲を見積もります。これは、与えられたサンプルデータのセットから計算して見積もった範囲です。同じ母集団から独立したサンプルを連続して取得し、各サンプルに対して信頼区画が計算される場合、その区画のあるパーセンテージ(信頼レベル)は、未知の母集団母数を含みます。Remark Office OMR は、1%、5%、95%、99%の信頼区画を計算します。
テストの信頼性	Kuder-Richardson の公式 20	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
	Kuder-Richardson の公式 21	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
	係数（クロンバック）の $\alpha$	項目のグループが、1つの考えまたは構想にどの程度うまく焦点を合わせているかを示す係数。

テスト統計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
統計の表示	テストの信頼性	レポートの [テストの信頼性] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは <b>Kuder-Richardson</b> や係数 $\alpha$ を含みます。
	信頼区間	レポートの [信頼区間] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは信頼区画 1、5、95、99%を含みます。
	百分位数	レポートの [百分位数] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは第一四分位数および、第三四分位数、四分位範囲、中間得点を含みます。
	統計	レポートの [統計] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは平均点、平均パーセント点、ベンチマーク点、点数の範囲、標準偏差、分散を含みます。
	採点データ	レポートの [採点データ] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは採点された項目の数、合計点、最高得点、最低得点を含みます。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.5 レポート 105 – 生徒の回答レポート

生徒の回答レポートを使用すると、テストの全回答を生徒別や質問別に表示できます。生徒はレポートの左側に縦方向にリストされます。質問はレポートの上端に横方向にリストされます。採点対象の各質問に対する各生徒の回答は、色付きのボックス内に表示されます。正答は緑、誤答は赤のボックスです。空白の白いボックスは、生徒がその質問を空白のままにしていたか、あるいは無効な回答をした場合(たとえば、複数回答が許可されていない質問に複数の項目を選んだ場合など)です。レポートの右端には、合計点、パーセントスコア、評価、スケールスコア(有効な場合)がリストされます。レポートの下端には、正答を回答した生徒のパーセンテージと、合計点/パーセントスコア/評価の平均が表示されます。このレポートは、生徒と質問の両方に関するパフォーマンスを視覚的に示します。レポートに使用する色は、レポートのプロパティでカスタマイズできます。

生徒の回答レポートのプロパティを、以下の表に要約して示します( [ツール] | レポート プロパティ ] をクリックするとアクセスできます)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	リピートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	質問のヘッダー	各レポートの上に質問をどのように表示するかを設定します。自動番号、質問名(デフォルト)、項目番号を選択できます。質問名が長い場合は、自動番号か項目番号を使う方が良いでしょう。
	グループ間で改ページ	各グループの情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	主観的な質問	主観的な質問に正答/誤答/空白の色を割り当てるかどうかを設定します。
	生徒の並べ替え	生徒を回答者 ID、パーセントスコア、合計点、百分位数、評価で並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順序	生徒の並べ替え(上記の基準に基づいて)を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	統計に網かけ	レポート内の最後の数列にグレーの影を付けるかどうかを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ヘッダーのフォントサイズ	レポートヘッダーの列と行(生徒と質問)に使用するフォントのサイズを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	正答の枠線のスタイル	正答を囲む枠の色を、透明、実線(デフォルト)、ダッシュ、点線、ダッシュ-点、ダッシュ-点-点のいずれかに設定します。
	正答のテキスト色	正答を表示する色を設定します(デフォルトは黒)。
	正答の色	正答の背景色を設定します(デフォルトは緑)。
	誤答の枠線のスタイル	誤答を囲む枠の色を、透明、実線(デフォルト)、ダッシュ、点線、ダッシュ-点、ダッシュ-点-点のいずれかに設定します。
	誤答のテキスト色	誤答を表示する色を設定します(デフォルトは黒)。
	誤答の色	誤答の背景色を設定します(デフォルトは赤)。
	未回答の枠線のスタイル	未回答または無効な回答を囲む枠の色を、透明、実線(デフォルト)、ダッシュ、点線、ダッシュ-点、ダッシュ-点-点のいずれかに設定します。
	未回答の色	未回答または無効な回答の背景色を設定します(デフォルトは白)。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
要約情報	回答キーの表示	回答キーラベルをレポートの上端(生徒の回答の上の行)に表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	正答率の表示	生徒の回答の下に正答率の行を表示するかどうかを設定します。正答率の行は、その質問に正しく回答した生徒のパーセンテージを示します。主観評価の質問と要約情報(レポートの末尾)の場合、正答率の行には平均が表示されます。
	合計点の表示	生徒の合計点数をレポートに表示するかどうかを設定します。
	パーセントスコアの表示	生徒のパーセントスコアをレポートに表示するかどうかを設定します。
	評価の表示	生徒の評価をレポートに表示するかどうかを設定します。
	スケールスコアの表示	スケールスコアを使用する場合、スケールスコアの列をレポートの末尾に表示するかどうかを設定します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.6 レポート 106 – 要約テストレポート

要約テストレポートは、テストの基本的な統計情報を要約した形で表示します。オプションとして、全体としてのテストに関する統計情報をヘッダーに表示できます。レポート本文には、各質問、それに対する回答の頻度、正答以外の選択肢に関する情報、グループ回答、点双列相関の計算を表示します。次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
ポイントの合計	そのテストで獲得可能な合計点(客観評価点数と、該当する場合には主観評価点数)を表示します。
合計生徒数	そのテストに回答した生徒の合計人数を表示します。
標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。

統計情報	意味
中間スコア	分散の中央値。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
平均スコア	全体の平均点を表示します。
信頼性係数(KR20)	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
最大スコア	テストの最高得点を表示します。
最小スコア	テストの最低得点を表示します。
スコアの範囲	最高得点と最低得点の間の範囲を表示します。
No.	テストの項目番号を表示します。
質問	フォームテンプレートで定義した質問の文章を表示します。
正しい回答	各質問に関して、回答キーから取得した正答を表示します。
回答の頻度	ある特定の質問で特定の回答選択肢を生徒が選択したパーセンテージまたは合計回数(たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現するパーセンテージまたは合計回数)を表示します。
不正解の選択肢	どの生徒からも選択されなかった選択肢を(頻度が <b>0</b> )を表示します。
正答グループの回答	合計%の列は、その質問に正しく回答した生徒のパーセンテージを示します。上位 <b>27%</b> の列は、テスト全体で上位 <b>27%</b> に入る生徒の中で、その個別質問に正答した生徒のパーセンテージを表示します。下位 <b>27%</b> の列は、テスト全体で下位 <b>27%</b> に入る生徒の中で、その個別質問に正答した生徒のパーセンテージを表示します。
ポイント点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の得点全体の関係を示します。点双列は、ある質問が、点数の良い生徒と良くない生徒を区別する基準になるかどうかを示します。点双列の範囲は-1 から 1 です。正の値は、テストの点数の良い生徒がその質問に正しく答えていることを示します。注: 標準の複数回答キーを使用している場合、点双列は使用できません。



要約テストレポートのプロパティを、以下の表に要約して示します( [ツール|レポート  
プロパティ] をクリックするとアクセスできます)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	リピートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
レポート形式	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	質問番号の表示	レポートの <b>No.</b> 列を表示して、質問番号を示すかどうかを設定します。
	質問名の表示	質問名の列を表示して、フォームテンプレートの質問名を示すかどうかを設定します。
	正答の表示	レポートの正答列を表示するかどうかを設定します。
	選択されなかった選択肢を表示	レポートの「選択されなかった選択肢」セクションを表示して、生徒が選択しなかった選択肢を示すかどうかを設定します。
	正答グループの表示	レポートの正答グループセクションを表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	点双列の表示	レポートの点双列列を表示するかどうかを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	紛らわしい選択肢の色	正答よりも多く選ばれている選択肢に付ける色を設定します。
	回答のタイプ	回答の頻度行にリストする回答の表示形式をラベル、値、インデックスのいずれかに設定します。ラベルはフォームテンプレートの [ラベル] グリッドに入力されたラベルを参照し、値はフォームテンプレートの [値] グリッドに入力された値を参照し、インデックスは回答選択肢の数値インデックスを参照します(たとえば、回答が <b>A-E</b> の場合、インデックスでは <b>A</b> が最初で <b>E</b> が最後になります)。
	回答頻度のタイプ	回答頻度の表示タイプを、パーセント(デフォルト)または合計数のどちらかに設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 <b>2</b> 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
テスト統計のオプション	テスト統計の表示	テスト統計セクションをレポートのヘッダーに表示するかどうかを設定します( [合計点] から [点数の範囲] )。
	テスト統計を繰り返す	レポートのテスト統計セクションを、レポートの全ページで繰り返して表示するかどうかを設定します。テスト統計を先頭ページのみを設定すると、テスト統計セクションはレポートの最初のページにのみ表示されます。テスト統計を全ページに設定すると、テスト統計セクションはレポートのすべてのページに表示されます。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.7 レポート 107 – 評価分布レポート

評価分布レポートでは、特定の基準で分類したテストの点数を確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポートは人口統計グループを比較するような場合に特に便利です。テストの解答用紙に民族のようなカテゴリをマークしている場合、エスニックグループ単位でデータを確認できます。このレポートは比較評価レポートとよく似ていますが、こちらは階層ではなく表の形式で表示されます。評価分布レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
全体/目標	学習目標を使用している場合、レポートの最初の表「全体」というヘッダーがあり、その次の表ではヘッダーとして目標の名前がリストされます。
ベンチマーク	採点ウィザードまたは <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します。
レポート基準	レポートの生成用に選択したフォームテンプレートの質問を表示します。たとえば、レポートを性別で分ける場合は性別用の列が作られ、その下に選択肢(男性、女性)がリストされます。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。

オプション	説明
評価	レポートの各レベルで到達した得点を表示します(たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して)。
スケールスコア	スケールスコアを使用する場合、レポートの各レベルで到達したスケールスコアを表示します。
%	レポートの各レベルで到達したパーセントスコアを表示します(たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して)。
ベンチマーク差	定義されたベンチマークと、選択されたカテゴリ内での生徒の得点の差を表示します。

評価分布レポートのプロパティを、以下の表に要約して示します( [ツール] レポートプロパティ ] をクリックするとアクセスできます)。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	リピートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ヘッダーのフォントサイズ	レポート内の表で、ヘッダー行セクションに使用するフォントのサイズを設定します(生徒、評価、%など)。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
要約情報	回答者の表示	レポートの生徒列を表示するかどうかを設定します。この列には、各カテゴリに該当する生徒数が表示されます。
	評価の表示	レポートの評価列を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコアの表示	採点ウィザードで、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でのデフォルトとしてスケールスコアを設定した場合に、レポートのスケールスコア列を表示するかどうかを設定します。
	パーセントの表示	レポートの「%」列を表示するかどうかを設定します。
	ベンチマーク差の表示	採点ウィザードまたは <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマークが適用されている場合に、レポートのベンチマーク差の列を表示するかどうかを設定します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 評価分布レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[107 - 評価分布レポート] のリンクを選択します。
- 2 [グループ選択] ウィンドウで、レポートに含めたい問題を最大 3 問まで選択します。

質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注: 複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

## 2.3.8 レポート 201 – 詳細項目分析レポート

詳細項目分析レポートは、個々の質問の統計情報を詳細に検討します。質問はそれぞれに別々の表に表示されます。各表の先頭には、質問文(フォームテンプレートや採点ウィザードで質問文が定義されていない場合は質問名)が表示されます。表の右側には、頻度の表が表示されます。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )を変更すると、グラフをカスタマイズできます。次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
回答	質問のプロパティで指定されたラベル(回答選択肢)を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数(たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など)を表示します。
%	対応する頻度のパーセンテージを表示します。
点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の全体的な得点の関係を示します。値が高くなると、テストで高得点を取っている生徒が、この回答を選んだということになります。

統計情報	意味
欠落	Remark Quick Stats の基本設定( [ツール 基本設定] )で、欠落している値を除外しないように設定した場合、欠落している回答の数に対して指定されたラインが表示されます。欠落している値とは、空白や複数(BLANK または MULT)回答など、有効でない値をすべて指します。
合計	有効な回答全体の数と、それに対応するパーセンテージを表示します。欠落している値を含める場合、欠落した値の合計数が、合計値に含まれます。
学習目標	その質問を利用する定義済みの学習目標を表示します。

詳細項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	回答の並べ替え	各質問に対して、回答を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	学習目標の表示	採点ウィザードで定義した各学習目標を、レポートのそのセクションに表示するかどうかを設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Display Question Name</b> (質問名)、 <b>Display Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (テスト内の順番で表示される項目番号)の中から選択します。
	ページ区切り	各質問の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートグラフ	グラフ位置	グラフの位置を、表の内部にするか表の下にするかを設定します。
	グラフサイズ	レポートに表示するグラフサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	グラフの表示	パーセント情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	グラフのプロパティ	グラフのタイプ、タイトル、色、フォントなどの、グラフのプロパティを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)



レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.9 レポート 203 – 項目分析グラフレポート

項目分析グラフレポートには、詳細項目分析レポートに表示されるグラフと、各グラフに関連する限定的な情報が含まれます。このレポートは詳細項目分析レポートの簡易版であり、グラフ情報のみを参照またはエクスポートする場合に適しています。オプションとして、グラフの生成に使用する回答および頻度パーセンテージを表示できます。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )を調節すると、各グラフに対応するデータの表示と非表示を切り替えることができます。レポートのプロパティでは、各ページにグラフを何個表示するかを指定したり、グラフをカスタマイズしたりすることもできます。項目分析グラフレポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポート形式	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	回答の並べ替え	各質問に対して、回答を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。
	回答項目の表示	各グラフの右側に、回答項目情報を含むチャートを表示するかどうかを設定します。
	表示列数	グラフを表示する列数を設定します。回答項目も表示する場合は、 <b>2 列</b> を推奨します。回答項目を表示しない場合は、ページ内の列数を増やしても良いでしょう。
	グラフのヘッダー	各グラフの上にヘッダーを表示するかどうかを設定します。ヘッダーには、 <b>Auto Number</b> (自動番号)、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (項目番号)があります。質問文が長くなると、質問文全体の長さに合わせて、レポートのページ数が拡張されるので注意してください。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1 行</b> おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 <b>2 桁</b> )。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートグラフ	グラフのプロパティ	グラフのタイプ、タイトル、色、フォントなどの、グラフのプロパティを設定します。 (詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.10 レポート 204 – 要約項目分析レポート

要約項目分析レポートは、詳細項目分析レポートと同じ情報を、要約した状態で表示します。各表の先頭には、質問文(質問文が定義されていない場合は質問名)が表示されます。統計情報を含む表の右側には、棒グラフが表示されます。次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
回答	質問のプロパティで指定されたラベル(回答選択肢)を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数(たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など)を表示します。
%	対応するパーセンテージの合計を表示します。
欠測	データセット内で欠測した値がある場合は、合計および対応するパーセンテージが、各質問に対して表示されます。欠測した値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定( [ツール 基本設定] )で設定できます。

要約項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Display Question Name</b> (質問名)、 <b>Display Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (テスト内の順番で表示される項目番号)の中から選択します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下2桁)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.11 レポート 207 – テスト項目統計レポート

テスト項目統計レポートは、テストの各質問について、記述的な統計情報を表示します。これらの統計情報を、次の表に示します。

統計情報	説明
質問	質問名(定義されている場合)を表示します。テンプレートまたは採点ウィザードで質問の文章が定義されていない場合は、質問名を表示します。項目に自動的に連続した番号を付けるよう選択したり、テスト問題の項目番号を表示したりすることもできます。
ポイント	質問に割り当てられた正解の配点数を表示します。
質問数	採点対象になっている質問数を表示します。
正答	この質問に正解を回答した生徒数を表示します。
誤答	この質問を間違えて回答した生徒数を表示します。
無回答	この質問を無回答(空白)にした生徒数を表示します。
ポイント点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の得点全体の関係を示します。値が高くなると、テストで高得点を取っている生徒が、この回答を選んだということになります。
P 値	帰無仮説 $H_0$ が真の場合に、テスト統計値が、偶然のみから見られる値と同程度、またはそれ以上に極端になる可能性。これは、帰無仮説が実際に真である場合に誤って否定される可能性です。

テスト項目統計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	質問の並べ替え	質問を、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>P Value</b> (P 値)、 <b>Point Biserial</b> (点双列)で並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順序	質問の並べ替え(上記の基準に基づいて)を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	項目ラベル	レポートにリストした各質問を識別するために、[質問] 列に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (テスト内の順番で表示される項目番号)の中から選択します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 2.3.12 レポート 208 ークロス集計レポート

クロス集計レポートは、2 つ以上のカテゴリ変数のカテゴリの組み合わせに当てはまるケースの数を表示する表を生成します。クロス集計は、名義水準または順序水準にある変数間の関係を調べる方法です。1 つの変数のカテゴリは行にリストされ、2 つ目の変数のカテゴリは列に表示されます。クロス集計で使用する質問を、データの中から選択します。クロス集計レポートに表示される頻度は、トータルまたはパーセントです。各質問の正解は、アスタリスクでマークされます。複数の正解を認める質問は、クロス集計では使用できないので注意してください。


クロス集計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
レポート形式	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	空欄の除去	空白の回答を含む列/行を削除するかどうかを設定します。
	テーブルのタイトル	各クロス集計表のタイトルを設定します。
	ヘッダーを太字	テーブルのヘッダーを太字のフォントにするかどうかを設定します。
	パーセンテージ	行の各クロス集計の頻度を数値で表示するかパーセンテージで表示するかを設定します。
	ページ区切り	各クロス集計表の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。



レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### クロス集計レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[クロス集計レポート] のリンクを選択します。
- 2 [クロス集計の質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。分析する行の質問を [行] ボックスに、分析する列の質問を [列] ボックスに入力します。[追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

### 2.3.13 レポート 301 — 生徒評価レポート

生徒評価レポートには、採点操作が行われた各生徒の詳細な採点レポートが含まれます。これらのレポートは、印刷して生徒に手渡してもかまいません。このレポートには、基本的な統計情報の表があります。間違った解答は、黄色でハイライトされています。採点ウィザードを用いてベンチマークスコアを定義した場合は、ベンチマークとともに生徒の点数を示すチャートが表示されます。採点ウィザードを用いて学習目標が定義されている場合は、テスト全体の点数とともに、各学習目標の点数も表示されます。オプションとして、各生徒のレポートにテストのイメージを含めることもできます。

レポートヘッダーをカスタマイズして、最高点、最低点、中央値、平均点、採点されたテストの数などの分類情報を、各生徒のレポートに含めることができます([ツール|レポートプロパティ])。

レポートには、次のようなオプションを入れることができます。

オプション	意味
生徒	生徒の ID 情報を表示します。フォームテンプレートまたは採点ウィザードで、質問が分析回答者 ID に設定されている場合、ここに情報が表示されます(たとえば名前、ID 番号など)。分析回答者 ID がいない場合、採点レポートは連続した番号を反映させます。
ベンチマーク	採点ウィザードでベンチマーク点が定義されている場合は、テストのベンチマーク点を表示します。
評価	生徒の成績 (A~F の評価)を表示します。
合計スコア	素点の合計点を表示します。
スコア (%)	対応するパーセント点を表示します。
棒グラフ	生徒の点数と設定されたベンチマーク(定義されている場合)を比較した棒グラフを表示します。
質問	採点対象になっている質問名を表示します。
回答	生徒が各質問に対して選択した回答を表示します。回答が間違っている場合は、黄色でハイライトされます。間違えた解答に対して、正解を表示するかどうかを選択できます(このプロパティは、間違えた解答の色と同じように、[ツール レポートプロパティ])で設定できます。
正答	間違えた質問の正しい答えを表示します(オプション)。

生徒評価レポートのプロパティを、次の表に示します。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポート形式	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	生徒の並べ替え	生徒を <b>Respondent ID</b> （回答者 ID）、 <b>Percent Score</b> （パーセント点）、 <b>Total Score</b> （合計点）、 <b>Percentile</b> （百分位数）、 <b>Greace</b> （評価）で並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順序	生徒の並べ替え(上記の基準に基づいて)を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	評価の表示	生徒の評価をレポートに表示するかどうかを設定します。
	合計点の表示	生徒の総得点数をレポートに表示するかどうかを設定します。
	パーセント点の表示	生徒のパーセント点をレポートに表示するかどうかを設定します。
	学習目標の表示	採点ウィザードで定義した各学習目標に対して、獲得した点数を表示するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
イメージの形式	イメージの品質	各学生のテストに表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。このプロパティは、 <b>Remark Office OMR</b> が生成したレポートにのみ適用されます。
	イメージの方向	レポートに表示されるテストイメージの向きを設定します。このプロパティは、 <b>Remark Office OMR</b> が生成したレポートにのみ適用されます。
	ページイメージの表示	各生徒のテストイメージをレポートに表示するかどうかを、 <b>[None(なし)]</b> または <b>[ALL(すべて)]</b> に設定します。イメージを何枚表示するかを示す値をここに入力することもできます(複数ページのテストにのみ適用)。このプロパティは、 <b>Remark Office OMR</b> が生成したレポートにのみ適用されます。
	表示列数	各生徒のテストイメージを表示する列数を設定します。列数を多くすると、表示されるテストイメージは小さくなります。このプロパティは、 <b>Remark Office OMR</b> が生成したレポートにのみ適用されます。
項目形式	正答の表示	間違えた質問の正解を表示するかどうかを設定します。
	回答の表示	生徒の回答をレポートに表示するかどうかを設定します。
	誤答のテキストの色	間違えた回答の文字色を設定します。この機能を使用すると、間違えた回答がレポート上でわかりやすくなります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	誤答のハイライト色	間違えた回答のハイライト色を設定します。間違った回答をハイライトすると、どの質問を間違えたかが、生徒にすぐわかるようになります。
	特別課題のテキストの色	特別課題に指定した回答の文字色を設定します。この機能を使用すると、特別課題の回答がレポート上でわかりやすくなります。
	特別課題のハイライト色	特別課題に指定した回答のハイライト色を設定します。特別課題の回答をハイライトすると、どの質問が特別課題であるかがすぐわかるようになります。
	質問の表示	表示する質問のタイプを、すべて、正答のみ、誤答のみのいずれかに設定します。
	表示列数	回答を表示する列の数を設定します。列の数を多くすると、ページ内に収まる量は少なくなります。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
レポートの動作	プロンプトを表示	このプロパティを表示するよう設定すると、[回答者の選択] ウィンドウが表示され、そこでレポートに含める生徒を選択できます。このプロパティを非表示に設定すると、採点対象のデータセット内にリストされる生徒は全員、レポートに含まれるようになります。

### 生徒評価レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[生徒評価レポート] のリンクを選択します。
- 2 [回答者選択] ウィンドウで、レポートに含めたい生徒を選択します。生徒をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに生徒を移動します。

注:複数の生徒を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら生徒をクリックしてください。また、先頭位置の生徒をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の生徒をクリックすると、その範囲内の生徒が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択された各生徒に対して、採点レポートが表示されます。

ヒント:生徒評価レポートにテストイメージを表示させる場合、画面で表示するよりも印刷したほうが見やすくなります。イメージの品質を上げるには、レポートのプロパティで [イメージの品質] プロパティを変更します( [ツール|レポートプロパティ] )。高品質のイメージを使用すると、レポートの実行に時間がかかる場合がありますので注意してください。

### 2.3.14 レポート 401 一項目別の回答レポート

項目別回答レポートは、フォーム上の質問に対して指定された回答をすべて表示します。デフォルトでは、フォームテンプレートまたは採点ウィザードで採点/作表されない質問はいずれも、項目別回答レポートに含めることができます。レポートのプロパティを調節すると( [ツール|レポートプロパティ] )、採点/作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。項目別回答レポートは、質問別にグループ化されます(たとえば、まず質問を表示し、次に回答を表示するというようなことができます)。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは採点ウィザードで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

項目別回答レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	すべての質問を表示	採点/作表対象の質問と採点/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など採点/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の採点/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを <b>Yes</b> に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に1行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目に表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	質問の識別ラベル	レポート上で各質問を識別する文を設定します(たとえば「質問: 何かコメントはありますか?」など)。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 項目別回答レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[項目別回答レポート] のリンクを選択します。

- 2 [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。

質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、質問別にグループ化されて表示されます。



### 2.3.15 レポート 402 – 回答者別の回答レポート

回答者別の回答レポートは、フォーム上の質問に対する回答者の回答を表示します。デフォルトでは、フォーム上で採点/作表されない質問はいずれも、回答者別の回答レポートに含めることができます。レポートのプロパティを調節すると( [ツール|レポートプロパティ] ), 採点/作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。回答者別の回答レポートは、回答者に応じてグループ化されます(たとえば、まず回答者をリストし、次に、選択した質問すべてに対してその回答者が回答した内容をリストするというようなことができます)。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは採点ウィザードファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。回答者別の回答レポートのプロパティを、次の表に示します。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポート形式	すべての質問を表示	採点/作表対象の質問と採点/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など採点/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の採点/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを [Yes] に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目に表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。このプロパティは、 <b>Remark Office OMR</b> が生成したレポートにのみ適用されます。
	回答者の識別ラベル	レポートの回答者を識別する文を設定します(たとえば「回答者: ジョン・ドウ」など)。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 回答者別の回答レポートを実行するには

- 1 **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[回答者別の回答レポート] のリンクを選択します。
- 2 [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。

質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、回答者別にグループ化されて表示されます。

# 調査結果の作表


## 第 3 章

Remark Office OMR ソフトウェアには、調査結果を作表する形式として、簡易調査と調査ウィザードの 2 種類があります。簡易調査では、事前に用意されている設定を用いて調査結果の作表をすぐに行うことができます。調査ウィザードを使用すると、調査結果の作表処理をカスタマイズすることができます。

### 3.1 簡易調査の使用

簡易調査を使用すると、事前に用意されている設定を用いて調査結果の作表をすぐに行うことができます。簡易調査を使用する際、**Remark Quick Stats** はフォームテンプレートで設定したパラメータを用いて作表を管理します。質問を作表するかどうか、レポートをわかりやすくするために使用する質問文、また質問のデータをレポート分析回答者 ID として表示するかどうか(たとえば、表に入れた調査回答をそれぞれ識別する名前など)、などのような事項を指定できます。

#### 簡易調査を使用するには

- 1 **Remark Office OMR Template Editor** で、調査票のフォームテンプレートを作成します。調査表に記載する質問、分析回答者 ID フィールドなどの調査パラメータをかならず設定しておいてください。フォームテンプレートフィールドの設定方法がわからない場合は、ソフトウェアに付属の **Remark Office ユーザズガイド** を参照してください。
- 2 **Remark Office OMR Data Center** で、**[読み取りウィザード]**を使用するか、または既存のデータファイルを開いてフォームを処理します。
- 3 フォームを処理した後、**[ツール]**メニューを選択して、次に**[分析]**、その次に **[簡易調査]** をクリックするか、または  **簡易調査** をクリックします。

**[Remark Quick Stats]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。レポートと統計計算については、**3.3 項**を参照してください。

## 3.2 調査ウィザードの使用

Remark Quick Stats の調査ウィザードを使用すると、調査結果の作表処理をカスタマイズできます。調査ウィザードでは、調査処理の対象にする複数のデータセットの指定、レポートのフィルタリングに使用するメタデータの追加、グループ内で別々に分析を行う質問のサブセットの指定、グループ化した質問の回答への重み付け、ベンチマークの設定、カスタムレポートヘッダーの適用、質問のうち何を取り入れて何を除外するかという指定などができます。また、作表パラメータをすべて含む分析定義を保存して、再度利用できるようにすることもできます。

### 調査ウィザードを使用するには

1. Remark Office OMR Template Editor で、調査票のフォームテンプレートを作成します。
2. Remark Office OMR Data Center で、読み取りウィザードを使用するか、または既存のデータファイルを開いてフォームを処理します。
3. フォームを処理した後、[ツール] メニューを選択して、次に [分析] と調査ウィザードを続けてクリックするか、または  をクリックします。もしくは、タスクペインの [分析] セクションで調査ウィザードのリンクを選択してください。
4. データセットを最初に開くことで、複数のデータセットを作表することもできます。調査ウィザードを起動すると、[使用可能な質問] ウィンドウが表示されます。表に含めたいデータセットを選択してください。データセットはすべて、このウィンドウに表示されるものと同じフォームテンプレートに含まれている必要があります。このウィンドウでは、データセットを識別するためのデータグループ名を追加できます。グループ名を使用すると、データをフィルタリングできます。たとえば、[データグループ] カラムに年を入力すると、数年間にわたるデータ比較ができます。[データグループ] オプションは、データをフィルタリングする時、レポートバッチウィザードを使用する時、レポートを選択する時(比較項目レポート、クロス表レポート、回答レポートなど)に表示されます。

### 3.2.1 [作業の開始] ウィンドウ

[作業の開始] ウィンドウが最初に表示され、ここで既存の分析定義ファイルを選択できます。調査ウィザードが完了すると、定義内容を調査定義ファイル(.SDF)に保存するためのオプションが提示されます。これらのファイルは、デフォルトでは Remark Office OMR 8 フォルダの中にある Analysis Definitions フォルダに保存されます。ウィザードで最初に表示される [参照] ボタンを使用すると、保存した調査定義ファイルを指定して利用できます。

- 1 使用する調査定義ファイルをすでに作成している場合は、[参照] ボタンをクリックします。新規の調査定義ファイルを作成する場合は、次の項に進んでください。

注: この後の操作は、調査定義キーファイルを新規に作成するという状況を想定した操作です。既存の調査定義ファイルを使用する場合は、同じ画面の同じ説明を参照してファイルの変更ができます。

- 2 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 3.2.2 [質問のプロパティ] ウィンドウ

次に[質問のプロパティ] ウィンドウが表示され、ここでフォームの質問プロパティを変更できます。初期状態では、調査ウィザードは、フォームテンプレートで定義された任意の値を使用します。ここではその設定を変更できますが、フォームテンプレートには影響を与えません。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問テキスト	レポートに使用する質問文を入力または変更します。貼り付け用のキーボードショートカット( <b>Ctrl + V</b> )か、または右クリックの[貼り付け] オプションを使用して <b>Windows</b> クリップボードから内容を貼り付けることができます。
回答者の識別	このチェックボックスをマークすると、この質問から得た情報を選択レポートの回答者 <b>ID</b> として使用します。たとえば、何らかの <b>ID</b> 番号を収集する場合、この情報がレポートに表示され、レポートと回答者をリンクします。質問を回答者 <b>ID</b> として使用する場合、その質問を分析に含めないようにしてください。
分析に含める	このチェックボックスをマークすると、その質問が分析に含まれるようになります。
データタイプ	質問のデータタイプとして、テキストまたは数値のいずれかを選択します。
回答値	必要に応じて、回答選択肢それぞれに関連付けられた値を調節します。これらの値は、 <b>Remark Quick Stats</b> で統計情報を計算するために使用します(たとえば平均値の計算など)。
数値の範囲	必要に応じて、回答選択肢のない数値問題(複数選択肢やリスト <b>OMR</b> フィールドでない問題など)の最大値と最小値を入力します。この機能を使用すると、 <b>Remark Quick Stats</b> の質問の平均値レポートや比較項目レポートで質問をグラフ化する際に、使用する範囲を定義できます。たとえば、グリッド <b>OMR</b> フィールドを使用している場合に最小値と最大値を入力すると、回答を図表で示すことができます。

オプション	説明
ベンチマーク値の定義	このチェックボックスをマークして、ベンチマークのパーセントスコアを入力すると、目標のベンチマーク値が定義できます。選択レポートでは、実際の回答がこのベンチマーク値と比較されます。ベンチマークの値は、フォームテンプレートを設定する際に、各回答選択肢に割り当てた値を用いて算出されます。
該当なしの回答	質問に「NA (該当なし)」の回答選択肢があり、NA 回答を <b>Remark Quick Stats</b> の統計(平均値など)に含めたい場合は、 [NA ラベル] ドロップダウンリストから適切なラベルを選択します。このリストには、フォームテンプレートを作成する際にラベルグリッドで定義したラベルが自動的に入力されます。NA として選択できる項目は 1 つだけです。 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で、NA を含めるか除外するかを選択できます。

- 1 左側のタスクペインで質問を選択し、次に、必要に応じて項目を適切に変更します。複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから [Shift] キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。選択した質問のタイプによって、あるオプションが使用できなくなる場合がありますので注意してください(たとえば、バーコードフィールドと OMR フィールドを両方選択すると、同じオプションを使用できなくなることがあります)。
- 2 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 3.2.3 [分析グループ] ウィンドウ

次に [分析グループ] ウィンドウが表示されます。分析グループを使用すると、質問のサブセットを作成し、回答やグループ全体の平均値を表示できます。たとえば、顧客満足度を調査しているとします。調査では、スタッフ、製品、全体的な満足度に関して質問をするでしょう。同じような質問を分析グループにまとめて、それぞれの質問セクション全体のスコアを調べることができます(スタッフに関するグループ、製品に関するグループ、全体的な満足度に関するグループなど)。調査ウィザードで分析グループを作成すると、分析グループレポートが **Remark Quick Stats** 内に表示されます。

- 1 [分析グループ] ウィンドウでは、フォーム全体の質問に加えて、まとめて分析する質問のグループを作成します。分析グループを作成するには、グループ名を [名前] ボックスに入力して [追加] ボタンをクリックします。または、グループ名のリスト

をスプレッドシートまたはデータベースファイルからインポートすることもできます。  
[インポート] ボタンをクリックして、必要なグループ名をインポートします。グループ名が [分析グループ] ボックスにリスト表示されます。

- 2 フォームから作表される質問は、[使用可能な質問] ボックスにリスト表示されます。右側で分析グループを選択し、次に [使用可能な質問] ボックスで質問を選択して、次に [➤➤] ボタンをクリックします。選択された質問は、選択されている分析グループの下にある [分析グループ] ボックスに移動します。[◀◀] ボタンを使用すると、特定の分析グループに割り当てた不要な質問を削除できます。

ヒント: 質問をダブルクリックすると、分析グループに簡単に追加できます。また、複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから [Shift] キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内にある質問がすべて選択されます。

- 3 必要に応じて、[ベンチマークの定義] チェックボックスをマークして、分析グループにベンチマークスコアを割り当てます。この質問グループで目標にするベンチマークの値を [ベンチマーク値] ボックスに入力します。たとえば、回答選択肢に 1~5 の重みを付け、3.5 を許容値とする場合、[ベンチマーク値] の値を 3.5 にします。
- 4 [次へ➤➤] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 3.2.4 [質問の重要度] ウィンドウ

分析グループを定義すると、次に [質問の重要度] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、オプションとしてグループ内部の質問に異なる重みを割り当てることができます。この機能は、グループ内部のある質問が他の質問より重要である場合に便利です。結果を表示する際に、**Remark Quick Stats** は重みを計算に入れます。

- 1 重みを割り当てるには、[分析グループ] ドロップダウンリストから分析グループを選択します。そのグループ内の質問が [質問] カラムに表示されます。デフォルトの重み 1.00 が [重要度] カラムに表示されます。質問に応じて重みを適切に調節してください。質問に重みを付けない場合は、この手順をとばしてください(質問はすべて重み 1.00 になります)。
- 2 [次へ➤➤] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 3.2.5 [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウ

オプションとして、結果として生じるレポートのヘッダーを [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウで定義します。カスタムレポートヘッダーについては、4.2 項で詳細に説明します。カスタムヘッダーを使用すると、レポートヘッダーのタイトルをカスタマイズしたり、グラフィックスを追加したりすることができます。調査ウィザード内でカ



スタムヘッダーを作成すると、カスタムヘッダーは調査ウィザードで作成した定義ファイルとともに保存されます(調査定義ファイルを保存する場合)。したがって、この調査定義ファイルを使用してデータを作表する場合は、カスタムレポートヘッダーを再度作成する必要はありません。調査ウィザード内で定義するカスタムヘッダーは、個々のレポートプロパティで設定するカスタムヘッダーよりも優先されます。

注: レポートヘッダーを専用のファイルとして個別に保存したい場合は、ヘッダーを定義した後に「保存」ボタンをクリックします。他の分析定義ファイルを設定する際に、そのカスタムヘッダーを再利用できます。

- 1 「カスタムレポートヘッダー」チェックボックスをクリックします。
- 2 「編集」ボタンをクリックしてレポートヘッダーを新しく作成するか、または「参照」ボタンをクリックして以前に保存したレポートヘッダーを開きます。

「レポートヘッダーレイアウト」ウィンドウに、レポートの内容が表示されます。カスタマイズ可能なフィールドが 9 個あります。アクティブなフィールドは黄色でハイライトされています。フィールドをクリックして選択し、カスタマイズします。レポートの「Page Width(ページ幅)」設定を使用すると、ズームイン/ズームアウトして表示を調節できます。

#### フィールドをカスタマイズするには

- 1 「カラム」の所で、レポートヘッダーに使用するカラムの数を選択します(1、2、3 のいずれか)。カラムの数は、カスタマイズ可能なカラムの数(3 から 9 の間)を示します。
- 2 カスタマイズするフィールドを 1 つクリックします。
- 3 最初のフィールドにテキストとイメージのどちらを挿入するかを決めます。「テキスト」または「イメージ」のラジオボタンを選択します。
- 4 テキストを挿入する場合は、フィールドのラベルを「ラベル」ボックスに入力します。このラベルは自由形式のテキストです。
- 5 必要に応じて「値」ドロップダウンリストに移動して、挿入する値を選択します。デフォルトの選択肢は、「Image(画像)」、「Date(日付)」、「Date/Time(日付/時刻)」、「Page Number(ページ番号)」です。また、このレポートの生成に使用したフォームテンプレートからフィールドを選択することもできます。この機能は、回答者ごとに個別のページを生成するレポートのために設計されました(たとえば、回答者単位の回答レポートなど)。選択したフィールドのデータが、定義したレポートヘッダーに表示されます。
- 6 「整列」セクションで、項目の整列方法を「左」、「中央」、「右」のいずれかに選択します。挿入された項目は、レポート上で割り当てられたスペースの中で、その設定に応じて整列されます。
- 7 画像を挿入する場合は、「参照」ボタンをクリックして、レポートに載せる画像(会社のロゴなど)を指定します。サポートされる画像のタイプは、.bmp (ビットマップ)

プ)、.gif (GIF)、.jpg (JPEG)、.wmf (Windows メタファイル)、.ico (アイコン)、.cur (カーソル)です。

ヒント: 画像を左/中央/右にそろえるには、目的の位置で適切なフィールドを選択してから画像を挿入します。

- 8 カスタムヘッダー情報をさらに追加する場合は、上記の手順を繰り返します。

ヒント: カスタムヘッダー全体をリセットしてオリジナルの状態に戻す必要がある場合は、[リセット] ボタンをクリックします。画像を削除する場合は、フィールドをクリックして [クリア] ボタンをクリックします。テキストフィールドを削除する場合は、そのフィールドの中でクリックし、[ラベル] を削除し、[値] ドロップダウンリストの選択を先頭の空白エントリに変更します。

- 9 ヘッダーが完成したら、[OK] ボタンをクリックして調査ウィザードのウィンドウに戻ります。
- 10 作成したカスタムヘッダーを保存したい場合は、[保存] ボタンをクリックして、ヘッダーのファイル名と保存場所を入力します。この後調査の作表処理を行う際に、調査ウィザードの同じ画面でファイルを読み込むことができます。
- 11 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

### 3.2.6 [選択のレビュー] ウィンドウ

[選択のレビュー] ウィンドウで、内容が正確かどうか確認します。このウィンドウでは、作表する質問、回答者 ID、分析グループを変更することもできます。

- 1 内容がこれで良ければ、[完了] ボタンをクリックします。調査定義ファイルを新しく作成した場合、または既存の調査定義ファイルに変更を加えた場合は、ファイルを保存するためのプロンプトが表示されます。もしくは、[完了] ボタンの隣にある矢印を使用して、次のいずれかのオプションを選択することもできます。
  - 保存して実行: 調査定義ファイルを保存するためのプロンプトを表示し、調査を実行します。
  - 保存: 調査定義ファイルを保存しますが、調査は実行しません。
  - 実行: 調査定義ファイルを保存せずに調査を実行します。


[完了] ボタンの選択後、調査定義ファイルを保存する場合は手順 2 に進んでください。

- 2 プロンプトに対して [はい] をクリックすると、定義ファイルが保存されます。[いいえ] をクリックすると、調査定義ファイルは保存されませんが、調査ウィザードは終了し、データは作表処理されます。[キャンセル] をクリックすると、調査ウィザードに戻ります。フォームを再度使用する場合、調査定義ファイルを保存すると時間の節約になります。
- 3 [はい] を選択して調査定義ファイルを保存します。[調査定義の保存] ウィンドウに調査定義ファイル名を入力し、ファイルを保存する場所を選択してから、[保存] ボタンをクリックします。

Remark Quick Stats ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。レポートと統計計算については、3.3 項を参照してください。

## 3.3 調査レポート

簡易調査または調査ウィザードを使用してデータを分析すると、数種類のレポートが利用できるようになります。レポートでは、異なる内容を表示したり、同じデータを異なる方法で示したりすることができます。

各レポートには、レポートの外見を指定するプロパティのセットがあります。レポートのプロパティにアクセスするには、[ツール] メニューを選択して [レポートプロパティ] をクリックするか、または  レポートプロパティ(R) をクリックします。以下の項では、各レポートについての簡単な説明と、表示可能な項目について説明します。ここに示したオプションが、レポート実行時に表示されない場合は、[レポートプロパティ] の設定を確認してください。これらのプロパティでは、レポートのセクションの表示と非表示を切り替えることができます。デフォルトで非表示の項目がいくつかあります。

### 3.3.1 レポート 202 – 詳細項目分析レポート

詳細項目分析レポートは、個々の質問の統計情報を詳細に検討します。質問はそれぞれ別々の表に表示されます。各表の上には、質問文(質問文が定義されていない場合は質問の名前)と、その質問の意味が表示されます。表の右側には、頻度のグラフが表示されます。レポートのプロパティ([ツール|レポートプロパティ])を変更すると、グラフをカスタマイズできます。次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
回答	フォームテンプレートで指定されたラベル(回答選択肢)を表示します。
値	各回答に対して、フォームテンプレートまたは調査ウィザードで定義された対応する値を表示します。値は、平均値のような統計情報の計算に使用されます。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数(たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など)を表示します。
%	対応する頻度のパーセンテージを表示します。
累積%	最初の回答から現在の回答までの(現在の回答も含む)パーセントの合計を表示します。

統計情報	意味
有効%	欠落した項目を含まないパーセントを表示します。
累積有効%	最初の回答から現在の回答までの(現在の回答も含む)有効なパーセントの合計を表示します。
合計	有効な回答全体の数と、それに対応するパーセンテージを表示します。

詳細項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポートの形式	回答の並べ替え	各質問に対して、回答を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Display Question Name</b> (質問名)、 <b>Display Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (フォーム内の順番で表示される項目番号)の中から選択します。
	ページ区切り	各質問の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートグラフ	グラフの位置	グラフの位置を、表の内側にするか表の下にするかを設定します。
	グラフのサイズ	レポートに表示するグラフのサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	グラフの表示	パーセント情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	グラフのプロパティ	グラフのタイプ、タイトル、色、フォントなどの、グラフのプロパティを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.2 レポート 203 – 項目分析グラフレポート

項目分析グラフレポートには、詳細項目分析レポートに表示されるグラフと、各グラフに関連する限定的な情報が含まれます。このレポートは詳細項目分析レポートの簡易版であり、グラフ情報のみを参照またはエクスポートする場合に適しています。オプションとして、グラフの生成に使用する回答および頻度パーセンテージを表示できます。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )を調節すると、各グラフに対応するデータの表示と非表示を切り替えることができます。レポートのプロパティでは、グラフを何個表示するかを指定したり、グラフをカスタマイズしたりすることもできます。項目分析グラフレポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポートの形式	回答の並べ替え	各質問に対して、回答を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	回答項目の表示	各グラフの右側に、回答項目情報を含むチャートを表示するかどうかを設定します。
	表示列数	グラフを表示する列数を設定します。回答項目も表示する場合は、 <b>2</b> 列を推奨します。回答項目を表示しない場合は、ページ内の列数を増やしても良いでしょう。
	グラフのヘッダー	各グラフの上にヘッダーを表示するかどうかを設定します。ヘッダーには、 <b>Auto Number</b> (自動番号)、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (項目番号)があります。質問文が長くなると、文章全体の長さに合わせてレポートのページ数が拡張されるので注意してください。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 <b>2</b> 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートグラフ	グラフのプロパティ	グラフのタイプ、タイトル、色、フォントなどの、グラフのプロパティを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.3 レポート 204 – 要約項目分析レポート

要約項目分析レポートは、詳細項目分析レポートと同じ情報を、要約縮した状態で表示します。各表の先頭には、質問文(質問文が定義されていない場合は質問名)が表示されます。統計情報を含む表の右側には、棒グラフが表示されます。次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
回答	フォームテンプレートで指定されたラベル(回答選択肢)を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数(たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など)を表示します。
%	対応するトータルのパーセンテージを表示します。
欠落	データセット内で欠落した値がある場合は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。欠落した値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定( [ツール 基本設定] )で設定できます。
平均	フォームテンプレートで定義した値に基づいて計算した、質問の平均値を表示します。

要約項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。



レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポートの形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	テーブルのヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (フォーム内の順番で表示される項目番号)の中から選択します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	平均の表示	平均値の計算をレポートに表示するかどうかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.4 レポート 205 – 分析グループレポート

分析グループレポートは、調査ウィザードを用いてグループ化した質問を分析します。調査ウィザードでは、フォーム全体以外にも、まとめて分析する質問のグループを作成できます。分析グループを使用すると、質問のサブセットを作成し、回答やグループ全体の平均値を表示できます。またオプションとして、分析グループ内部で質問に対して異なる重みを割り当て、分析対象の質問の重要度を強調することもできます。このタイプの分析は、調査票で関連する質問すべてを含むセクションを設け、結果をまとめてグループ化して表示したい場合に使用できます。

分析グループレポートは、最初に全体の結果を表示し、その次に調査ウィザードで定義したグループの分析を続けます。オプションとして、レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、全体の結果を表示しないという設定ができます。各テーブルの内部には、質問、平均値、平均の棒グラフが表示されます。分析グループに対しては、グループ全体の平均値と、各質問に割り当てた重みが表示されます。

分析グループレポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートの形式	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	要約の表示	結果全体の要約を表示するかどうかを設定します。レポートにはまずこの表が表示され、次に個別の分析レポートの分析が続きます。
	質問の表示	分析グループの内部に個別の質問を表示するかどうかを設定します。このプロパティを非表示(Hide)に設定すると、グループ名、平均値、棒グラフのみが表示されません。
	質問の表示方法	質問を表示する際に何を用いるかを、 <b>Question Name (質問名)</b> 、 <b>Question Text (質問文)</b> 、 <b>Question Order (質問の順番)</b> 、 <b>Question Number (テスト内の順番で表示される項目番号)</b> の中から選択します。
	ページ区切り	各分析グループの後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下2桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.5 レポート 206 – 項目統計レポート

項目統計レポートは、フォームの各質問について、記述的な統計情報を表示します。これらの統計情報を、次の表に示します。

統計情報	説明
質問	質問文(定義されている場合)を表示します。フォームテンプレートまたは調査ウィザードで質問文が定義されていない場合は、質問名を表示します。項目に自動的に連続した番号を付けるよう選択したり、フォームの質問の項目番号を表示したりすることもできます。
有効数	特定の質問に回答した有効な回答者数を表示します。
欠落	欠落している(空白)回答数を表示します。
平均	母集団の中の平均値。
分散	分布がどの程度広がっているかを示す尺度。平均から個々の数値への偏差を二乗した値の平均値として計算されます。
標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
標準誤差	その統計の標本分布の標準偏差。標準誤差は、標本の変動がどの程度統計に示されるかを反映します。
最小値	その範囲内の最小値。
最大値	その範囲内の最大値。
範囲	最大値と最小値の差。

統計情報	説明
歪度	分散の形態から明らかにわかる、データセットの対称度または非対称度を測る尺度。分散グラフの左半分が右半分の鏡に映したようになっている場合、その分散は対称的です。分散が右側に歪んでいる場合(正の歪度)、平均値は中央値より大きくなり、中央値は最頻値より大きくなります。この場合、歪度係数はゼロより大きな値です。分散が左側に歪んでいる場合(負の歪度)、関係は反転します。この場合、歪度係数はゼロより小さな値です。歪みがない場合、または分散が釣鐘型の正規曲線を描いて左右対称になっている場合は、平均値＝中央値＝最頻値になります。
尖度	尖度は、分散の「尾」の部分のサイズに基づいています。尾が比較的長い分散を「急尖」といい、尾の短い分散を「緩尖」といいます。尖度が正規分布と同一である分散は「中尖」といいます。
T-値	平均値(または平均値の対)が分子になり、分子の標準偏差を見積もった値が分母になるような、ランダムなサンプル(またはサンプルの対)の尺度。分母になる見積もりは、サンプルの <b>s</b> の二乗に基づいています。これらの計算で求められた( <b>t</b> )の値がゼロから十分に隔たっている場合、この検定は統計的に十分であると考えられます。
平均絶対偏差	データの値が平均値から平均してどの程度隔たっているかを計算する変動の尺度。
百分位数 (25 及び 75)	百分位数とは、データのサンプルを、(できるだけ)同じ数の対象を含む <b>100</b> 個のグループに分ける値です。たとえば、データ値の <b>25%</b> は、第 <b>25</b> 百分位数より下に位置します。
中央値	分散の中央値。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
四分位範囲	第 <b>75</b> 百分位数と第 <b>25</b> 百分位数間の差異を表示します。
信頼区間	信頼区間は、未知の母集団母数を含むと思われる値の範囲を見積もります。これは、与えられたサンプルデータのセットから計算して見積もった範囲です。同じ母集団から独立したサンプルを連続して取得し、各サンプルに対して信頼区画が計算される場合、その区画のあるパーセンテージ(信頼レベル)は、未知の母集団母数を含みます。 <b>Remark Office OMR</b> は、 <b>1%、5%、95%、99%</b> の信頼区画を計算します。

項目統計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
レポートの形式	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	項目ラベル	レポート上の各質問を識別するために何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Question Name</b> (質問名)、 <b>Item Number</b> (テスト内の順番で表示される項目番号)、 <b>Question Text</b> (質問文)の中から選択します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
統計の表示	信頼区間	レポートの「信頼区間」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは信頼区画 1、5、95、99%を含みます。
	百分位数	レポートの「百分位数」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは第 25 および第 75 百分位数、四分位範囲、中間地を含みます。
	記述的統計	レポートの「記述的統計」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、歪度、尖度、T 値、平均絶対偏差を含みます。
	値	レポートの「値」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、最小値、最大値、範囲を含みます。
	要約統計	レポートの「要約統計」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、平均、分散、標準偏差、標準誤差を含みます。
	質問	レポートの「質問」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、質問名、サンプルサイズ、欠落している数値を含みます。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.6 レポート 208 –クロス集計レポート

クロス集計レポートは、2つ以上のカテゴリ変数のカテゴリの組み合わせに当てはまるケースの数を表示する表を生成します。クロス集計は、名義水準または順序水準にある変数間の関係を調べる方法です。1つの変数のカテゴリは行にリストされ、2つ目の変数のカテゴリはカラムに表示されます。クロス集計で使用する質問を、データの中から選択します。クロス集計レポートに表示される頻度は、トータルまたはパーセントです。複数の正解を認める質問は、クロス集計では使用できないので注意してください。


クロス集計レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポートの形式	空欄の除去	空白の回答を含む列/行を削除するかどうかを設定します。
	テーブルのタイトル	各クロス集計表のタイトルを設定します。
	テーブルのヘッダーを太字	表のヘッダーを太字のフォントにするかどうかを設定します。
	パーセンテージ	行の各クロス集計の頻度を数値で表示するかパーセンテージで表示するかを設定します。



レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	ページ区切り	各クロス集計表の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

#### クロス集計レポートを実行するには

- 1 **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[クロス集計レポート] のリンクを選択します。
- 2 [クロス集計の質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。分析する行の質問を [行] ボックスに、分析するカラムの質問を [列] ボックスに入力します。[追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。  
 注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

### 3.3.7 レポート 209 – 比較項目レポート

比較項目レポートでは、特定の基準で分類したテストの作表結果を確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポー

トは人口統計グループを比較するような場合に特に便利です。たとえば、回答者が調査票で性別のカテゴリをマークしていれば、性別に分けてデータを確認できます。比較項目レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
凡例	レポートの生成に使用する基準を表示します。
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。各回答者単位までのレポート記述はオプションです( [ツール レポートプロパティ] で設定を確認してください)。
回答者	選択された各カテゴリに該当する回答者数を表示します。
平均	各項目グループの平均回答を表示します。

比較項目レポートのプロパティを、次の表に示します。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	凡例の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した基準を示します。
	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第4章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートの形式	テーブルのヘッダー	各表を識別するために、表の上に質問名と質問文のどちらを表示するかを設定します。
	グループラベルの表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であるかを示します。通常は、凡例かグループラベルのどちらかを表示します。
	背景色	レポート内の表の背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	棒グラフのレイアウト	値 <b>Bar</b> (生徒の評価パーセンテージを追跡する棒グラフ)の外見を設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
グループカラーのコード	項目ラベル	レポートにリストした各項目(データセットの質問)の文字色を設定します。
	グループ 3 の色	レポートにリストした <b>3</b> 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした <b>2</b> 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

#### 比較項目レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[比較項目レポート] のリンクを選択します。
- 2 [比較レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。

質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

### 3.3.8 レポート 210 – 質問の平均値レポート

質問の平均値レポートは、質問を個別に作表し、定義した最小値と最大値、平均値、ベンチマーク差(該当する場合)を表示します。質問の平均値レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問	作表した個別の質問を識別する質問文を表示します。これはフォームテンプレートまたは調査ウィザードで定義した内容です。オプションとして、質問名、質問の順序、質問番号を表示できます(この設定は [ツール プロパティ] で変更できます)。
最小	フォームテンプレートで定義した回答の最小値を表示します。フォームテンプレートを設定する時に、各回答選択肢には値が割り当てられます。平均値などの統計情報の計算には、この値が使用されます。

オプション	説明
最大	フォームテンプレートで定義した回答の最大値を表示します。フォームテンプレートを設定する際に、各回答選択肢には値が割り当てられています。平均値などの統計情報の計算には、この値が使用されます。
平均	各質問に対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。
ベンチマーク	調査ウィザードで質問に対して入力したベンチマークの値を表示します(該当する場合)。これは質問に対して予測される値であり、フォームテンプレートで各回答選択肢に対して入力した値に基づいています。
棒グラフ	平均値の計算を示す棒グラフを表示します。調査ウィザードでベンチマーク値を定義すると、棒グラフにはベンチマークの位置に青いラインが表示されます。平均値がベンチマークより低い場合、棒の内側の影が赤になります。平均値がベンチマークより高い場合、棒の内側の影は緑です。棒グラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます( [ツール レポートプロパティ] )。

質問の平均値レポートのプロパティを、以下の表に要約して示します( [ツール|レポートプロパティ] をクリックするとアクセスできます)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	リピートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第4章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第 4 章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	質問の表示	質問の表示に何を用いるかを、質問名、質問文、テスト内の表示順序となる項目番号の中から選択します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	ページ区切り	各分析グループの後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
要約情報	最小値の表示	フォームテンプレートで定義した質問の最小値を表示するかどうかを設定します。
	最大値の表示	フォームテンプレートで定義した質問の最大値を表示するかどうかを設定します。
	平均の表示	質問の平均値を表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	ベンチマークの表示	質問のベンチマークを表示するかどうかを設定します。ベンチマークはその質問に対して予測される値で、調査ウィザードで定義します。使用すると棒グラフも更新され、回答が予測ベンチマークに達していない場合は棒グラフに赤い影が付けられ、回答が予測ベンチマークを超えている場合は緑の影が付けられます。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.9 レポート 211 – 分析グループレポート

分析グループレポートは、調査ウィザードを用いてグループ化した質問を分析します。調査ウィザードでは、フォーム全体以外にも、まとめて分析する質問のグループを作成できます。分析グループを使用すると、質問のサブセットを作成し、回答やグループ全体の平均値を表示できます。またオプションとして、分析グループ内部で質問に対して異なる重みを割り当て、分析対象の質問の重要度を強調することもできます。このタイプの分析は、調査票に関連する質問すべてを含むセクションを設け、結果をまとめてグループ化して表示したい場合に使用できます。たとえば、自動車ディーラーの顧客満足度調査を処理しているとします。営業スタッフについての質問グループ、サービススタッフについての質問グループ、ディーラー全体についての質問グループを設定したいと思うでしょう。これらの質問グループを分析グループに入れると、個別の質問パフォーマンスと、同じ分類に入る質問全体のパフォーマンスの両方を調べることができます。また、コース評価を処理している場合には、同じ講師や採点方法などに属する別々の質問サブセットをまとめて処理したいような場合もあるでしょう。

分析グループレポートは、最初に全体の結果を表示し、その次に調査ウィザードで定義したグループの分析を続けます。オプションとして、レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、全体の結果を表示しないという設定ができます。各テーブルの内部には、質問、平均値、平均の棒グラフが表示されます。分析グループに対しては、グループ全体の平均値と、各質問に割り当てた重みが表示されます。

質問の平均値レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問	作表した個別の質問を識別する質問文を表示します。これはフォームテンプレートまたは調査ウィザードで定義した内容です。オプションとして、質問名、質問の順序、質問番号を表示できます(この設定は [ツール プロパティ] で変更できます)。
グループのベンチマーク	調査ウィザードで分析グループに対して入力したベンチマークの値を表示します(該当する場合)。これはグループに対して予測される平均値であり、フォームテンプレートで各回答選択肢に対して入力した値に基づいています。
質問のベンチマーク	調査ウィザードで質問に対して入力したベンチマークの値を表示します(該当する場合)。これは質問に対して予測される値であり、フォームテンプレートで各回答選択肢に対して入力した値に基づいています。
重要度	分析グループ内で各質問に割り当てられる重み(重要度)を表示します。デフォルトでは、各質問の重みは 1 ですが、調査ウィザードでこの設定を質問ごとに変更できます。
グループの平均値	各分析グループに対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。
質問の平均値	各質問に対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。
棒グラフ	平均値の計算を示す棒グラフを表示します。レポートの先頭では、分析グループに関する棒グラフです。表の内部では、個別の質問に関する棒グラフになります。調査ウィザードでベンチマーク値を定義すると、棒グラフにはベンチマークの位置に青いラインが表示されます。平均値がベンチマークより低い場合、棒の内側の影が赤になります。平均値がベンチマークより高い場合、棒の内側の影は緑です。棒グラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます( [ツール レポートプロパティ] )。

分析グループレポートのプロパティを、以下の表に要約して示します( [ツール|レポートプロパティ] をクリックするとアクセスできます)。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。



レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	リピートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポート形式	棒グラフのレイアウト	棒グラフの外見を設定します。(詳細は第 4 章「プリファレンスとプロパティ」を参照してください。)
	要約の表示	結果全体の要約を表示するかどうかを設定します。レポートにはまずこの表が表示され、次に個別の分析レポートの分析が続きます。
	質問の表示	分析グループの内部に個別の質問を表示するかどうかを設定します。このプロパティを非表示に設定すると、グループ名、平均値、棒グラフのみが表示されます。
	質問の表示	質問の表示に何を用いるかを、質問名、質問文、テスト内の表示順序となる項目番号の中から選択します。
	ページ区切り	各分析グループの後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを A4、US レターサイズ、US リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します(最大で小数点以下 2 桁)。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 3.3.10 レポート 401 – 項目別回答レポート

項目別回答レポートは、フォーム上の質問に対して指定された回答をすべて表示します。デフォルトでは、フォーム上で評価/作表されない質問はいずれも、項目別回答レポートに含めることができます。レポートのプロパティを調節すると( [ツール|レポートプロパティ] ), 評価/作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。項目別回答レポートは、質問別にグループ化されます(たとえば、まず質問を表示し、次に回答を表示することができます)。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは調査ウィザードファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

項目別回答レポートのプロパティを、次の表に示します。


レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
レポートの形式	すべての質問を表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。 ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティをはいに設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	イメージの品質	各項目に表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	質問の識別ラベル	レポート上で各問題(質問)を識別する文を設定します(たとえば「質問: 何かコメントはありますか?」など)。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

### 項目別回答レポートを実行するには

- 1 **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[項目別回答レポート] のリンクを選択します。
- 2 [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。

質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタン  を使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、質問別にグループ化されて表示されます。

### 3.3.11 レポート 402 — 回答者別の回答レポート

回答者別の回答レポートは、フォーム上の質問に対する回答者の回答を表示します。デフォルトでは、フォーム上で評価/作表されない質問はいずれも、回答者別の回答レポートに含めることができます。レポートのプロパティを調節すると( [ツール|レポートプロパティ] ), 評価/作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。回答者別の回答レポートは、回答者に応じてグループ化されます(たとえば、まず回答者をリストし、次に、選択した質問すべてに対してその回答者が回答した内容をリストすることができます)。レポートのプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )で、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは調査ウィザードファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

回答者別の回答レポートのプロパティを、次の表に示します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートのヘッダー	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルを、レポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーレイアウトを設定します。(詳細は第 4 章「基本設定とプロパティ」を参照してください。)
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
レポートの形式	すべての質問を表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティをはいに設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目に表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	回答者の識別ラベル	レポートの回答者を識別する文を設定します(たとえば「回答者:John Doe」など)。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
レポートのフッター	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。

#### 回答者別の回答レポートを実行するには

- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで、[回答者別の回答レポート] のリンクを選択します。
- 2 [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。

注:複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、回答者別にグループ化されて表示されます。

# 基本設定とプロパティ

---

## 第 4 章

Remark Quick Stats では、レポートの外見や操作感をカスタマイズできます。第 2 章と第 3 章では、各レポートとそれに対するプロパティについて説明しました。この章では、次のような点を説明します。

- レポートの全般的な基本設定(4.1 項)
- カスタムレポートヘッダー(4.2 項)
- グラフのプロパティ(4.3 項)

### 4.1 レポートの全般的な基本設定

Remark Quick Stats の全般的な基本設定では、ソフトウェアの使い方をカスタマイズできます。使い方に合わせて基本設定を設定すると、レポートを早く簡単に実行できるようになります。

基本設定にアクセスするには

- 1 Remark Quick Stats の中で、[ツール] メニューを選択してから [基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ウィンドウの左側にあるタスクペインから、基本設定の各カテゴリにアクセスして調整します。
- 3 [OK] ボタンをクリックして変更を保存します。

レポートの各基本設定については、次の項で説明します。

#### 4.1.1 全般の基本設定

全般の基本設定では、欠落している値を分析に含めるかどうかを設定できます。欠落した値とは、有効と見なされないデータです。言い換えると、欠落したデータとは、フォームテンプレート内での定義内容に一致しないすべてのデータということになります。欠落データには、たとえば空白(BLANK)や複数(MULT)の回答、フォームテンプレートで定義したラベルに一致しないテキスト入力(たとえば、ラベルが「Very Good」と定義されている場合に「very good」と入力した場合など)があります。欠損値をレポートに含める場合は、欠損値がいくつあったかを示す個別のラインが表示されます。欠損値



をレポートに含めない場合、これらの回答はレポートには、まったく反映されません。欠損値を含めたくない場合は「欠損値を項目統計から除外」チェックボックスをマークします。

#### 4.1.2 レポート表示の基本設定

レポート表示の基本設定では、画面上でのレポートの外見をカスタマイズできます。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
背景色	各レポートの背景色を設定します。この色は表示専用です。
ズーム	各レポートのズームレベルを設定します。
ルーラーの表示	各レポートの上にルーラーを表示するかどうかを設定します。ルーラーは表示専用です。
目次の表示	レポート内を移動しやすいように目次を表示するかどうかを設定します。
複数の回答者 ID 間のデリミタ	レポートに対して複数の分析回答者 ID を指定した場合に使用するデリミタ（区切り記号）を設定します。ここで選択した項目は、分析回答者の ID と ID の間に表示されます(たとえば、コンマを使用し、分析回答者 ID として姓と名を指定した場合は「Doe, John」のように表示されます)。

#### 4.1.3 デフォルトレポートの基本設定

デフォルトレポートの基本設定を使用すると、作表または評価の際に実行するデフォルトレポートを設定できます。他のレポートを実行することもできますが、**Remark Quick Stats** を起動すると、常に選択したレポートが自動的に表示されます。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
ベースレポートディレクトリ	デフォルトレポートを格納するディレクトリを設定します。ほとんどの場合、これはソフトウェアのインストール中に選択した場所に設定します。

オプション	説明
調査	調査を実行する際に表示するデフォルトのレポートを設定します。ドロップダウンリストを使用してレポートを選択します。保存したレポートバッチウィザードの設定ファイルを使用したい場合は、省略記号(...)をクリックしてその場所を指定します。
評価	評価を実行する際に表示するデフォルトのレポートを設定します。ドロップダウンリストを使用してレポートを選択します。保存したレポートバッチウィザードの設定ファイルを使用したい場合は、省略記号(...)をクリックしてその場所を指定します。

#### 4.1.4 デフォルトの評価ベンチマーク

デフォルトの評価ベンチマークの基本設定を使用すると、テストを採点する際にベンチマークのデフォルト値を設定できます。ベンチマークは、優秀である(または、ある題目をマスターした)と見なされるために必要な最低限のスコアを示します。ベンチマークを使用しない場合、またはそれを頻繁に変更する場合は、デフォルト設定をオフにした方が良いでしょう。デフォルトのベンチマーク設定を標準化したい場合は、テスト全体、テスト上の個別の問題、学習目標についてのデフォルトを設定できます。テストの評価を行う際に採点ウィザードでこれらの設定を変更すると、デフォルト設定よりも採点ウィザードの方が優先されます。ただし、デフォルトを設定すると、簡易採点を使用する場合でもベンチマークを活用できます。デフォルトのベンチマークを設定するには、適切なチェックボックスを有効にしてから、使用するパーセンテージをデフォルトとして入力します。

#### 4.1.5 全体の評価スケールの基本設定

全体の評価スケールの基本設定を使用すると、テストを評価するスケールを選択または定義できます。基本設定で設定した評価スケールは、簡易評価の操作を実行する際には常に使用されます。

**評価スケールを選択するには**

- 1 [デフォルトのスケール] ドロップダウンリストを使用して、使用するスケールを選択します。選択したスケールが、下記のグリッドに表示されます。
- 2 [OK] ボタンをクリックします。

#### 新しい評価スケールを作成するには

- 1 [スケール名] ボックスに名前を入力します。
- 2 グリッド内の [評価]、[パーセンテージ (最小)] に適切な値を入力します。
- 3 [追加] ボタンをクリックします。新しい評価スケールが自動的にデフォルトになり、[デフォルトスケール] リストから選択できるようになります。

#### 評価スケールを削除するには

- 1 [デフォルトスケール] ドロップダウンリストからスケールを選択します。
- 2 [削除] ボタンをクリックします。

### 4.1.6 学習目標の評価スケールの基本設定

学習目標の評価スケールの基本設定を使用すると、テストを評価する際の学習目標に使用する評価スケールを定義できます。学習目標は、特定の知識分野をテストする問題のサブセットを表します。テスト全体の評価に加えて、学習目標も評価されます。評価スケールを 1 つ定義して、定義した学習目標すべてに対してその評価スケールを使用してもかまいません。

#### 評価スケールを選択するには

- 1 [デフォルトスケール] ドロップダウンリストを使用して、使用するスケールを選択します。選択したスケールが、下記のグリッドに表示されます。
- 2 [OK] ボタンをクリックします。

#### 新しい評価スケールを作成するには

- 1 [名前] ボックスに名前を入力します。
- 2 グリッド内の [評価]、[パーセンテージ (最小)] に適切な値を入力します。
- 3 [追加] ボタンをクリックします。新しい評価スケールが自動的にデフォルトになり、[デフォルトスケール] リストから選択できるようになります。

#### 評価スケールを削除するには

- 1 [デフォルトスケール] ドロップダウンリストからスケールを選択します。
- 2 [削除] ボタンをクリックします。

### 4.1.7 全体のスケールスコアと学習目標のスケールスコア

スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を、数値で比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。スケールスコアは、外部の採点システムからの特定の採点が必

要とされる特殊な使用ケースを想定した高度な機能であると言えます。スケールスコアを使用すると、データベースを用いて、生徒が試験で得た点数を、素点またはパーセントスコアから、変換ファイル(データベース)で定義した他の点数に変換できます。スケールスコアを使用する場合、全体の成績、客観評価点数、主観評価点数、または定義済みの学習目標点数を参照できます。2種類の値を選択して二次元的な参照を実行できます。Remark から取得した値を変換(スケールスコア)テーブルで参照すると、適切なスケールスコアが返されます。スケールスコアを参照する際は、参照値(パーセントスコア、合計点または百分位数)が定義された数値範囲内に含まれるレコードをテーブル内で検索します。

スケールスコアを含むデータベースファイルとしては、Access、Excel、SQL Server、Oracle、Paradox、dBase、ODBC 接続のいずれかを使用できます。このデータベース内では、最小得点フィールドと最大得点フィールドを定義します。これらは特定の数値でも点数の範囲でもかまいません。データベース内の得点にはそれぞれ対応するスケールスコアフィールドがあり、このフィールドが Remark Quick Stats に返されます。オプションとして換算評価フィールドを含めることができます。これは選択レポートで Remark 計算による評価の代わりに使用します。最小値フィールドと最大値フィールドを、データベース内の同じフィールドに定義できます。この場合、参照する値は、返されるスケールスコアフィールドの値と正確に一致していなければなりません。スケールスコアが見つからない場合、レポートにはダッシュ記号(-)が表示されます。

また、精度オプションを使用すると、参照点数をユーザ定義による小数点桁数で切り上げてからデータベース参照を実行できます。切り上げを行う場合、Remark Quick Stats は従来の切り上げ方法を用いて数値全体の切り上げまたは切り捨てを行います。たとえば、点数が 69.5 の場合は 70 に切り上げ、データベースでは 70 が検索されます。

スケールスコアが表示されるレポートは、生徒統計レポート、比較評価レポート、成績分布レポート、生徒回答レポートです。各レポートには、スケールスコアを表示するかどうかを設定するようなプロパティ( [ツール|レポートプロパティ] )があります(プロパティはデフォルトでオンです)。レポートのスケールスコアヘッダは、参照データベースのカラムヘッダ名から直接取得されます。レポート上での表示が最適になるよう、この名前はできるだけ短い名前にすることをお勧めします。

スケールスコアは採点ウィザードで定義でき、簡易採点の操作で使用できるよう、Remark Quick Stats の基本設定でデフォルトとして設定できます。以下の説明は、全体のスケールスコアと学習目標のスケールスコアの両方で使用できます。

注: 採点ウィザードを使用する場合、オプションがオンであり、かつスケールスコアの参照が定義されている場合にのみ、スケールスコアが表示されます。簡易採点を使用する場合、Remark Quick Stats 基本設定のデフォルトスケールスコアが使用されます(その設定がアクティブなフォームテンプレートに適用される場合)。簡易採点を行う際にスケールスコアを使用しない場合は、Remark Quick Stats の基本設定でデフォルトのスケールスコアを設定しないでください。

### スケールスコアをエクスポートするには

- 1 **Remark Quick Stats** 基本設定の [全体のスケールスコア] (または [学習目標のスケールスコア]) リンクで、 [デフォルトスケール] ドロップダウンリストから評価スケールを選択します。
- 2 [エクスポート] ボタンをクリックします。
- 3 スケールのファイル名を入力し、保存する場所を選択します。ファイルタイプは **Scaled Score (.rssx)** です。デフォルトの場所は、**Remark Office OMR 8** フォルダの中にある **Analysis Definitions** フォルダです。ただし、ネットワークや外部も含めて他の場所を自由に選ぶこともできます。
- 4 [保存] ボタンをクリックします。これで、スケールスコアを **Remark Quick Stats** の別のインスタンスにインポートできます。

### スケールスコアをインポートするには

- 1 **Remark Quick Stats** 基本設定の [全体のスケールスコア] (または [学習目標のスケールスコア]) リンクで、 [インポート] ボタンをクリックします。
- 2 インポートしたいスケールスコアファイルを選択します。デフォルトの場所は、**Remark Office OMR 8** フォルダの中にある **Analysis Definitions** フォルダです。ただし、ネットワークや外部も含めて他の場所を自由に選ぶこともできます。
- 3 [開く] ボタンをクリックします。スケールスコアがまだない場合はインポートされます。システム上にスケールスコアがすでにある場合は、そのスケールスコアを上書きするかどうか確認されます。

スケールスコアがインポートされると、**Remark Quick Stats** の基本設定と採点ウィザードからスケールスコアにアクセスできます。

### スケールスコアを設定するには

- 1 以前にスケールスコアを作成したことがある場合には、基本設定のタスクペインにある [全体のスケールスコア] (または [学習目標のスケールスコア]) リンクで、そのスケールスコアを [デフォルトのスケールスコア] ドロップダウンリストから選択できます。
- 2 オプションとして、 [スケールスコアの名前] ボックスに名前を入力して新しいスケールスコアを作成できます。
- 3 [スケールスコアの基準] で、参照する点数のタイプを合計スコア、パーセントスコア、百分位数の中から選択します。この点数は、外部ファイルの中で対応する点数を参照する際に使用する点数です。
- 4 オプションとして、点数を切り上げたい場合は [切り上げ] チェックボックスをマークして、小数点以下の桁数を入力します。このオプションを使用すると、参照点数が最初に切り上げられ、次に、その切り上げた値を用いて参照が行われます。
- 5 [第一のルックアップ基準] ドロップダウンリストを使用して、参照する特定の点数を選択します。全体の点数、客観評価点数、主観評価点数、または定義したいいずれか

の学習目標を選択できます。このプロパティは **Remark Quick Stats** に対して、スケールスコアを検索する際に実際に参照する点数を示します。注: 百分位数の参照を基本にする場合は、全体の点数と学習目標の点数のみ参照できます。

- 6 (オプション) 二次元参照を作成する場合は、[第二のルックアップ基準] ドロップダウンリストから二次参照基準を選択します。たとえば、主観評価と客観評価の両方の点数を参照して全体のスケールスコアを生成したいという場合があります。
- 7 [データベース] ボタンをクリックして、外部データベースファイルへの接続を選択(または変更)します。
- 8 [データベース選択] エリアで、[タイプ] ドロップダウンリストを使用して、このフィールドに関連付けるデータベースの種類(**Access**、**Excel** など)を選択します。
- 9 [参照] ボタンをクリックして、データベースファイルのある位置へ移動してファイルを選択します。
- 10 ファイルを選択して [開く] ボタンをクリックします(またはファイル名をダブルクリックします)。

ODBC 接続を使用している場合は、手順の 11-13 を実行します(この手順を完了するには、データベース管理者から特定の情報を得る必要があります)。それ以外の場合は、手順 14 に進みます。

- 
- 11 オプション: [DSN] ドロップダウンリストからデータベースタイプを選択します。
  - 12 オプション: チェックボックス [ディレクトリベース] と [DSN ベース] のうち適切な方を選択して、データベースがディレクトリベースか **DSN** ベースかを指定します。
  - 13 オプション: データベースがパスワード保護されている場合は、[ユーザ名] および [パスワード] ボックスにログイン情報を入力してください。データベースがパスワード保護されていない場合は、この手順は必要ありません。

- 
- 14 [ルックアップとリターン] セクションで、[データベースに接続] ボタンをクリックして、データベースをフィールドにリンクします(**Remark Quick Stats** は、パスワードで保護されていないデータベースへ接続しようとする点に注意してください)。
  - 15 [スケールスコアテーブル] ドロップダウンリストを使用して、スケールスコアのフィールドを含むデータベース内のテーブルを選択します(**Remark Quick Stats** はデフォルトでファイルの先頭にあるテーブル/シートを選択する点に注意してください)。
  - 16 外部データベースから [第一の最小スコア]、[第一の最大スコア]、[スケールスコア]、およびオプションで [スケールスコア評価] フィールドを選択します。オプションの [スケールスコア評価フィールド] は、評価(**A**、**B**、**C** など)を示す選択レポートで、**Remark** が生成した評価を、データベースから取得した換算評価に置き換えます。これらのフィールドは参照と置換のための値を含みます。使用可能な項目は、

選択した参照項目(全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数、客観及び主観評価の点数、学習目標のいずれか)に応じて変わります。

参照フィールドと置換フィールドを選択する際に使用できるガイドラインには、次のようなものがあります：

- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、関係が 1 対 1 である(85 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。
  - 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、点数の範囲を使用する(85～90 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に異なるフィールドを選択します。
  - 客観評価および主観評価を一次元的に参照し、関係が 1 対 1 である(客観評価の 85 点と主観評価の 10 点がスケールスコアの 110 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア] と [第二の最大スコア] に同じフィールド(ただし客観評価フィールドとは別のフィールド)を選択します。たとえば、[第一の最小スコア] フィールドと [第一の最大スコア] フィールドを客観評価点数、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドを主観評価点数にします。
  - 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、点数の範囲を使用する(客観評価の 85～90 点と主観評価の 5～10 点がスケールスコアの 110 点に相当するなど)場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に異なるフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドに異なるフィールドを選択します。たとえば、[第一の最小スコア] フィールドと [第一の最大スコア] フィールドを客観評価点数の範囲、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドを主観評価点数の範囲にします。
- 17 [スケールスコアフィールド] ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータベースのフィールドを選択します。
- 18 (オプション) [スケールスコアフィールド] ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータのフィールドを選択します。採点を示すレポートでは、この値はスケールスコアが使用されている場合に表示されます。気が変わった場合は、[クリア] ボタンを使用してこのオプションを削除できます。
- 19 [OK] ボタンをクリックしてデータベース設定を保存します。
- 20 全体のスケールスコアのウィンドウに戻ると、データベース接続の詳細が表示されています。変更する必要がある場合は [データベース] ボタンをクリックします。
- 21 [OK] ボタンをクリックして変更を保存します。

これで新しいスケールスコアが全体のデフォルトスケールスコアになり、この後に実行する簡易採点で毎回使用されるようになります。これは、採点ウィザードでも選択できます。今後スケールスコアを使用しない場合は、[デフォルトのスケールスコア] ドロップダウンリストで [なし] を選択します。

#### 4.1.8 小数点の基本設定

小数点の基本設定では、レポートのさまざまな部分での統計計算に使用する小数点以下の桁数を設定します。小数点以下の桁数は、最大で **4** 桁に設定できます。小数点以下の数値は、配点、評価スケール、データエクスポート、ベンチマーク、重み(たとえば分析グループの重み付けなど)の各レポート属性に設定できます。どのレポートでも、小数点以下は **2** 桁までしか表示されない点に注意してください。ただし、基本設定でそれよりも大きな桁数を指定すると、計算ではその桁数が使用され、計算がより精密に行われるようになります。

#### 4.1.9 データと結果のエクスポート

データと結果のエクスポートの基本設定では、データをエクスポートするかどうか、またレポートデータをエクスポートする際に、どの統計情報をエクスポートするかを設定します。次のオプションが使用できます。

- データ
- 回答者 ID
- 偏差 IQ
- ETS 点
- 評価
- 正答数
- 誤答数
- 欠落数
- 客観評価のスコア
- 百分位数
- パーセンテージスコア
- 主観評価のスコア
- 合計スコア
- T-点
- Z-点
- スケールスコア



#### 4.1.10 レポート基本設定のインポートとエクスポート

Remark Quick Stats では、別々にインストールした Remark Office OMR の間で、レポート基本設定のインポートとエクスポートができます。この機能を使用すると共通の設定を共有できるので、そこで作成したレポートでも共通の外見と使用感を保てます。

重要！ 複数のマシンにソフトウェアをインストールするには、複数のライセンスが必要です。複数のシステム間でレポートの基本設定をインポート/エクスポートするには、インストールするマシン台数分のライセンスが必要です。

レポートの基本設定をエクスポートするには

- 1 [ツール] メニューを選択して [エクスポート設定] をクリックします。
- 2 [基本設定のエクスポート] ウィンドウで [保存先] ドロップダウンリストを使用して、ファイルを保存する場所を選択します。他のユーザがファイルにアクセスできるネットワーク上の場所を選択することもできます。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。ファイルは自動的に .ini 拡張子で保存されます。
- 4 [保存] ボタンをクリックしてファイルを保存します。

レポートの基本設定をインポートするには

- 1 [ツール] メニューを選択して [インポート設定] をクリックします。
- 2 [基本設定のインポート] ウィンドウで [参照] ドロップダウンリストを使用して、インポートしたい基本設定を含むファイルの場所を選択します。
- 3 その基本設定を含む .ini ファイルを選択します。
- 4 [開く] ボタンをクリックしてファイルを開きます。

ファイルをインポートすると、インポートしたファイルに合わせて基本設定が更新されます。

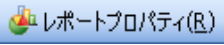
## 4.2 レポートヘッダーのプロパティ

各レポートには、カスタマイズ可能なレポートヘッダーがあります。レポートのタイトルをカスタマイズするためのレポートプロパティについては、第 2 章と第 3 章で説明しました。タイトル以外にも、各レポートに対して 9 個のカスタムフィールドを追加できます。これらのフィールドには、テキスト、グラフィックス、その他の統計情報(種類はレポートに応じて変わります)を記載できます。ヘッダーは各レポートのプロパティを用いてカスタマイズします。

注: レポートノヘッダーは、採点ウィザードと調査ウィザードを使用して定義することもできます。レポートヘッダーの作成方法は、以下で説明します。ただし、これらは保存する採点ウィザードまたは調査ウィザード

ドのファイルに添付されているため、採点ウィザードの回答キーまたは調査ウィザードの分析定義ファイルを使用する際に毎回適用されます。採点ウィザードまたは調査ウィザードで定義したレポートヘッダーの方が、個別に定義したレポートヘッダーより優先されます。

#### カスタムレポートヘッダーにアクセスするには

- 1 カスタマイズしたいレポートを実行します。
- 2 [ツール] メニューを選択して [レポートプロパティ] をクリックするか、または  をクリックします。

注:オプションとして、レポートのプロパティに直接アクセスし、レポートを実行せずにカスタマイズすることもできます。

- 3 [レポートヘッダーオプション] セクションで [ヘッダーレイアウト] のボックスをクリックします。
- 4 ボックスの右端に省略記号(...)が表示されます。省略記号をクリックして、[レポートヘッダーレイアウト] ウィンドウにアクセスします。

[レポートヘッダーレイアウト] ウィンドウに、レポートの内容が表示されます。カスタマイズ可能なフィールドが 9 個あります。アクティブなフィールドは黄色でハイライトされています。フィールドをクリックして選択し、カスタマイズします。レポートの [ページ幅] 設定を使用すると、ズームイン/ズームアウトして表示を調節できます。

#### フィールドをカスタマイズするには


- 1 9 つのフィールドの中から、カスタマイズするフィールドをクリックします。
- 2 [レポートヘッダーフィールドのプロパティ] エリアで、フィールドのラベルを [ラベル] ボックスに入力します。このラベルは自由形式のテキストです。
- 3 必要に応じて [値] ドロップダウンリストに移動して、挿入する値を選択します。デフォルトの選択肢は、[Image] (イメージ)、[Date] (日付)、[Date/Time] (日付/時刻)、[Page Number] (ページ番号)です。また、このレポートの生成に使用したフォームテンプレートからフィールドを選択することもできます。この機能は、回答者ごとに個別のページを生成するレポートのために設計されました(たとえば、学生の成績レポート、回答者単位の回答レポートなど)。選択したフィールドのデータが、定義したレポートヘッダーに表示されます。関連する統計情報をこのリストに含めるレポートもあります。たとえば学生の成績レポートで、最高点や最低点などクラスの統計をこのレポートに記載できます。画像を選択すると、レポートに載せる画像(会社のロゴなど)を指定するためのプロンプトが表示されます。サポートされる画像のタイプは、.bmp (Bitmap)、.gif (GIF)、.jpg (JPEG)、.wmf (Windows Meta File)、.ico (Icon)、.cur (Cursor)です。
- 4 [整列] セクションで、項目の整列方法を [左]、[中央]、[右] のいずれかに選択します。挿入された項目は、レポート上で割り当てられたスペースの中で、その設定に応じて整列されます。

- 5 カスタムヘッダー情報をさらに追加する場合は、上記の手順を繰り返します。
- 6 ヘッダーが完成したら、[OK] ボタンをクリックして [レポートプロパティ] ウィンドウに戻ります。
- 7 [OK] ボタンを再度クリックしてレポートを表示します。

## 4.3 グラフのプロパティ

クラスの頻度分析レポート、詳細項目分析レポート、項目分析グラフレポートにはグラフが含まれます。これらのレポートのグラフは、レポート単位でカスタマイズ可能です。

グラフのプロパティにアクセスするには

- 1 カスタマイズしたいレポートを実行します。
- 2 [ツール] メニューを選択して [レポートプロパティ] をクリックするか、または  レポートプロパティ(R) をクリックします。

注:オプションとして、レポートのプロパティに直接アクセスし、レポートを実行せずにカスタマイズすることもできます。

- 3 [レポートグラフオプション] セクションで [グラフのプロパティ] のボックスをクリックします。
- 4 ボックスの右端に省略記号(...)が表示されます。省略記号をクリックして、[グラフのプロパティ] ウィンドウにアクセスします。

[グラフのプロパティ] ウィンドウには、[タイトル]、[外観]、[軸] という 3 つの設定可能なセクションがあります。末尾のセクション [プレビュー] では、グラフ設定をプレビューできます。項目を表示または変更するには、その項目名をクリックします。各オプションについては、次項から詳細に説明します。

### 4.3.1 タイトル

[タイトル] セクションでは、グラフタイトルをカスタマイズできます。次のオプションが使用できます。

プロパティ	説明
グラフのタイトル	グラフ全体に対して表示されるタイトルを設定します。このタイトルは、グラフの先頭に表示されます。
下タイトル	グラフの下に表示されるタイトルを設定します。このタイトルは、X 軸の名前として使用できます。
左タイトル	グラフの左側に表示されるタイトルを設定します。このタイトルは、Y 軸の名前として使用できます。
右タイトル	グラフの右側に表示されるタイトルを設定します。

### 4.3.2 外観

〔外観〕 セクションでは、グラフのタイプ、スタイル、色などグラフの外見をカスタマイズします。次のオプションが使用できます。

セクション	プロパティ	説明
スタイル	グラフのタイプ	使用するグラフのタイプを設定します。種類には円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、散布図、極座標グラフ、帯グラフ、対数グラフがあり、それぞれにさまざまな形式があります。
	グラフのスタイル	グラフのタイプに基づいてグラフのスタイルを設定します。
色	色	グラフで使用する色とスタイルをすべて設定します。設定内容としては、タイトル、背景、前傾、軸、線などがあります。オプションは、表示しているグラフのタイプに応じて異なります。
フォント	フォント	グラフのグラフタイトル、その他のタイトル、ラベル、凡例の各部分に使用するフォント属性を設定します。フォント名、サイズ、スケール、スタイルを設定できます。
3D	3D グラフ	グラフを 3D モードで表示するかどうかを指定します。次に、それぞれに対応する属性を設定できます。

### 4.3.3 軸

〔軸〕 セクションでは、グラフの X 軸、Y 軸、Z 軸をカスタマイズできます。次のオプションが使用できます。

セクション	プロパティ	説明
X-軸、 Y-軸		X 軸と Y 軸に関するさまざまなプロパティを設定します。プロパティには位置、グリッドスタイル、スケール、目盛りマーク、ラベルなどがあります。
Z-軸		グラフの Z 軸のスケールとラベルのプロパティを設定します。

#### 4.3.4 プレビュー


「プレビュー」セクションでは、グラフへの変更をプレビューできます。プレビューウィンドウのグラフは、実際のレポートに表示されるグラフよりも小さく、または大きく表示されることがあるので注意してください。

#### 4.3.5 横棒グラフのレイアウト

横向きにした棒グラフを表示するレポートでは、数値のレイアウトを変更できます。次のプロパティが設定できます。

プロパティ	説明
棒グラフの表示	レポートに数値の棒を表示する場合は「棒グラフの表示」チェックボックスをマークします。
スケール	数値の棒の内側または外側にスケールを表示するかどうかを選択します。次に、そのスケールの測定単位(パーセントなど)を選択します。スケールを表示しない場合は「なし」をマークしてください。
ラインの色	棒グラフ上でベンチマークを表示する縦ラインの色を選択します。
背景色	棒の背景(枠)色を選択します。
塗りつぶしのパターン	ベンチマークオプションのベンチマーク達成、ベンチマーク未達成、ベンチマークなしそれぞれに対して、グラフの棒を塗りつぶすパターンを選択します。
色	ベンチマークオプションのベンチマーク達成(Benchmark Value Met)、ベンチマーク未達成(Benchmark Value Not Met)、ベンチマークなし(No Benchmark)それぞれに対して、グラフの棒を塗りつぶす色を選択します。

横棒グラフのレイアウトプロパティにアクセスするには

- 1 対象のレポートを実行します。
- 2 「ツール」レポートプロパティ」を選択するか、または  レポートプロパティ(R) をクリックしてレポートのプロパティにアクセスします。
- 3 ウィンドウの「レポートの形式オプション」部分で、「棒グラフのレイアウト」行の右側にある省略記号(...)をクリックします。必要な設定を選択します。
- 4 「OK」ボタンをクリックして、「レポートプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 5 「OK」ボタンを再度クリックしてレポートに戻ります。

# レポートデータの操作

---

## 第 5 章

**Remark Quick Stats** には、レポートのデータを操作して、カスタマイズをさらに進めた詳細なレポートを作成するためのオプションがあります。この章では、次のような項目について説明します。

- データの並べ替え(5.1 項)
- データのフィルタリング(5.2 項)
- レポートの印刷(5.3 項)
- レポートおよびレポートデータの保存とエクスポート(5.4/5.5 項)
- レポートの E メール送信(5.6 項)
- レポートバッチウィザード(5.7 項)
- レポートを開く(5.8 項)
- スクリーンキャプチャ(5.9 項)

### 5.1 データの並べ替え



**Remark Quick Stats** のデータ部分にテキストデータを表示する場合は、データを並べ替えてわかりやすく表示できます。データの並べ替えは、テキストデータとして表示している場合に限られます。レポートを実行する際、データグリッドでのデータの並べ替え方法は、レポートには反映されないので注意してください。並べ替えられたデータは表示目的で使用され、エクスポートは、データのエクスポート用に選択した順序で行われます。

メニューを使用してデータを並べ替えるには

- 1 タスク画面の[データ]タブをクリックして、**Remark Quick Stats** のデータ表示領域にいることを確認します。
- 2 [編集]メニューを選択し、次に[並べ替え]をクリックします。
- 3 [並べ替え] ボックスで、ドロップダウンリストを使用して、並べ替えのキーにする質問を選択します。

- 4 データを降順に並べ替える場合は[降順]チェックボックスをマークします。データを昇順に並べ替える場合は、このチェックボックスをマークしないでください。
- 5 複数の検索基準を用いてデータを並べ替える場合は、並べ替えに使用する適切な質問を[次のキー]ボックスで選択します。
- 6 質問の選択が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

#### メニューを使用してデータを並べ替えるには

- 1 タスクペインの[データ]タブをクリックして、Remark Quick Stats のデータ表示領域を表示します。
- 2 データグリッドでデータの並べ替えに使用するカラムを選択します。
- 3 選択したカラムに基づいてデータを昇順に並べ替える場合には、ツールバーボタンの[昇順で並べ替え]  を選択します。選択したカラムに基づいてデータを降順に並べ替える場合には、ツールバーボタンの[降順で並べ替え]  を選択します。

選択内容に応じて、データセット全体が並べ替えられます。

## 5.2 データのフィルタリング

データセットにフィルタを適用すると、データをより厳密に精査できるようになります。フィルタを用いると、特定の質問への回答に基づいて、回答者を分析に組み込んだり、または分析から除外したりすることができるので、選択的な分析が可能になります。たとえば、調査票に性別を聞く質問がある場合、フィルタを使用して男性回答者に限定してレポートを実行できます。


注:本項では[フィルタ]ウィンドウを使用したフィルタリングについて説明します。このウィンドウでは、複雑なフィルタを作成してデータを厳密に調べることができます。自動フィルタ機能を使用して、フィールド内の値が変更された時に自動的にレポートを作成するようにしたい場合は、5.7 項「レポートバッチウィザード」を参照してください。

フィルタオプションについて、次の表に示します。

オプション	意味
レコード残	構築しているフィルタに該当するデータセットの回答者数を示します。この数値は、フィルタを構築すると動的に更新されます。
フィールド	比較を行うフィールドを選択します。
演算子	比較に対して適用する演算(等しい、等しくない、より大きいなど)を選択します。
値	演算子を適用する回答の値を選択します。

オプション	意味
And	既存のフィルタに別のフィルタを追加して、検索範囲を狭めます。 [And] を選択してからフィルタにパラメータを追加する場合、両方が真の場合にのみデータがフィルタに含まれるようになります。
Or	既存のフィルタに別のフィルタを追加して、検索範囲を指定します。 [Or] を選択してからフィルタにパラメータを追加する場合、どちらか一方でも真であれば、データはフィルタに含まれるようになります。
クリア	現在のフィルタを空白値に戻します。
グループ	パラメータをグループにまとめ、フィルタのロジックを強化します。 グループ化されたパラメータを最初に調べた後、その次に定義したパラメータに進みます。グループ化したいパラメータに対応する行を選択してください。
グループ解除	以前にグループ化したパラメータのグループ化を解除します。 グループ化を解除したいパラメータに対応する行を選択してください。
フィルタ	フィルタ全体の内容を表示します。[詳細] チェックボックスをクリックすると[フィルタ]ボックスが有効になり、このボックスでフィルタを変更できるようになります。
保存	現在のフィルタを保存して、繰り返し使用できるようにします。
取り込み	以前に保存していたフィルタを開きます。
実行	現在のレポートを実行します。
キャンセル	現在のフィルタを取り消します。

### フィルタを実行するには

- 1 テストの評価または調査の作表を行います。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[編集]メニューを選択してから[フィルタ]をクリックします。データ表示領域で[フィルタ]ツールバーボタン  をクリックしてもかまいません。
- 3 [フィールド]、[演算子]、[値]などのフィルタにパラメータを入力します。
- 4 必要に応じて[保存]ボタンをクリックしてフィルタを保存し、再度使用できるようにすることもできます。
- 5 [実行]ボタンをクリックしてフィルタを実行します。

いったんフィルタを実行すると、以前にレポートを実行していた場合には、フィルタに基づいてレポートが自動的に表示されます。追加で実行したレポートも、そのフィルタに基づいています。フィルタの基準は、レポートの先頭に表示されます。



#### 元のデータをリストアするには

フィルタを適用していない元のデータをリストアするには、Remark Quick Stats のデータ表示領域から操作を実行します。


- 1 Remark Quick Stats のタスクペインで[データ]タブをクリックします。
- 2 データグリッドの右上に[フィルタ]ドロップダウンリストがあります。
- 3 そのリストをドロップダウンして [Primary] を選択します。元のデータセットに合わせて、データがリストアされます。

## 5.3 レポートとデータの印刷


レポートは、コンピュータで使えるどのプリンタでも印刷できます。また、Remark Quick Stats のデータ表示領域からでもデータを印刷できます。

注:ここでは、レポートを1つずつ印刷する方法について説明します。複数のレポートをまとめて印刷する方法については、5.7 項「レポートバックウィザード」を参照してください。

#### レポートを印刷するには

- 1 [レポート]タブを選択します。
- 2 表示するレポートを選択します。
- 3 レポートが画面に表示されたら、[ファイル]メニューを選択して[印刷]をクリックするか、または  をクリックします。
- 4 [印刷]ウィンドウで、プリンタ名を選択します。このウィンドウのオプションを使用すると、プリンタに基づいて印刷ジョブをさらにカスタマイズすることもできます(プリンタの基本設定など)。
- 5 [印刷]ボタンをクリックしてレポートを印刷します。

#### データを印刷するには

- 1 [データ]タブを選択します。
- 2 [ファイル]メニューを選択して[印刷]をクリックするか、または  をクリックします。

- 3 [印刷]ウィンドウで、プリンタ名を選択します。このウィンドウのオプションを使用すると、プリンタに基づいて印刷ジョブをさらにカスタマイズすることもできます(プリンタの基本設定など)。
- 4 [印刷]ボタンをクリックしてデータを印刷します。

## 5.4 レポートの保存

レポートを保存すると、**Remark Quick Stats** の内部でそのレポートを再度開けるようになります。このフォーマットを使用して他の **Remark Office OMR** ユーザとレポートを共有したり、保存したレポートを後から印刷、表示、操作したりすることができます。レポートを保存すると、そのレポートの生成に使用されたデータも、レポートともに保存されます。このレポートは、**Remark Quick Stats** のデータ表示領域から開くことができます。このファイルは表示や印刷ができます。また、ファイル内にデータが含まれているので、さらに別のレポートを実行することもできます。

### レポートを保存するには

- 1 レポートを実行した後、[ファイル]メニューを選択して[保存]または[名前をつけて保存]をクリックします。[保存]をクリックすると現行のレポートは上書きされ(開いていた場合)、[名前をつけて保存]をクリックすると、レポートを別のパラメータ(別の名前や場所など)で保存できます。
- 2 [レポートデータの保存]ウィンドウで[保存先]ドロップダウンリストを使用して、レポートを保存する場所を選択します。
- 3 [ファイル名]ボックスにレポート名を入力します。ファイルには自動的に.rqs 拡張子が付けられます。
- 4 [保存]ボタンをクリックしてレポートを保存します。

## 5.5 レポートのエクスポート

レポートは別の形式でエクスポートできるので、**Remark Quick Stats** を使用しない他のユーザにも参照できます。レポート、またはレポートの作成に使用するデータをエクスポートできます。

注:本項では、1 度に 1 つずつレポートをエクスポートする方法について説明します。複数のレポートを一度にエクスポートする方法については、5.7 項「レポートバッチウィザード」を参照してください。


次のオプションが使用できます。

オプション	説明
レポート	レポートを標準的なレポート形式でエクスポートします。使用可能な形式には、ポータブルドキュメントフォーマット(PDF)、ハイパーテキストマークアップ言語(HTML)、Microsoft Excel、タグ付きのイメージ形式(TIF)、テキスト(TXT)、リッチテキスト形式(RTF)があります。
Gradebook	生徒の成績を管理する成績表パッケージに、レポート/成績情報をエクスポートします。パッケージには、InteGrade Pro、MyGradebook、Pearson Inform、Grade Busters、Grade Quick、Grade Machine、Gradebook2、Perception があります。
テスト項目データ	正答と誤答を示すテキスト(TXT)レポートをエクスポートします。正答は 1、後藤は 0 で示されます。
数値データ	データの数値をエクスポートします。テキストデータには、それぞれに対応する数値がフォームテンプレートで定義されています。ファイル形式は、Access、Excel、テキストなど複数の形式の中から選択できます。
数値データと結果	数値データと、各生徒の成績、パーセント点、合計得点をエクスポートします。学習目標が定義されている場合、各生徒のレコードとともに学習目標もエクスポートされます。ファイル形式は、Access、Excel、テキストなど複数の形式の中から選択できます(テストの成績評価の場合のみ)。
数値データと学習目標	数値データと、各生徒の成績、パーセント点、合計得点をエクスポートします。学習目標が定義されている場合は、エクスポートされたファイルの中で、学習目標がそれぞれ個別のデータレコードとしてリストされます。(テストの成績評価の場合のみ)
テキストデータ	レポートの生成に使用するテキストデータをエクスポートします。ファイル形式は、Access、Excel、テキストなど複数の形式の中から選択できます。
テキストデータと結果	テキストデータと、各生徒の成績、パーセント点、合計得点をエクスポートします。ファイル形式は、Access、Excel、テキストなど複数の形式の中から選択できます(テストの成績評価の場合のみ)。
テキストデータと学習	テキストデータと、各生徒の成績、パーセント点、合計得点をエクスポートします。学習目標が定義されている場合は、

オプション	説明
目標	エクスポートされたファイルの中で、学習目標がそれぞれ個別のデータレコードとしてリストされます。(テストの成績評価の場合のみ)

#### レポートをエクスポートするには


レポートをエクスポートすると、そのレポートを他のユーザにも読めるように、他の形式で保存できます。

- 1 レポートを実行した後、レポート表示領域で[ファイル]メニューを選択してから、[エクスポート]の次に[レポート]をクリックするか、または  レポートのエクスポート(X) をクリックします。
- 2 使用する形式をリストから選択します。

### 5.5.1 レポートを PDF 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを PDF (ポータブルドキュメントフォーマット) ファイルにエクスポートして、結果を簡単に送付できます。PDF は E メールに添付したり、Web サイトに掲載したりすることが簡単にできます。

#### レポートを PDF 形式にエクスポートするには


- 1 Remark Quick Stats ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
- 2 [ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に[レポート]をクリックするか、または  レポートのエクスポート(X) をクリックします。
- 3 [レポートのエクスポート]ウィンドウで[エクスポート形式]ドロップダウンリストから [PDF] を選択します。
- 4 [ページ範囲]エリアで、エクスポートするレポートのページ範囲を、全ページ、現在のページ、指定したページ番号またはページ範囲のいずれかに設定します。
- 5 [ファイル名]ボックスで、省略記号(...)をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
- 6 [保存]ボタンをクリックしてファイル名と場所を保存します。
- 7 [レポートのエクスポート]ウィンドウに戻り、互換性のために使用する Acrobat のバージョンを、4.x、3.x、2.1 のいずれかに指定します。ここで選択したバージョン以降のバージョンと互換性のあるファイルが作成されます。
- 8 エクスポートするレポートにグラフが含まれる場合は、グラフィイメージに使用するイメージの品質を、低、中、高、最高の中から選択します。イメージ品質が高くなると、ファイルのサイズが大きくなります。

- 9 [エクスポート]ボタンをクリックして PDF ファイルをエクスポートします。

### 5.5.2 レポートを HTML 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを HTML フォーマットにエクスポートして、結果をインターネットやイントラネットに投稿することが簡単にできます。レポートにグラフが含まれる場合、グラフはイメージとしてエクスポートされます。これらのイメージを、かならず HTML ファイルとともに投稿してください。

レポートを HTML 形式にエクスポートするには

- 1 Remark Quick Stats ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
- 2 [ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に[レポート]をクリックするか、または  レポートのエクスポート(X) をクリックします。
- 3 [レポートのエクスポート]ウィンドウで[エクスポート形式]ドロップダウンリストから [HTML] を選択します。
- 4 [ページ範囲]エリアで、エクスポートするレポートのページ範囲を、全ページ、現在のページ、指定したページ番号またはページ範囲のいずれかに設定します。
- 5 [ファイル名]ボックスで、省略記号(...)をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
- 6 [保存]ボタンをクリックしてファイル名と場所を保存します。
- 7 [レポートのエクスポート]ウィンドウに戻り、[イメージフォルダ]の隣にある省略記号(...)をクリックして、グラフなど関連するイメージを保存します。これらのイメージは、HTML ファイルとともに Web サイトに投稿する必要があります。
- 8 必要に応じて[タイトル]ボックスに HTML ファイルのタイトルを入力します。Web ブラウザで HTML ファイルを開くと、タイトルバーにこのタイトルが表示されます。
- 9 [HTML 形式] ボックスで、HTML 形式を HTML 3.2 (W3C HTML 3.2 推奨事項に準拠)または Dynamic HTML (CSS1 準拠ブラウザのインラインスタイルを使用)のどちらかに選択します。
- 10 [目次の形式] ボックスで、目次の形式を、フォーマットなし、Simple HTML、Dynamic HTML、XML のいずれかに指定します。目次の形式は、目次をエクスポートするかどうか、またはどのようにエクスポートするかを指定します。
- 11 残りのチェックボックスは、必要に応じてマークしてレポートのオプションを指定します。
  - [カスケーディングスタイルシートの作成] :ファイルはカスケーディングスタイルシート(CSS)を含みます。
  - [フレームの作成] :ファイルはフレームを含みます。


- [MIME アーカイブの作成] : ファイルを MHT アーカイブとしてエクスポートするかどうかを指定します。
- [1 ページエクスポート] : 1 ページの HTML ファイルを作成します。

**12** [エクスポート] ボタンをクリックして HTML ファイルをエクスポートします。

### 5.5.3 レポートを RTF または TIF 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを RTF および TIF 形式にエクスポートして、結果を簡単に送付できます。RTF (リッチテキスト形式) ファイルは Microsoft Word で表示と編集ができます。RTF 形式で保存する場合、グラフはサポートされないのに注意してください。TIF (タグ付きイメージ形式) ファイルは、他のドキュメントやプレゼンテーションに埋め込んだり、さまざまなイメージビューアで表示したりすることができるグラフィックファイルです。


レポートを RTF または TIF 形式にエクスポートするには

- 1** Remark Quick Stats ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
- 2** [ファイル] メニューを選択してから [エクスポート] の次に [レポート] をクリックするか、または  レポートのエクスポート(X) をクリックします。
- 3** [レポートのエクスポート] ウィンドウで [エクスポート形式] ドロップダウンリストから [RTF] または [TIF] を選択します。  
  
[ページ範囲] エリアで、エクスポートするレポートのページ範囲を、全ページ、現在のページ、指定したページ番号またはページ範囲のいずれかに設定します。
- 4** [ファイル名] ボックスで、省略記号(...) をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
- 5** [保存] ボタンをクリックしてファイル名と場所を保存します。
- 6** [エクスポート] ボタンをクリックして RTF または TIF ファイルをエクスポートします。

### 5.5.4 レポートをテキスト形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートをテキスト (TXT) 形式にエクスポートして、他のアプリケーションで使用できるようにすることができます。



- 1** Remark Quick Stats ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。

- 2 [ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に[レポート]をクリックするか、または  レポートのエクスポート(X) をクリックします。
- 3 [レポートのエクスポート]ウィンドウで[エクスポート形式]ドロップダウンリストから [テキスト] を選択します。
- 4 [ページ範囲]エリアで、エクスポートするレポートのページ範囲を、全ページ、現在のページ、指定したページ番号またはページ範囲のいずれかに設定します。
- 5 [ファイル名]ボックスで、省略記号(...)をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
- 6 [保存]ボタンをクリックしてファイル名と場所を保存します。
- 7 [区切り文字] ドロップダウンリストで、ファイル内のフィールドを区切る文字を、コンマ、タブ、スペースのいずれかに指定します。
- 8 必要に応じて [空白行を除去] チェックボックスをマークして、空白行をファイルから除去します。
- 9 必要に応じて [Unicode] チェックボックスをマークして、テキストファイルを Unicode エンコーディングに設定します。この設定は、テキストが Unicode 形式と ASCII 形式のどちらで出力されるかを指定します。Unicode は、文字を整数として表現する規格です。ASCII では文字に 7 ビットを使用しますが、それに対して Unicode は 16 ビットを使用するので、65,000 を超える文字を一意に表現できます。
- 10 [エクスポート]ボタンをクリックしてテキストファイルをエクスポートします。

### 5.5.5 評価結果を成績表プログラムにエクスポートする

成績結果のデータ部分は、複数の成績表プログラムに保存できます。成績表プログラムを使用すると、生徒の情報を保存して学習の成果をトラッキングできます。

評価結果を成績表形式で保存するには

- 1 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に[Gradebook]  をクリックするか、または  をクリックします。
- 2 データを保存する成績表パッケージを選択します。
- 3 各成績表タイプに対して、ウィンドウが表示されます。選択した成績表に対して適切なパラメータを入力します(後述する各成績表の個別説明を参照してください)。
- 4 [エクスポート]ボタンをクリックします。
- 5 ファイルの位置を選択し、[ファイル名]というボックスにファイル名を入力します。
- 6 [保存]ボタンをクリックしてファイルをエクスポートします。

使用可能な形式は、次のとおりです。

成績表の形式	拡張子
InteGrade Pro	GBK
MyGradebook	MGB
Pearson Inform	TXT
Grade Busters	TXT
Grade Quick	TXT
Grade Machine	TXT
Gradebook2	DAT
Perception	CSV
ParSCORE	SCO
Custom	TXT, CSV

#### 5.5.5.a InteGrade Pro

InteGrade Pro 形式では、GBK ファイルを作成し、Pearson の成績表システム InteGrade Pro にインポートできるようにします。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。

オプション	機能
タスク名	生徒の点数をつける項目(テストなど)
タスク日	項目を割り当てる日付
採点のインポート	InteGrade Pro は未加工の点数のみをインポートします。

注:これらのオプションについての詳細は、InteGrade Pro のユーザズガイドを参照してください。

#### 5.5.5.b MyGradebook

MyGradebook 形式では MGB ファイルを作成し、成績表システム MyGradebook にインポートできるようにします。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。



オプション	機能
教師 ID	教員の ID 番号
クラス名	クラス名
テスト名	テスト名
テスト日	テストの日付
採点のインポート	<b>MyGradebook</b> は未加工の点数のみをインポートします。

注:これらのオプションについての詳細は、**MyGradebook** のユーザズガイドを参照してください。

### 5.5.5.c Pearson Inform

Pearson Inform 形式では、**testdata.txt** ファイルを作成し、**Pearson** の成績表システム **Inform** にインポートできるようにします。この形式で保存する場合は、次のオプションを設定する必要があります。

オプション	機能
地域 ID	地域の ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
学校 ID	学校の ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
教員 ID	教員の ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。番号を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
テスト ID	テストの ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
テストセッション	テストセッションの ID。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
テスト名	テスト名。番号を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
テスト日	テストの日付
学習目標を含める	採点ウィザードで設定した学習目標の評価情報を含める場合は、このチェックボックスをマークします。
採点のインポート	<b>Pearson Inform</b> はパーセントスコアのみをインポートします。

#### 5.5.5.d Grade Busters 形式

Grade Busters 形式は、Jay Klein Productions の成績表プログラム **Grade Busters: Making the Grade** にインポートするためのテキスト(.txt)ファイルを作成します。Grade Busters 形式で保存する場合は、次のオプションを設定する必要があります。

オプション	機能
Roster Position	このポジションは成績表パッケージから取得します。 <b>Remark Quick Stats</b> でテストを評価する際に、このフィールドを生徒 ID フィールドとして記入します。
未加工の点数	この形式には、未加工の点数が必要です。
合計割り当てポイント	値は <b>Remark Quick Stats</b> で内部的に処理され、保存した成績表ファイルに自動的に入力されます。

注:これらのオプションについての詳細は、**Grade Busters** のユーザズガイドを参照してください。

#### 5.5.5.e Grade Quick 形式

Grade Quick 形式は、Jackson Software の成績表プログラム **Grade Quick** にインポートするためのテキスト(.txt)ファイルを作成します。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。

オプション	機能
位置情報: 点数の開始行、ID の開始 列、最大の ID 長さ、点数 の開始列	これらの設定は、テキストファイルの点数と ID フィールドの情報を指定します。デフォルト情報を変更する必要はありません。結果を保存する際に、この情報でポジションファイルが自動的に作成されます。
採点のインポート	この設定は、どの成績統計をインポートするか(パーセント、レターグレード、未加工)を設定します

注:これらのオプションについての詳細は、**Grade Quick** のユーザズガイドを参照してください。

#### 5.5.5.f Perception 形式

Perception 形式では、CSV ファイルを作成し、Pearson の成績表ソフトウェア **Perception** にインポートできるようにします。**Perception** は未加工の点数を受け付けます。その他に設定するオプションはありません。

注:Perception ソフトウェアについての詳細は、Perception のユーザズガイドを参照してください。

#### 5.5.6.g ParSCORE 形式

ParSCORE 形式では、SCO ファイルを作成し、Pearson のソフトウェア ParSCORE にインポートできるようにします。ParSCORE は未加工の点数を受け付けます。その他に設定するオプションはありません。

注:ParSCORE ソフトウェアについての詳細は、ParSCORE のユーザズガイドを参照してください。

#### 5.5.6.h カスタム形式

直接サポートされていない成績表にエクスポートする場合は、カスタム形式を使用できます。カスタム形式を使用すると、お使いの成績表プログラムに合わせてセットアップしたテキスト(TXT または CSV)をエクスポートできます。

#### GradeBook カスタム形式を使用するには

- 1 [Gradebook のエクスポート] ウィンドウに、ファイルに含める小数点以下の桁数を入力します。
- 2 必要に応じて [回答キーを最初の行に含める] チェックボックスをマークします。
- 3 [エクスポート] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 4 [カスタム Gradebook のエクスポート] ウィンドウで、ファイルを保存する場所を選択します。
- 5 [ファイル名] というタイトルのボックスにファイル名を入力します。
- 6 [保存] ボタンをクリックして操作を続けます。ウィザードが開始します。
- 7 [次へ>>] ボタンをクリックしてファイルの設定を始めます。

注:以前に設定ファイルを保存していた場合は、[参照] ボタンをクリックしてそのファイルを開き、現在のエクスポート操作に適用します。

- 8 [ファイルタイプ] では、[固定幅] (フィールドは固定された文字位置に整列します)または [区切り付き] (フィールドはコンマやタブなどの文字で区切られます)。
- 9 必要に応じて、[複数回答可能な質問のオートフォーマット] チェックボックスをマークします。この機能は、テキストファイル内で、回答選択肢をそれぞれ別々のフィールドに入れます。

**10** [エクスポート開始行] ボックスに、ファイルの開始位置になる結果の行番号を入力します(通常は1です)。

**11** [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

**12** 次の手順は、この前の手順で選択したファイルのタイプに応じて異なります。

1. ファイルのタイプとして文字で区切る形式(区切り付き)を選択した場合は、個別のフィールドで使用する区切り文字を、カンマ、タブ、セミコロン、スペース、選択した区切り文字(その他)のいずれかに指定します。オプションとして、テキストフィールドを定義するための項目(テキスト引用符)を、使用しない(なし)、一重引用符(')、二重引用符(")のいずれかに指定します。

2. 固定幅形式のファイルを選択した場合は、カラムの[フィールド幅と補填] オプションが表示されます。エクスポートされる各フィールドに対して、フィールドのサイズ、補填幅、補填位置を設定できます。

**13** [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

**14** 次の手順では、[レコードの区切り] (次のレコードの開始を示す文字)を、CR/LF (Carriage Return/Line Feed)、CR (Carriage Return)、LF (Line Feed)、その他の中から選択します。

**15** [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

エクスポートウィザードの最後の操作は、エクスポートしたくない統計情報の選択です。デフォルトでは、[除外] チェックボックスでマークしたものを除いてすべての統計情報がエクスポートされます。また、オプションとしてフィールドを上下に移動し、エクスポートファイル内のフィールドの位置を調節することもできます。

**16** オプションとして、特定のフィールドの後にレコードの区切りを設定できます。そのフィールドの後にレコードの区切りを挿入するには、[この後に改レコード] チェックボックスにマークを付けます。

**17** オプションとして、作成するすべてのレコードに含まれるフィールドを選択します。たとえば、データ内でテスト名をキャプチャし、各生徒のレコードがこのテスト名を含むようにしたいという場合があります。この場合、[全レコード] のチェックボックスをマークすると、作成されるすべてのレコードにそのテスト名が含まれるようになります。[完了] ボタンをクリックしてウィザードを完了します。

**18** [はい] をクリックすると、このウィザード設定を保存して後から再度使用できるようになります。設定ファイルの場所とファイル名を選択します。設定ファイルを保存すると、次にウィザードを実行する際に最初にそのファイルを開いて使用すれば、同じ手順を毎回繰り返す必要はありません。[いいえ] をクリックすると設定ファイルは保存されませんが、このレポートに対するカスタム形式の成績表が作成できます。

### 5.5.6 評価結果をテスト項目データとしてエクスポートする

Remark Quick Stats では、タブまたはコンマで区切ったテキストファイルを作成し、そこで各生徒に対する各問題のステータスを示すことができます。正解は 1、不正解は 0 で示されます。このタイプのファイルは、正解と不正解を計算する成績評価プログラムにエクスポートできます。

テスト項目データをエクスポートするには

- 1 簡易採点または採点ウィザードを実行してデータを評価します。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に [テスト項目データのエクスポート] をクリックします。
- 3 [ファイル名]ボックスで、省略記号(...)をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
- 4 [ファイルの種類] ボックスで、[Comma Delimited(\*.csv)] または [Tab Delimited(\*.txt)] を選択します。
- 5 [保存]ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。
- 6 [エクスポートオプション] エリアで、エクスポートしたファイルの中で正答と誤答を示す値を選択します(デフォルト値はそれぞれ 1 と 0 です)。
- 7 ファイル内にオプションの情報が含まれるようにするには、[回答者 ID を含む]、[パーセント点を含む]、[採点を含む]、[評価を含む] 各チェックボックスをマークします。
- 8 [エクスポート]ボタンをクリックしてファイルをエクスポートします。

### 5.5.7 数値データと結果のエクスポート

Remark Quick Stats では、Excel や Access のような形式のいずれかに成績をエクスポートし、同時に、フォームテンプレートで定義した対応する数値をレポート結果とともに出力できます。数値データをエクスポートする方法は 3 通りあります。

- データの数値バージョンのみをエクスポートする方法
- データの数値バージョンと結果のグレードをエクスポートする方法。これは、定義した学習目標があれば、それもすべて含みます(1つのレコードに複数の学習目標があります)。

- 数値データ、結果、学習目標(定義されている場合)をエクスポートする方法。  
ここでは、各生徒に対して、データセット内の学習目標にはそれぞれ独自のレコードが割り当てられます。

#### 数値データをエクスポートするには

- 1 簡易採点または採点ウィザードを実行してデータを評価します。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に [数値データ] をクリックします。
- 3 [データの保存] ウィンドウでファイルの位置を選択し、[ファイル名]ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [タイプを指定して保存] ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。

注:選択したファイルの形式に応じて、他のオプションを設定できる場合があります。使用可能なファイル形式それぞれについての詳細は、Remark Office OMR のユーザズガイドを参照してください。

#### 数値データと結果/数値データと結果及び学習目標に基づく行をエクスポートするには

- 1 簡易採点または採点ウィザードを実行してデータを評価します。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]をクリックし、次に [数値データと結果] または [数値データと学習目標] をクリックします。
- 3 [データの保存]ウィンドウでファイルの位置を選択し、[ファイル名]ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [形式を指定して保存]ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
- 5 [保存]ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。生成されるファイルには、データファイルに関連付けられた値とグレード情報が表示されます。

### 5.5.8 テキストデータと結果のエクスポート

Remark Quick Stats では、Excel や Access のような形式のいずれかに成績をエクスポートし、同時に、キャプチャしたテキストデータをレポート結果とともに出力できます。テキストデータをエクスポートする方法は 3 通りあります。

- データのテキストバージョンのみをエクスポートする方法

- データのテキストバージョンと結果のグレードをエクスポートする方法。これは、定義した学習目標があれば、それもすべて含みます(1つのレコードに複数の学習目標があります)。
- テキストデータ、結果、学習目標(定義されている場合)をエクスポートする方法。ここでは、各生徒に対して、データセット内の学習目標にはそれぞれ独自のレコードが割り当てられます。

#### テキストデータをエクスポートするには

- 1 簡易採点または採点ウィザードを実行してデータを評価します。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]の次に[テキストデータ]をクリックします。
- 3 [データの保存]ウィンドウでファイルの位置を選択し、[ファイル名]ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [形式を指定して保存]ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。

注:選択したファイルの形式に応じて、他のオプションを設定できる場合があります。使用可能なファイル形式それぞれについての詳細は、Remark Office OMR のユーザズガイドを参照してください。

#### テキストデータと結果/テキストデータと結果および学習目標に基づく行をエクスポートするには

- 1 簡易採点または採点ウィザードを実行してデータを評価します。
- 2 Remark Quick Stats ウィンドウで、[ファイル]メニューを選択してから[エクスポート]をクリックし、次に [テキストデータと結果] または [テキストデータと学習目標] をクリックします。
- 3 [データの保存]ウィンドウでファイルの位置を選択し、[ファイル名]ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [形式を指定して保存]ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
- 5 [保存]ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。生成されるファイルには、テキストデータファイルとグレード情報が表示されます。

## 5.6 レポートの E メール送信

レポートは、Microsoft Outlook 2007/2010 や、SMTP メールサーバを使用する組み込みの E メールクライアントを使用して E メールで送信できます。レポートは一度に 1 件ずつ送信できます。レポートの送信には次のいずれかの形式を使用できます。

- レポート(添付ファイルとして)
  - PDF
  - テキスト
  - HTML
  - Excel
  - TIF
  - RTF
- データと結果
  - テキストデータ(および採点している場合は採点結果)を添付ファイルとして
  - テキストデータ(および採点している場合は採点結果)を zip ファイルとして
  - 数値データ(および採点している場合は採点結果)を添付ファイルとして
  - 数値データ(および採点している場合は採点結果)を zip ファイルとして
- Remark Quick Stats (.rqs) (添付ファイルとして)

注: レポートを E メールで送信する際に、レポートのローカルコピーは保存されません。レポートファイルを保存する必要がある場合は、E メール機能とともに、その手順をかならず行ってください。データの保存については 5.4 項と 5.5 項で説明しています。

上記の形式については、このユーザズガイドの前項で詳しく説明しています。ここでは、レポートを E メールで送付する方法について説明します。レポートタイプにそれぞれ何が含まれるか、またそのレポートタイプに対応するプロパティについては、前項をお読みください。ある特定の形式にプロパティが対応している場合、E メール用のファイルを生成する際にはソフトウェアのデフォルト設定が適用されます。E メール機能を使用する前に、送付したいファイルの種類を決めてください。

Outlook と組み込みの E メールクライアントのどちらを使用するかは、Remark Office OMR の基本設定で選択します。いったん設定を行うと、ツールバーボタンの [レポートを E メールで送信] をクリックするだけで、E メール処理を開始できます。

### 5.6.1 Eメールのセットアップ

E メールを送信するには、Microsoft Outlook 2007/2010 か、または独自の SMTP サーバを使用できます。ここでは、両方の方法について説明します。



## SMTP サーバを使用する場合:

独自の SMTP サーバを使用する場合、Remark Office OMR とは別に有効な SMTP サーバを設定しておく必要があります。SMTP とは、Simple Mail Transfer Protocol (シンプルなメール転送プロトコル)の略で、ネットワークを通じて E メールを転送するインターネット標準です。多くの場合、SMTP サーバはすでに設定されています。サーバに関する全般的な情報を探してください。SMTP サーバについての情報は、ネットワーク/E メール管理者に問い合わせる必要があるでしょう。SMTP 設定は、Remark Office OMR の基本設定で行います。管理者に適切な設定を依頼する際には、次の表をガイドとして使用してください。

オプション	説明
SMTP サーバ	メールサーバの名前、アドレスまたは IP アドレス。
SMTP ポート	SMTP ポートは通常 25 ですが、E メールサーバによって異なる場合があります。
セキュア(SSL)接続を有効にする	必要に応じて、[セキュア(SSL)接続を有効にする] チェックボックスをマークしてセキュア接続を使用します。SSL はデータを暗号化して送信します。この機能を使用するには、SSL を使用できるよう SMTP サーバを設定しておく必要があります。
現在ログイン中のユーザのデフォルト証明書を使用する	SMTP サーバで認証が必要な場合、証明書を入力するか、またはコンピュータにログイン中のユーザの証明書を使用できます。ユーザの(たとえば、Remark Office OMR から E メールを送信する時にログインした人の)証明書を使用する場合は、[現在ログイン中のユーザのデフォルト証明書を使用する] チェックボックスをマークします。使用しない場合は、次の手順に進んで特定の証明書を入力してください。
ユーザ名とパスワード	認証が必要で、かつ現在ログイン中のユーザの証明書を使用しない場合は、ネットワーク/E メール管理者から指定されたユーザ名とパスワードを使用します。
スロットルレート	スロットルレートは、E メールを送信する際の遅延を加算します。デフォルト設定は 500ms で、500 ms に 1 通の E メールが送信されていることを表します(つまり 1 秒に 2 通の E メールが送られているとも言えます)。Eメールのスロットルは、大量の E メールが送られた場合に SMTP サーバの過負荷を防ぎます。一度に数百通の E メールを送る予定がなければ、設定はデフォルトの 500 で良いでしょう。

### Microsoft Outlook を使用する場合:

Microsoft Outlook 2007 または 2010 を使用する場合、外部でソフトウェアに対して Outlook を使用するという設定は必要ありません。Remark Quick Stats で E メール機能を選択すると、Outlook の E メールメッセージが自動的に起動します(Microsoft Outlook 2007 または 2010 をコンピュータにインストールしておく必要があります)。

### Remark Office OMR で Microsoft Outlook または独自の SMTP サーバを選択するには

- 1 Remark Office OMR Data Center で、[ツール|基本設定] をクリックします。
- 2 左にある [E メール] リンクをクリックします。
- 3 独自の SMTP サーバを使用する場合は、[E メールクライアント] の所で [デフォルト] を選択します。Microsoft Outlook 2007 または 2010 を使用する場合は、[Outlook] を選択します。Outlook を使用している場合は、単に [OK] をクリックします。[デフォルト] の E メールクライアントを使用している場合は、次の手順に進みます。
- 4 [デフォルト] クライアントを選択した場合は、[SMTP サーバ] ボタンをクリックします。
- 5 上記の表に示したように、設定を入力します。内容は、ネットワーク/E メール管理者に問い合わせてください。
- 6 [OK] ボタンをクリックします。

## 5.6.2 E メールを用いたレポートファイルの送信

Eメールの基本設定を行うと(前項を参照)、Eメールでレポートファイルを送信できるようになります。

### Microsoft Outlook を使用してレポートファイルを E メールで送信するには

- 1 Remark Quick Stats でレポートを実行します。または、Report Batch ウィザードを用いて複数のレポートを実行します。
- 2 [ファイル] メニューから [E メール] を選択し、次にエクスポートするレポートのタイプを、レポート、テキスト/数値データ、Remark Quick Stats ファイルの中から選択します。レポート(PDF、Text、HTML、TIF、RTF)をエクスポートする場合は、ツールバーの [E メール] ボタンをクリックするだけで実行できます(このオプショ

ンはレポートの形式のみ表示します)。[テキスト/数値データ]を選択すると、ファイルをネイティブ形式で送信するか、ZIP ファイルとして送信するかを決定できます。

注: 発信元または送信先の会社(団体)で、E メールで送付できるファイルの種類に制限を設けている場合があります。このファイルが規制されている場合、Zip 形式にしなければ、E メールが送り先に届かないおそれがあります。選択したファイル形式が規制対象かどうかはつきりしない場合は、ZIP オプションを使用してください。送り先には、ファイルを展開して表示するための Zip プログラムが必要です。

3 この次の操作は、手順 2 での選択内容に応じて異なります。

- レポートファイルの場合は[ファイル名]ボックスにレポート名を入力します。次に[タイプを指定して保存]ボックスで、使用するファイル形式を選択します。PDF、Text、HTML、TIF、RTF ファイルのいずれかが選択できます。
- テキスト/数値データ(および、採点中の場合は採点結果)の場合は[ファイル名]ボックスに名前を入力します。次に[タイプを指定して保存]ボックスで、データに使用する形式を選択します。これらの形式については、メインの『Remark Office OMR ユーザズガイド』の 5.5.7 および 5.5.8 項で説明しています。テキスト/数値データを選択すると、ネイティブ形式を ZIP の添付ファイルとして送信できます。
- Remark Quick Stats ファイルの場合は、[ファイル名]ボックスに名前を入力します。Remark Quick Stats の添付ファイルの形式は変更できません。

4 [OK] ボタンをクリックします。

Outlook は、自動的に新しい E メールメッセージを作成し、ファイルを添付します。ここで宛先と本文を入力して、ファイルを送信できます。Zip 形式を選択した場合は、.zip という拡張子が表示されるので注意してください。E メール機能を使用している場合、このファイルは Eメールの添付ファイルとしてのみ保存され、コンピュータ上に保管用のファイルが作成されるわけではありません。

#### SMTP サーバを使用してデータファイルを E メールで送信するには

- 1 Remark Quick Stats でレポートを実行します。または、Report Batch ウィザードを用いて複数のレポートを実行します。
- 2 [ファイル]メニューから[Eメール]を選択し、次にエクスポートするレポートのタイプを、レポート、テキスト/数値データ、Remark Quick Stats ファイルの中から選択します。レポート(PDF、Text、HTML、TIF、RTF)をエクスポートする場合は、ツールバーの[Eメール]ボタンをクリックするだけで実行できます(このオプションはレポートの形式のみ表示します)。[テキスト/数値データ]を選択すると、ファイルをネイティブ形式で送信するか、ZIP ファイルとして送信するかを決定できます。

注: 発信元または送信先の会社(団体)で、E メールで送付できるファイルの種類に制限を設けている場合があります。このファイルが規制されている場合、Zip 形式にしなければ、E メールが送り先に届かないおそれがあります。選択したファイル形式が規制対象かどうかはつきりしない場合は、ZIP オプションを使用してください。送り先には、ファイルを展開して表示するための Zip プログラムが必要です。

- 3 この次の操作は、手順 2 での選択内容に応じて異なります。
  - レポートファイルの場合は [ファイル名] ボックスにレポート名を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、使用するファイル形式を選択します。PDF、Text、HTML、TIF、RTF ファイルのいずれかが選択できます。
  - テキスト/数値データ(および、採点中の場合は採点結果)の場合は [ファイル名] ボックスに名前を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、データに使用する形式を選択します。これらの形式については、メインの『Remark Office OMR ユーザズガイド』の 5.5.8 および 5.5.9 項で説明しています。テキスト/数値データを選択すると、ネイティブ形式を ZIP の添付ファイルとして送信できます。
  - Remark Quick Stats ファイルの場合は、[ファイル名] ボックスに名前を入力します。Remark Quick Stats の添付ファイルの形式は変更できません。
- 4 [OK] ボタンをクリックします。
- 5 Eメールのメッセージウィンドウが表示されます。
- 6 [宛先] ボックスに受信者の E メールアドレスを入力します。複数の宛先に送る場合は、セミコロン(;)で区切ります。
- 7 [差出人] ボックスに返信先として使用する E メールアドレスを入力します。
- 8 デフォルトの件名(ファイル名)をそのまま使用するか、または [件名] ボックスに新しく件名を入力します。
- 9 リッチテキストボックスに、受信者に宛てたメッセージの本文を入力します。ツールバーを使用して、メッセージの書式を自由に設定できます。
- 10 5.6.1 項で述べたように Remark Office OMR で SMTP 設定をすでに行っている場合は、[SMTP 設定] タブをクリックする必要はありません。SMTP 設定をまだ入力していない場合や、設定を変更する必要がある場合は、[SMTP 設定] タブをクリックして SMTP サーバ情報を入力してください。内容は、ネットワーク/Eメール管理者に問い合わせてください。
- 11 メッセージを送信できる状態になったら [送信] をクリックします。

E メールメッセージが自動的に送信されます。E メール機能を使用している場合、このファイルは Eメールの添付ファイルとしてのみ保存され、コンピュータ上に保管用のファイルが作成されるわけではありません。配信に問題が生じた場合、そのメールは、Eメールメッセージの [差出人] ボックスで指定したアドレスに送られます(これは、

SMTP サーバがメッセージ送信の失敗をどう処理するかという設定に応じて異なる場合があります)。

## 5.7 レポートバッチウィザード

Remark Quick Stats にはレポートバッチウィザードがあり、フォームテンプレートのフィールドに基づいて自動的にデータをフィルタリングしたり、複数のレポートを一度に表示/印刷したりすることができます。

注:エクスポートできるレポートのタイプについては、これまでに説明しました。レポートバッチウィザードでは、PDF、HTML、Excel、TIF、Text、RTF レポートのみエクスポート可能です。

データの自動フィルタリングを使用すると、テンプレート(データセット)のフィールドから 3 つまでをフィルタリングのベースとして選択できます。指定したフィールドのデータが変更された場合は、いつでも新しいレポートを生成できます。たとえば、カリッジコースを査定するコース評価調査を処理する場合、各評価の講師名を取得できます。講師別に結果を確認したい場合、講師のフィールドでの自動フィルタリングも設定できます。この場合、各講師に対してそれぞれ新しいレポートが生成されます。

レポートバッチウィザードを自動フィルタリングに使用するには

- 1 簡易採点、採点ウィザード、簡易調査、調査ウィザードのいずれかを実行して Remark Quick Stats を起動します。
- 2 [Remark Quick Stats] ウィンドウで、[ツール]メニューを選択してから [レポートバッチウィザード] をクリックします。あるいは、タスクペイン内で [レポートバッチの作成] リンクを選択してもかまいません。

注:レポートバッチファイルをすでに作成していた場合は、タスクペインで [参照] を選択できます。
- 3 [自動フィルタレポート] のチェックボックスをマークします。
- 4 [フィルタ] ドロップダウンリストで、フィルタに使用するフィールドをフォームテンプレート(データセット)から選択します。このフィールドで新しい値が発見されると、いつでも新しいレポートを生成できます。

注:データはバックグラウンドで並べ替えられるので、論理的に関連しているデータは 1 つのレポートに表示されます。
- 5 必要に応じて、データをフィルタリングするフィールドをあと 2 つまで選択できます。
- 6 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。

- 7 各フィルタに対して実行したいレポートを選択します。レポートをダブルクリックして選択するか、または[>]ボタンを使用して、[選択したレポート] ボックスにレポートを移動します。
- 注:ユーザの入力が必要なレポートを選択した場合(たとえば、どのフィールドをレポートに使用するかをソフトウェアに対して指定しなければならないような回答者レポート)、レポートを生成する際に1度プロンプトが表示されます。
- 8 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 9 レポートを印刷する場合は、[レポートの印刷] チェックボックスをマークします。  
[プロパティ] ボタンを使用して、プリンタを選択して設定します。また、印刷する部数を選択したり、個々のレポートを印刷する前にプリンタ設定ダイアログを表示するかどうか(たとえば、一部のレポートのみ両面印刷にして他はしないような場合)も選択できます。
- 10 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 11 レポートを PDF、HTML、Excel、TIF、テキスト、RTF 形式のいずれかにエクスポートする場合は、[レポートのエクスポート] チェックボックスをマークします。
- 12 [エクスポート形式] ドロップダウンリストを使用して、使用する形式を選択します。各エクスポート形式に対して使用可能なオプションについては、前項で詳細に説明しました。
- 13 必要に応じて、[選択したレポートを全てマージ] チェックボックスをマークします。レポートをマージする場合、個々のレポートを集めて1つのファイルが作成されます。ファイルをマージしない場合、各レポートは、フィールド名で指定した個別のフォルダの中に作成されますたとえば、前述の例のようにコース評価を処理しており、レポートをマージしていない場合は、各講師の名前でフォルダが作成され、そのフォルダに各講師のレポートが保存されます。
- 14 必要に応じて、[全てのレポートを1つのフォルダに保存] チェックボックスをマークします。このオプションを選択すると、ファイルはすべて同じフォルダに保存され、フィルタごとの個別フォルダには保存されません。フィルタがファイル名の一部になります。
- 15 [完了] ボタンをクリックしてレポートを実行します。
- 16 レポートバッチウィザードの設定ファイルを保存して、後でできるようにするかどうか確認されます。[はい] をクリックしてファイルを保存します。
- 17 ファイルの位置とファイル名を指定して、[保存]ボタンをクリックします。

レポートバッチウィザードで選択した動作が開始されます。動作が完了するとメッセージが表示されます。

## レポートバッチウィザードをレポートの印刷とエクスポートに使用するには

- 1 簡易採点、採点ウィザード、簡易調査、調査ウィザードのいずれかを実行して **Remark Quick Stats** を起動します。
- 2 **Remark Quick Stats** ウィンドウで、[ツール]メニューを選択してから [レポートバッチウィザード] をクリックします。あるいは、タスクペイン内で [レポートバッチの作成] リンクを選択してもかまいません。  

注: レポートバッチファイルをすでに作成していた場合は、タスクペインで [レポートバッチを開く] を選択できます。
- 3 自動的にデータをフィルタリングする場合は、[自動フィルタレポート] チェックボックスをマークします。この操作については、この項で前述しました。
- 4 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 5 実行したいレポートを選択します。レポートをダブルクリックして選択するか、または[>]ボタンを使用して、[選択されたレポート] ボックスにレポートを移動します。  

注: ユーザの入力が必要なレポートを選択した場合(たとえば、どのフィールドをレポートに使用するかをソフトウェアに対して指定しなければならないような回答者レポート)、レポートを生成する際に 1 度プロンプトが表示されます。
- 6 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 7 レポートを印刷する場合は、[レポートの印刷] チェックボックスをマークします。  
[プロパティ] ボタンを使用して、プリンタを選択して設定します。また、印刷する部数を選択したり、個々のレポートを印刷する前にプリンタ設定ダイアログを表示するかどうか(たとえば、一部のレポートのみ両面印刷にして他はしないような場合)も選択できます。
- 8 [次へ>>] ボタンをクリックして操作を続けます。
- 9 レポートを PDF、HTML、Excel、TIF、テキスト、RTF 形式のいずれかにエクスポートする場合は、[レポートのエクスポート] チェックボックスをマークします。
- 10 [エクスポート形式] ドロップダウンリストを使用して、使用する形式を選択します。各エクスポート形式に対して使用可能なオプションについては、前項で詳細に説明しました。
- 11 必要に応じて、[選択したレポートを全てマージ] チェックボックスをマークします。レポートをマージする場合、個々のレポートを集めて 1 つのファイルが作成されます。ファイルをマージしない場合、各レポートは、フィールド名で指定した個別のフォルダの中に作成されますたとえば、前述の例のようにコース評価を処理しており、レポートをマージしていない場合は、各講師の名前でフォルダが作成され、そのフォルダに各講師のレポートが保存されます。
- 12 必要に応じて、[全てのレポートを 1 つのフォルダに保存] チェックボックスをマークします。このオプションを選択すると、ファイルはすべて同じフォルダに保存

され、各フィルタの個別フォルダには保存されません。フィルタがファイル名の一部になります。

**13** [完了] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

**14** レポートバッチウィザードの設定ファイルを保存して、後で使えるようにするかどうか確認されます。[はい] をクリックしてファイルを保存します。

**15** ファイルの位置とファイル名を指定して、[保存]ボタンをクリックします。


レポートバッチウィザードで選択した動作が開始されます。動作が完了するとメッセージを受け取ります。

## 5.8 レポートを開く

RQS 形式で保存したレポートは、**Remark Quick Stats** で開くことができます。レポートの保存については、5.4 項「レポートの保存」で詳しく説明しています。レポートを RQS 形式で保存すると、レポートと、そのレポートの生成に使用されたデータが保存されます。このレポートは、**Remark Quick Stats** のデータ表示領域から開くことができます。このファイルは表示や印刷ができます。また、ファイル内にデータが含まれているので、さらにレポートを実行することもできます。

### Remark Quick Stats ファイル(RQS)を開くには

**1** **Remark Quick Stats** でデータ表示領域に移動し、[ファイル]メニューを選択してから

ら [開く] をクリックするか、または  をクリックします。

**2** .rqs ファイルを指定してから [OK] ボタンをクリックしてファイルを開きます。


レポートが画面に表示されます。このファイルには、レポートと、そのレポートの生成に使用したデータが含まれています。そのため、この情報に基づいて別のレポートを実行できます。

## 5.9 スクリーンキャプチャ

レポートのどの部分でも、スクリーンキャプチャを作成して **Windows** のクリップボードに保存できます。スクリーンキャプチャは、クリップボードから別のアプリケーションに貼り付けることができます。この機能を使用すると、チャートやグラフを別のアプリケーションで簡単に利用できます。たとえば、結果をまとめて **Microsoft PowerPoint** でプレゼンテーションするとします。**Remark Quick Stats** でグラフを作成し、それをキャプチャして **PowerPoint** のプレゼンテーションに挿入できます。スクリーンキャプチャは、**Remark Quick Stats** でレポートを表示している場合にのみ利用できます。



### スクリーンキャプチャを作成するには

- 1 目的のレポートを画面に表示した状態で、[ツール] メニューから [スクリーンキャプチャ] を選択し、 をクリックするか、またはキーボードで [Ctrl+T] キーを押します。

マウスの形状が十字型に変わります。

- 2 マウスの左ボタンを押しながら、キャプチャする部分を囲むようにマウスをドラッグします。その部分を囲むボックスが表示され、そのボックス内部の表示がすべてスクリーンキャプチャに入ります。レポートページのどの部分でも(ページ全体でも)キャプチャできます。スクリーンキャプチャを作成する前に、目的の部分をズームするか、またはそこまでスクロールしなければならない場合があります。

ヒント: ページ内でキャプチャできる部分を広げるには、ツールバーのズームオプションを使用して、レポートを縮小してください。

- 3 キャプチャしたい部分をマウスで囲んだら、マウスのボタンを離します。  
スクリーンキャプチャが成功したというメッセージが表示されます。
- 4 スクリーンキャプチャは、Windows のクリップボードに入っています。使用するアプリケーションを起動し、挿入ポイントを選択して、そのアプリケーション内にイメージを貼り付けます( [Ctrl+V] キーを押すか、またはそのアプリケーションの貼り付け機能を使用します)。

